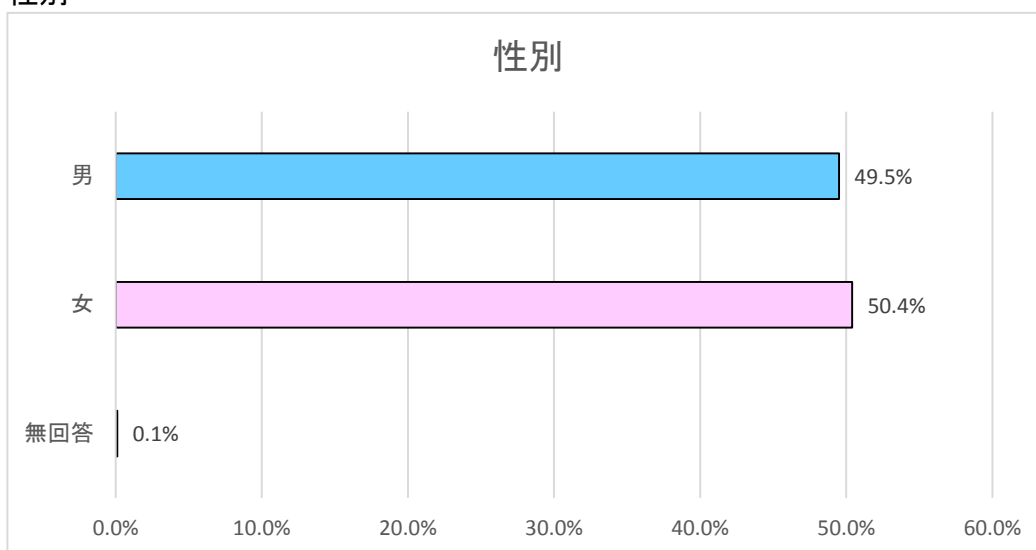


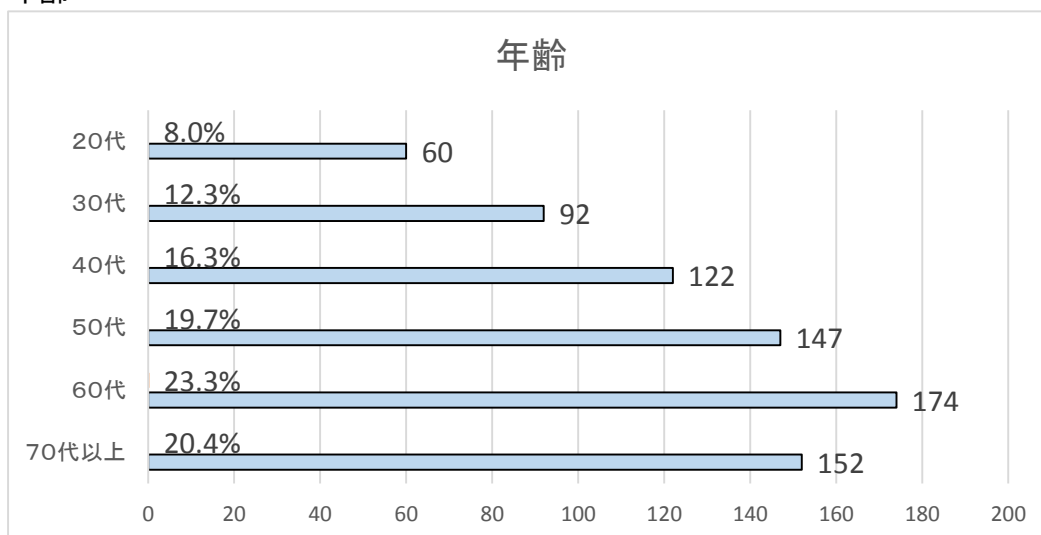
Ⅱ 調査結果の詳細

1 回答者の属性

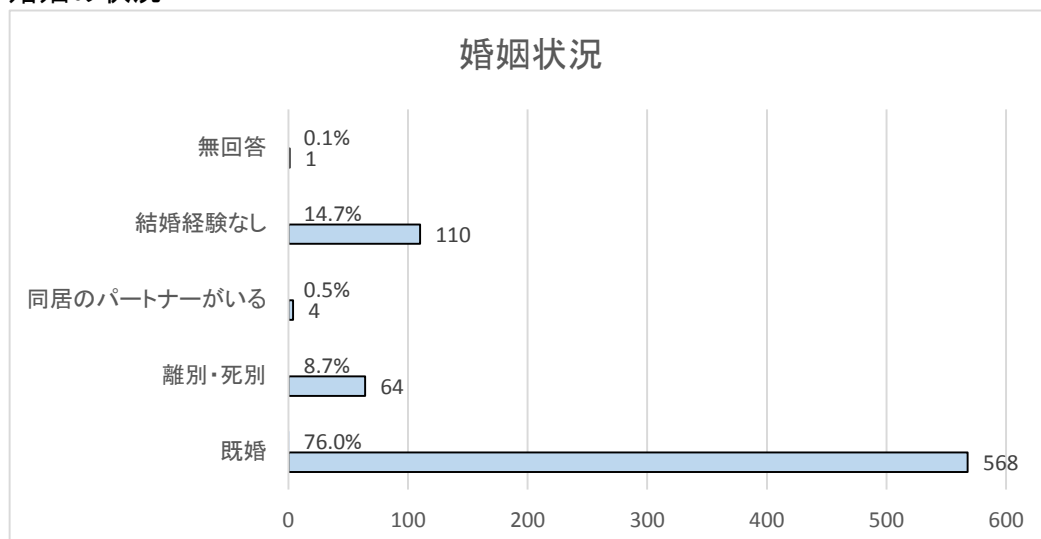
問1 性別



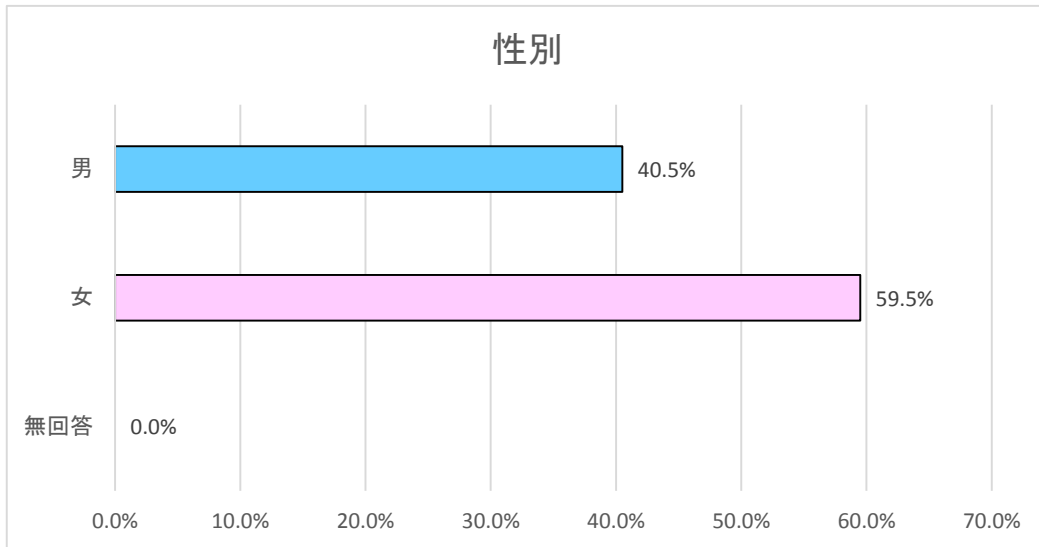
問2 年齢



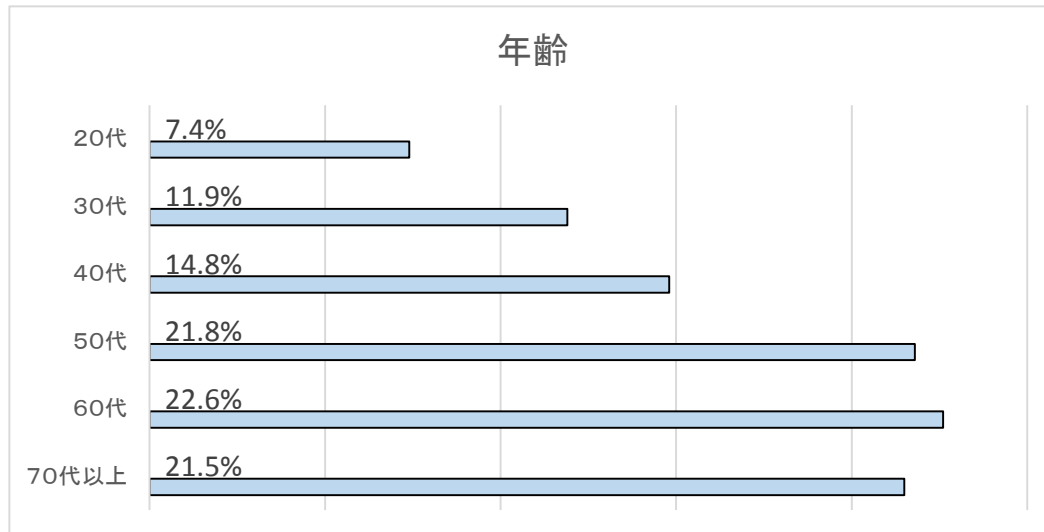
問3 婚姻の状況



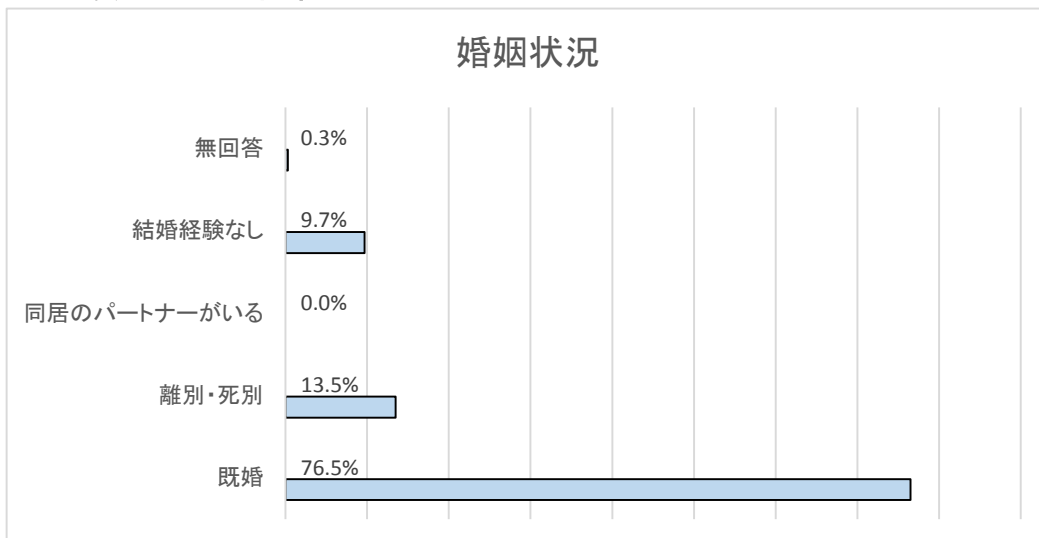
問1 H18年度アンケート結果



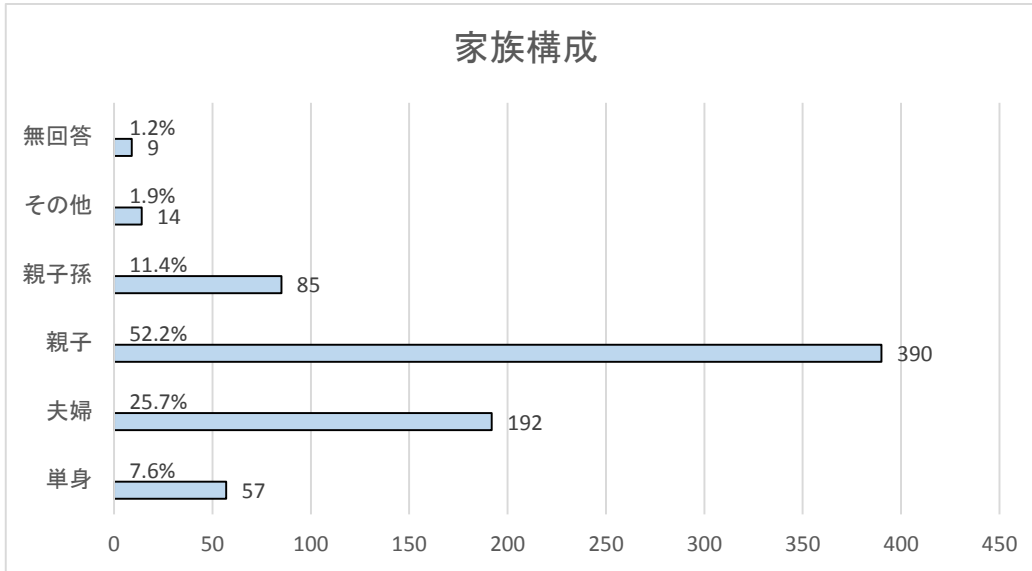
問2 H18年度アンケート結果



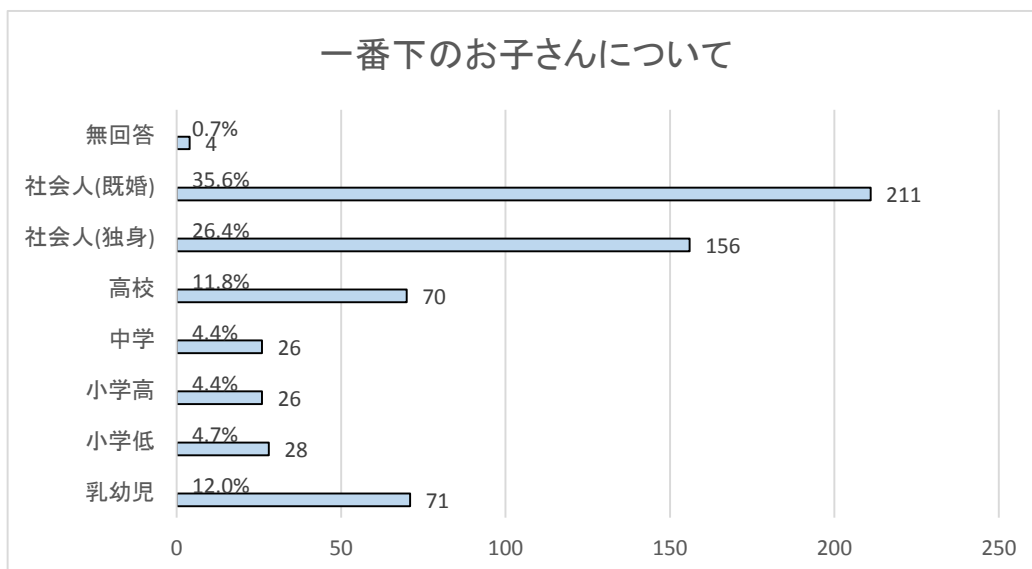
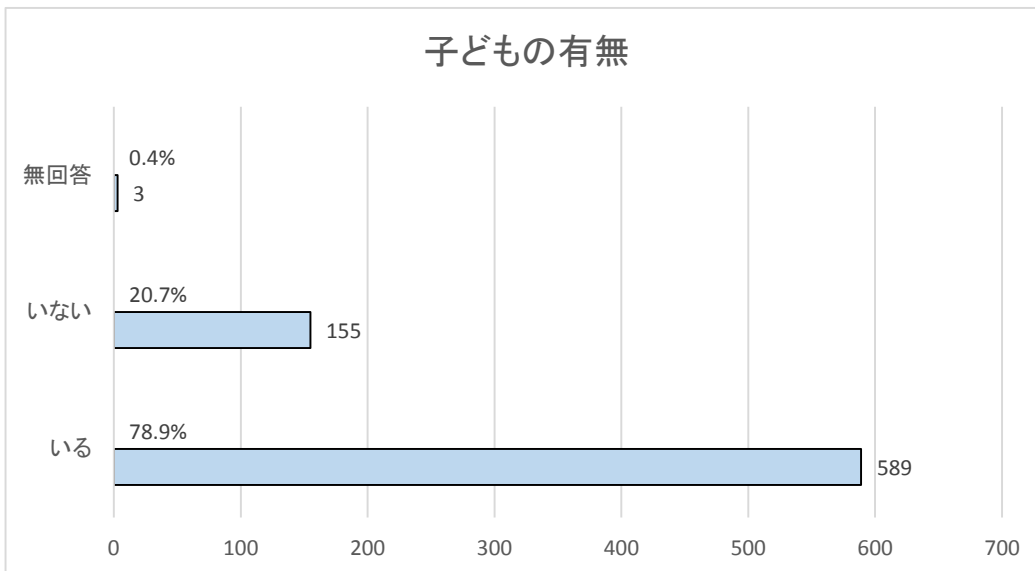
問3 H18年度アンケート結果



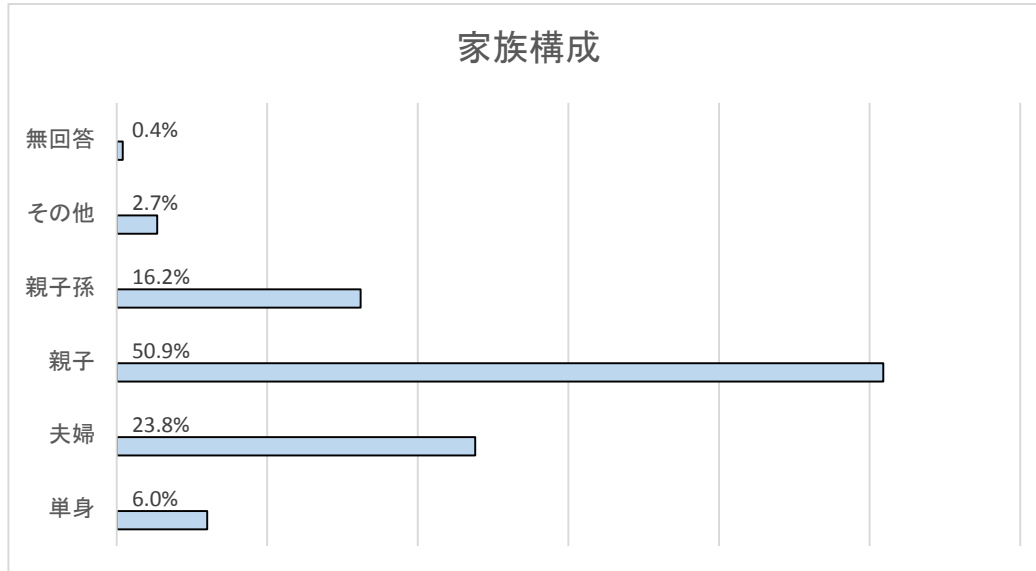
問4 家族構成



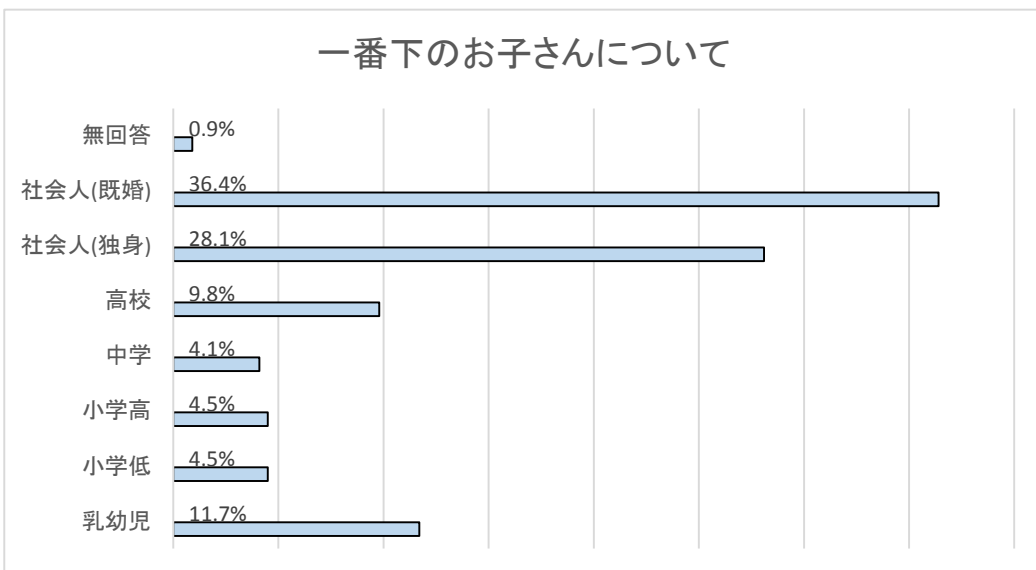
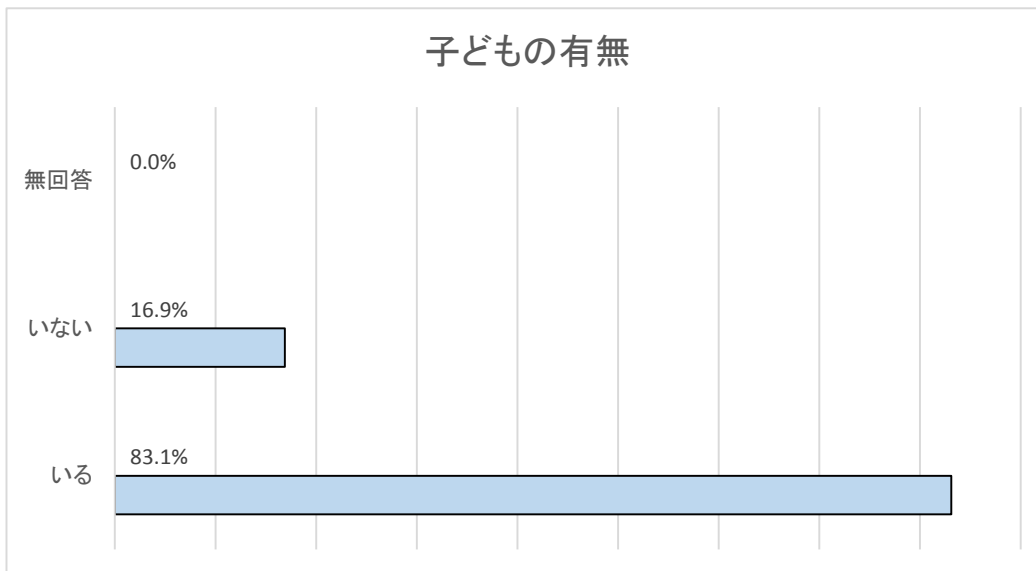
問5 子どもの有無



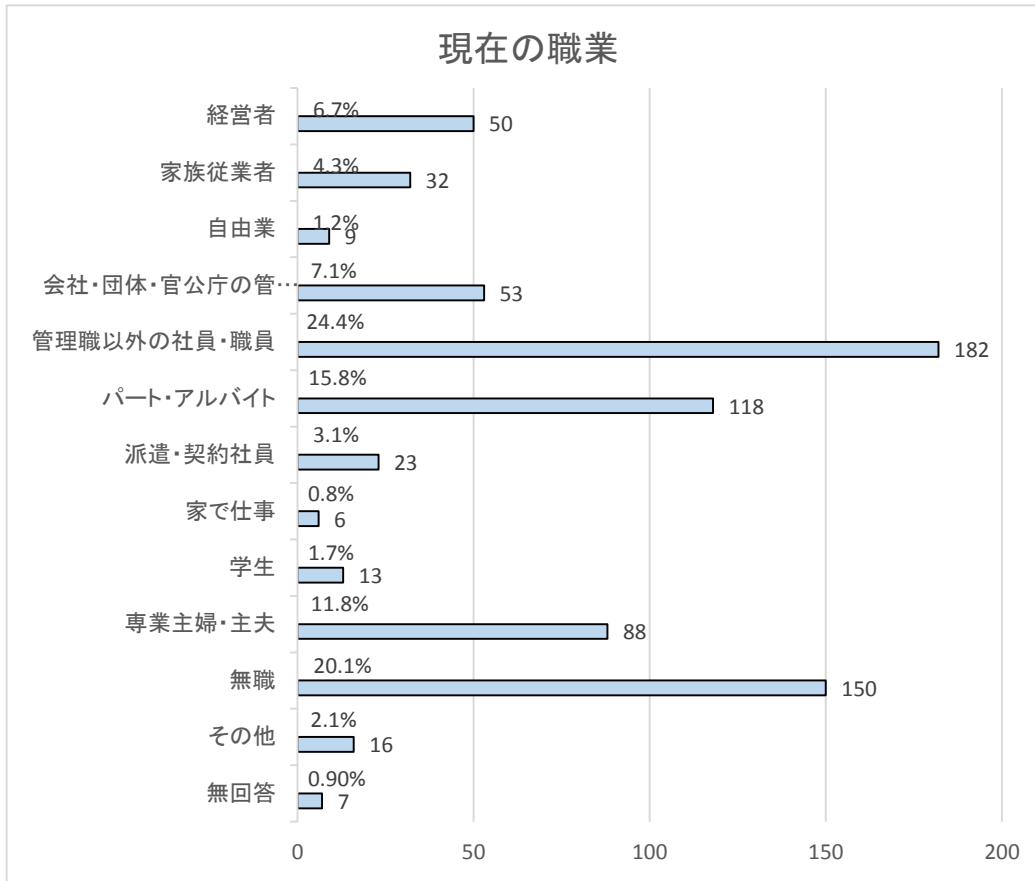
問4 H18年度アンケート結果



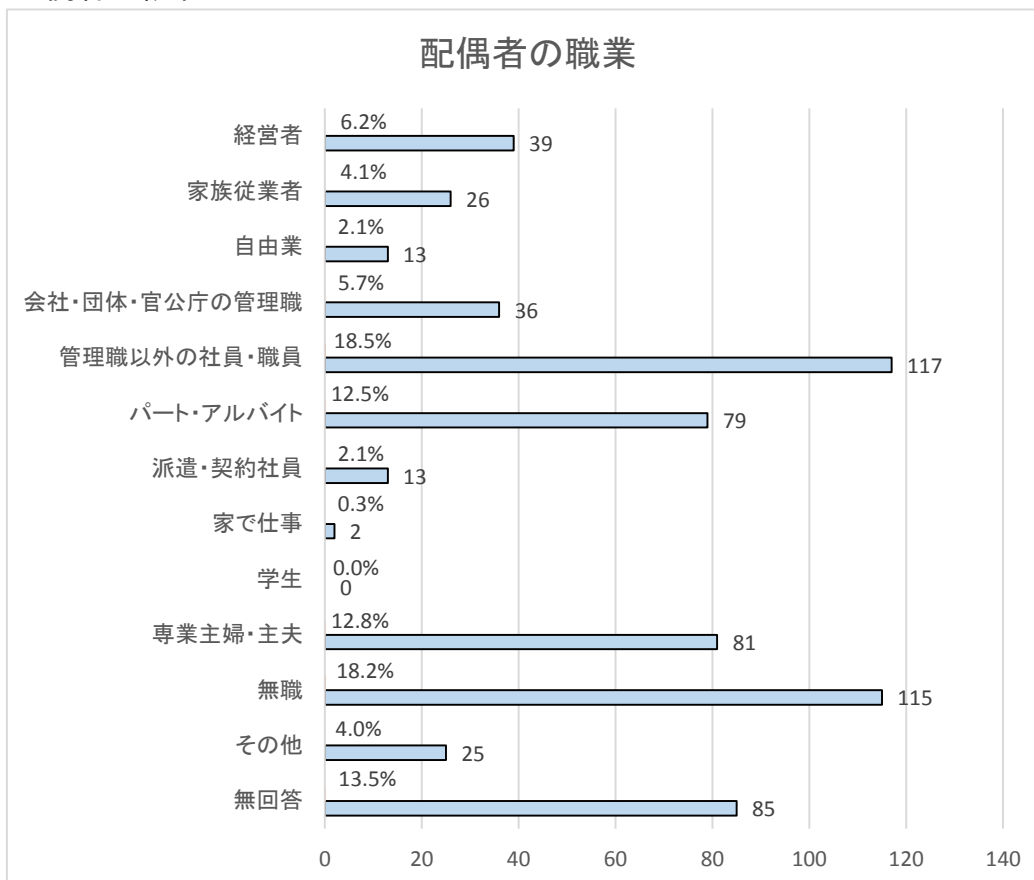
問5 H18年度アンケート結果



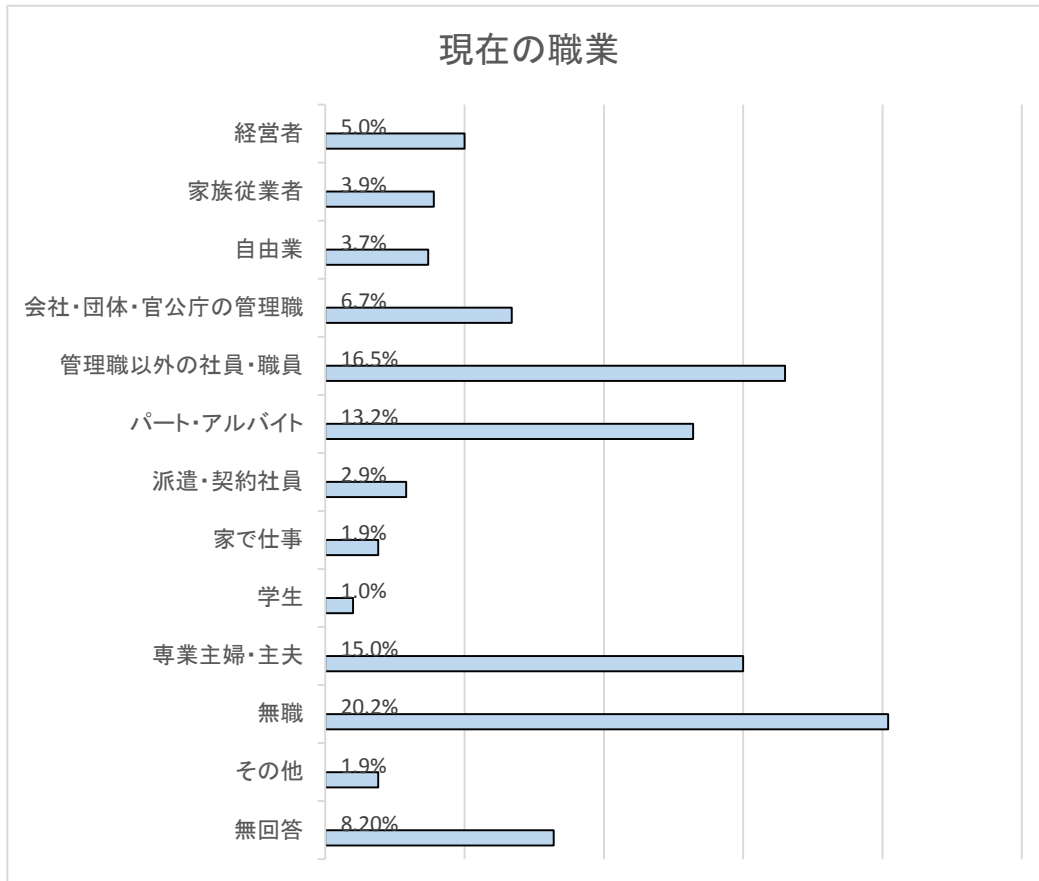
問6 職業



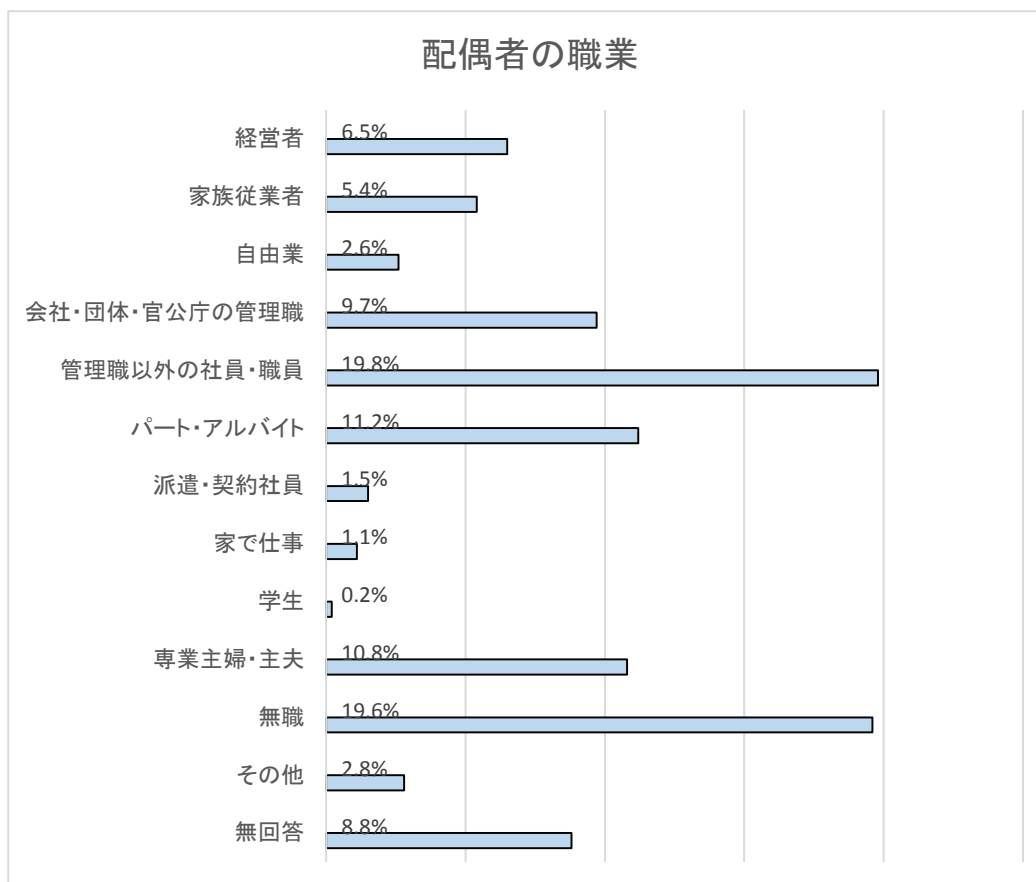
問7 配偶者の職業



問6 H18年度アンケート結果



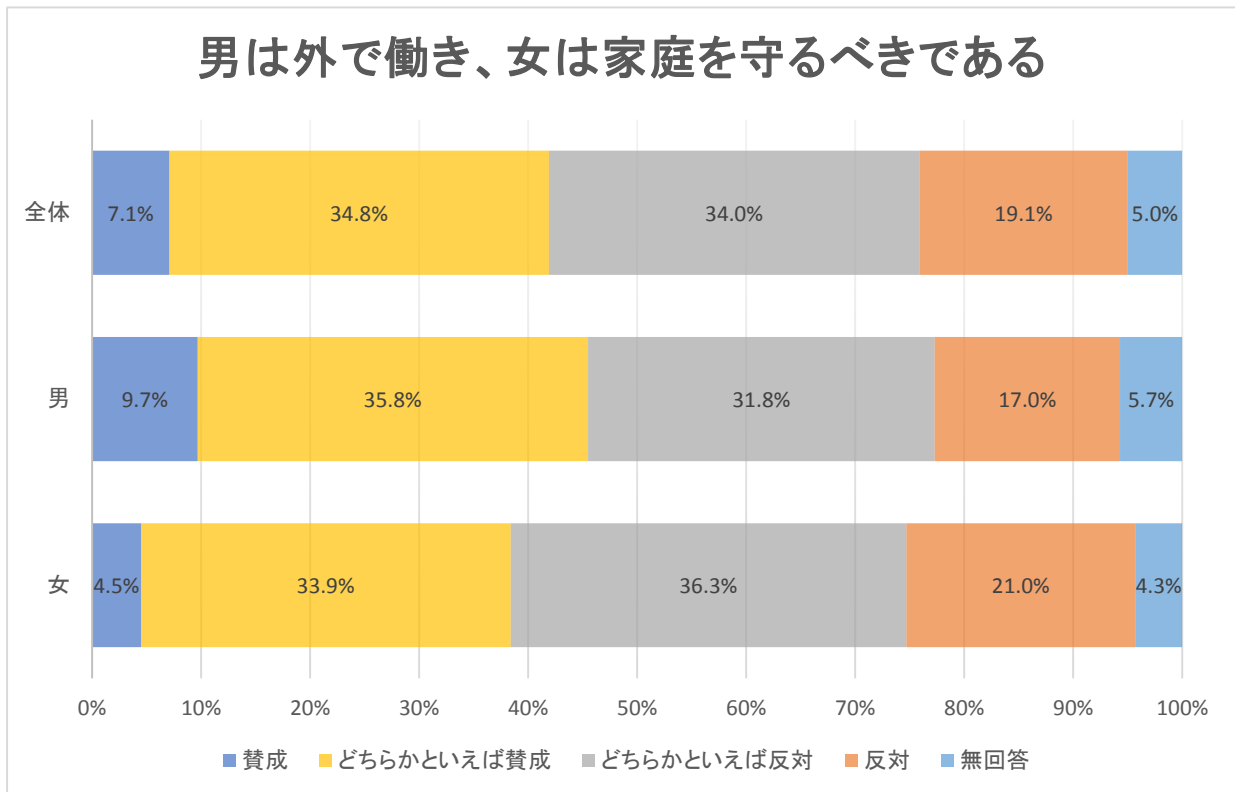
問7 H18年度アンケート結果



2 家庭生活について

問8 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方をあなたはどのように思いますか。
(1つに○)

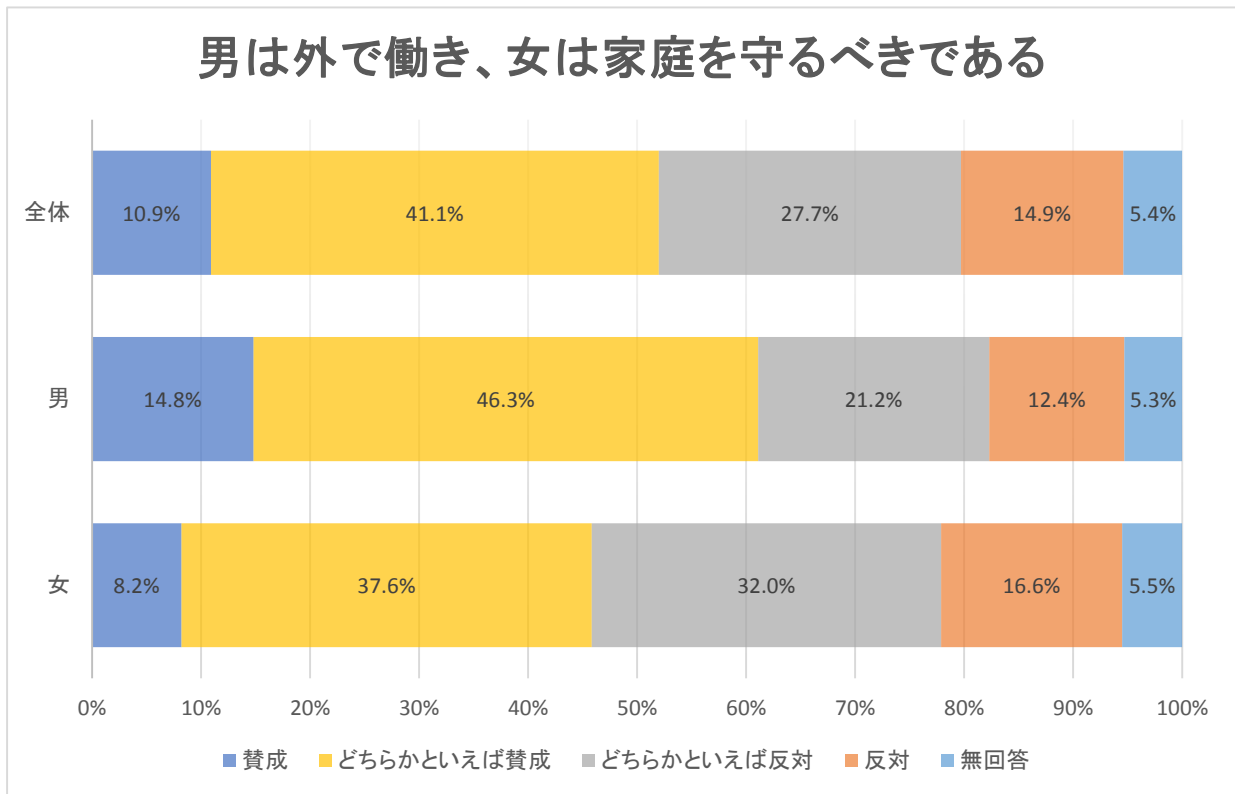
「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識は、全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた割合（以後「賛成派」という）(41.9%)を、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた割合（以後「反対派」という）(53.1%)が上回った。男性の賛成派(45.5%)に対し反対派(48.8%)、女性も賛成派(38.4%)に対し反対派(57.3%)と、男女とも反対派が賛成派を上回ったが、女性よりも男性の性別役割分担意識が強いと考えられる。



問8 H18年度アンケート結果

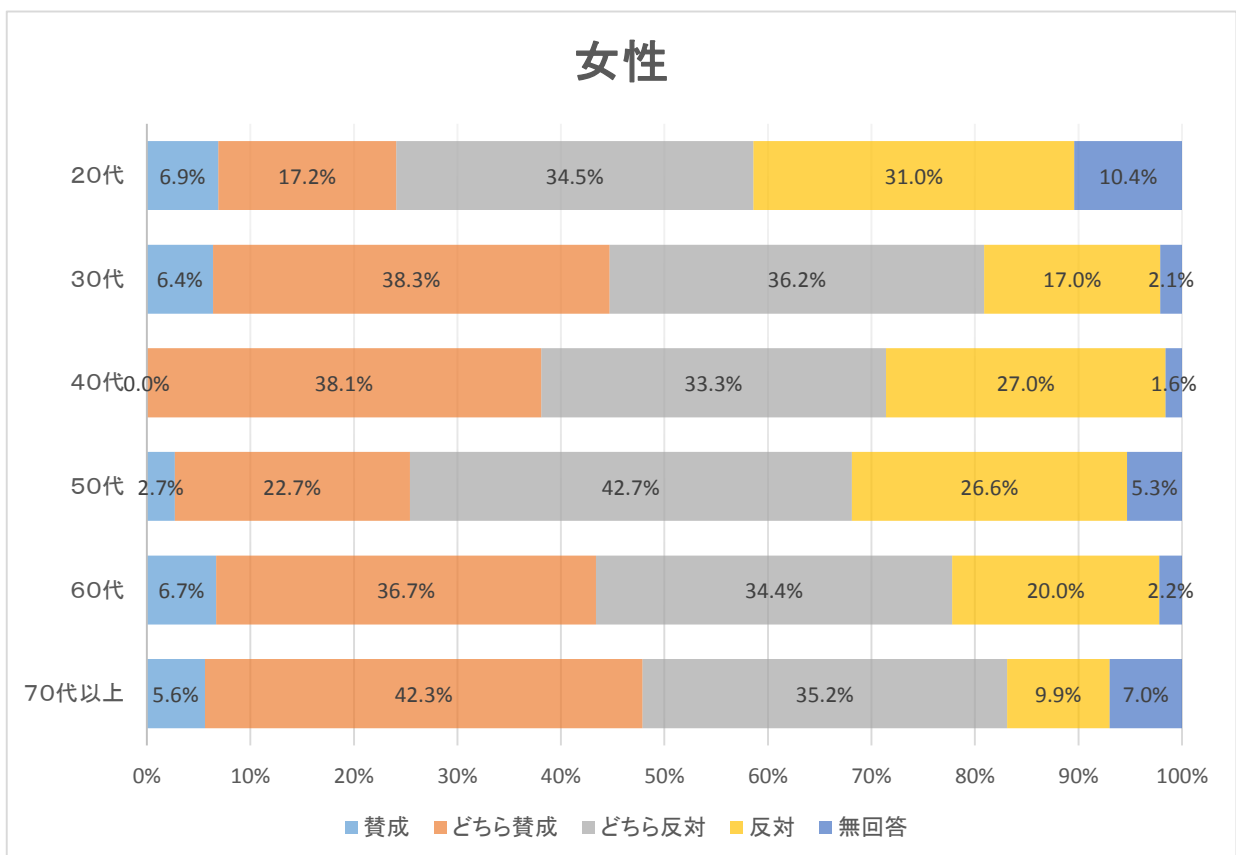
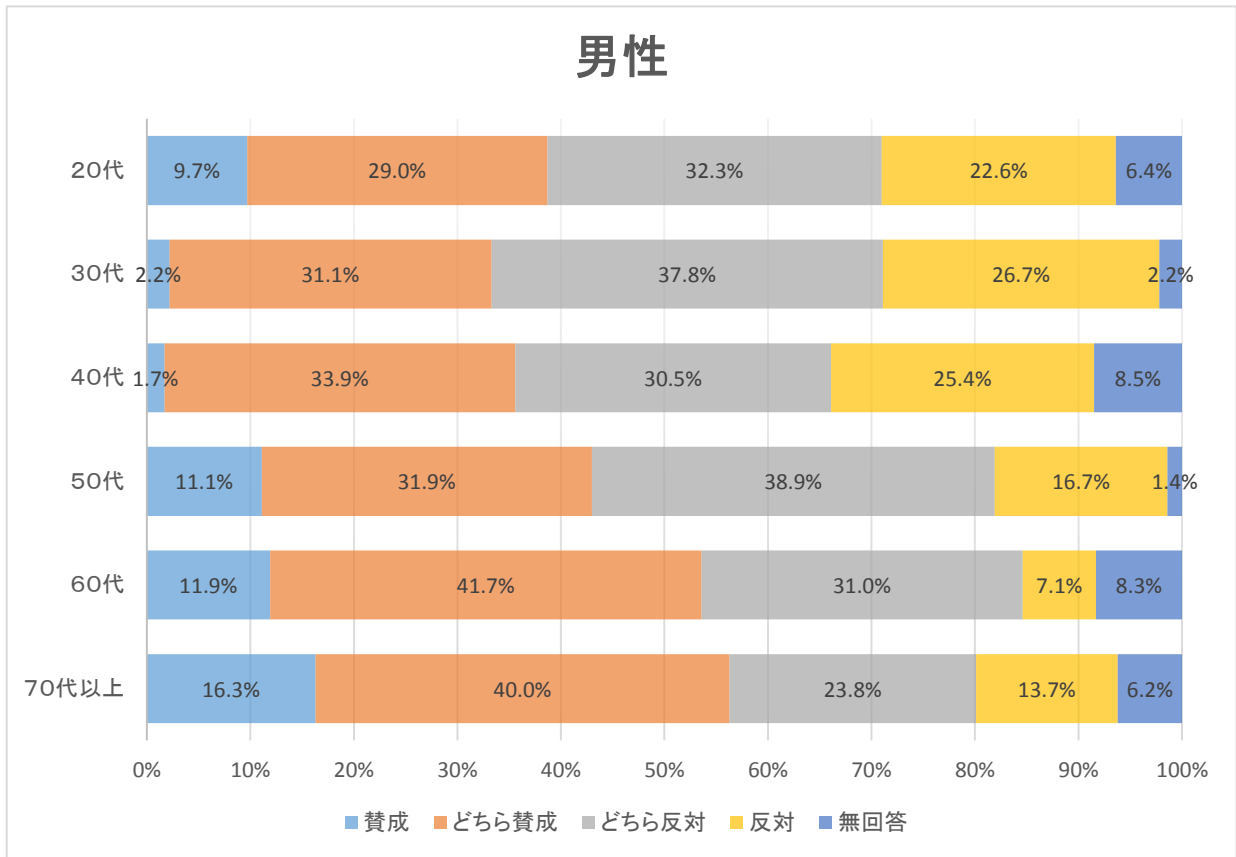
《平成18年度との比較》

全体で賛成派(52.0%)が反対派(42.6%)を上回っていたのに対し、今回は賛成派(41.9%)を反対派(53.1%)が上回っている。男女別にみても、賛成派を反対派が上回っており、性別役割分担意識は減少傾向にあると考えられる。



① 性別・年代別にみる「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方

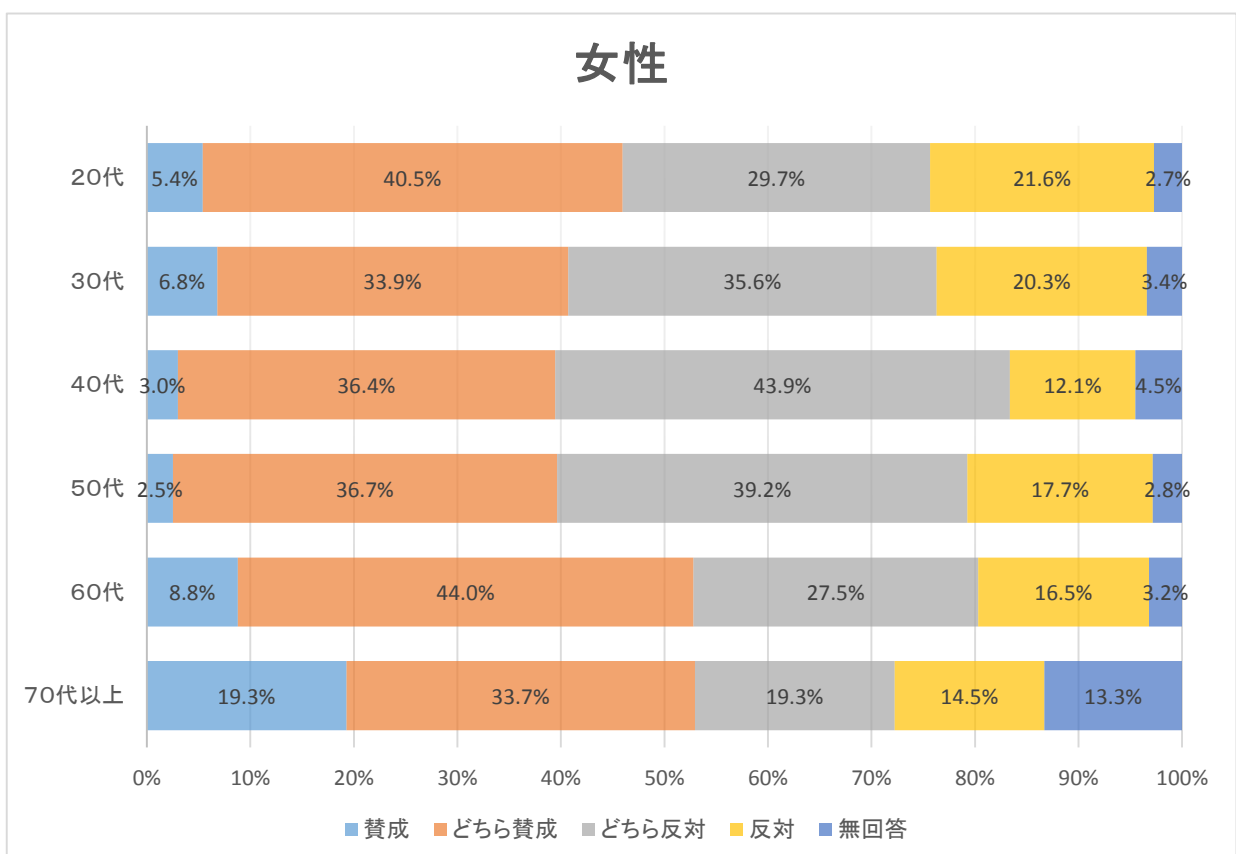
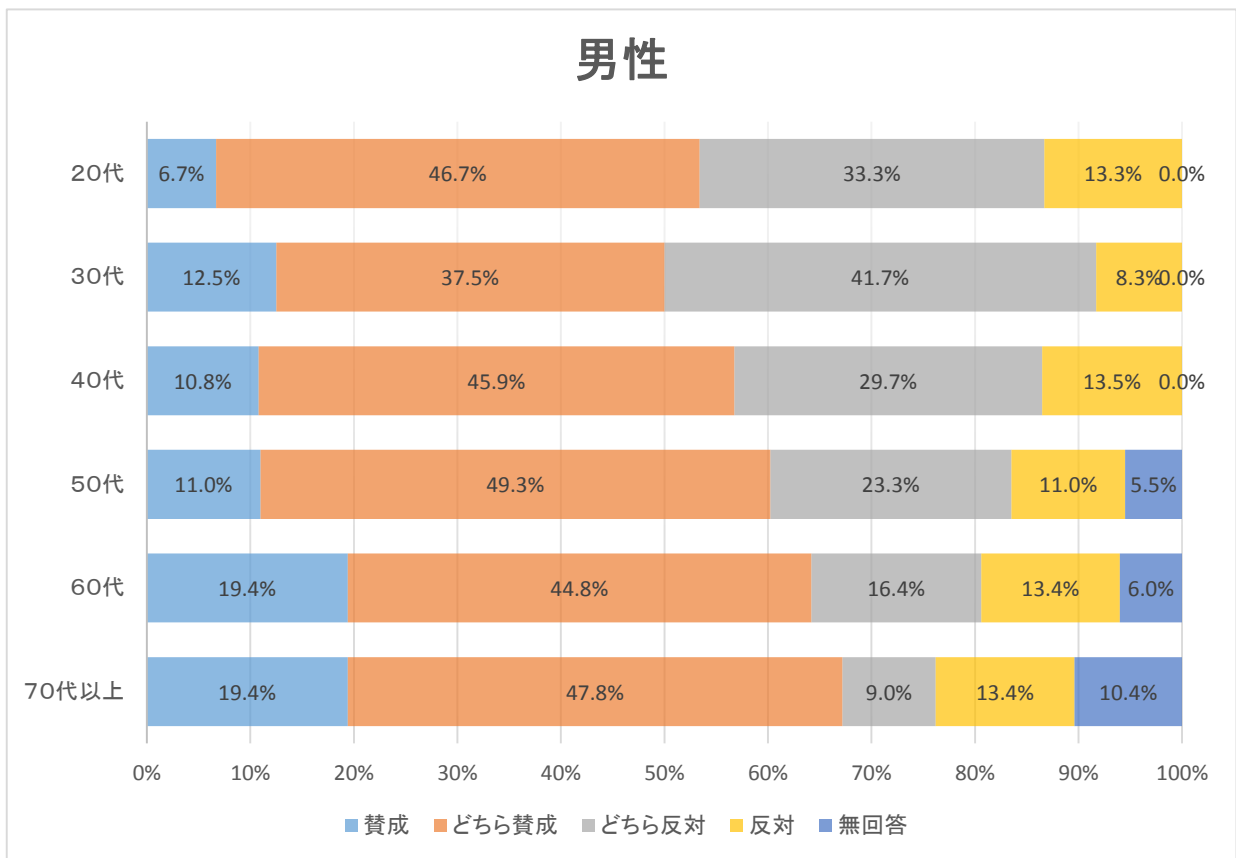
男女とも年代が低くなるにつれ賛成派が減少する。性別で役割を分担する意識は年齢とともに強くなる傾向がみられる。



① H18年度アンケート結果

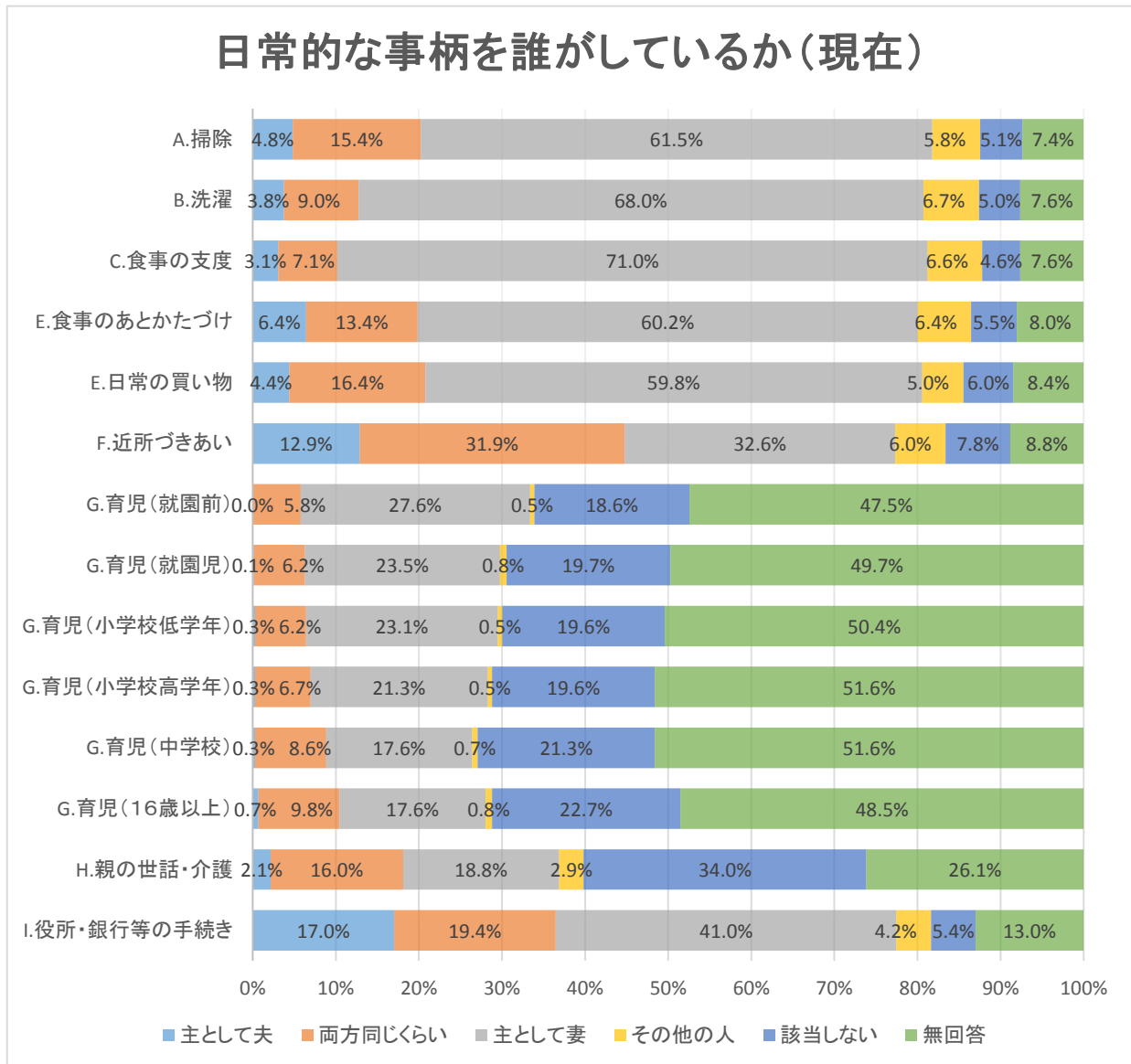
《平成18年度との比較》

平成18年の調査では、男性は全ての年代で賛成派が50%以上だったが、今回の調査では、20～50代で50%を下回り、60～70代も賛成派が10%以上減っている。



問9 次のような日常的な事柄は、現在主に誰がしていますか。また、希望としては誰がした方がいいと思いますか。

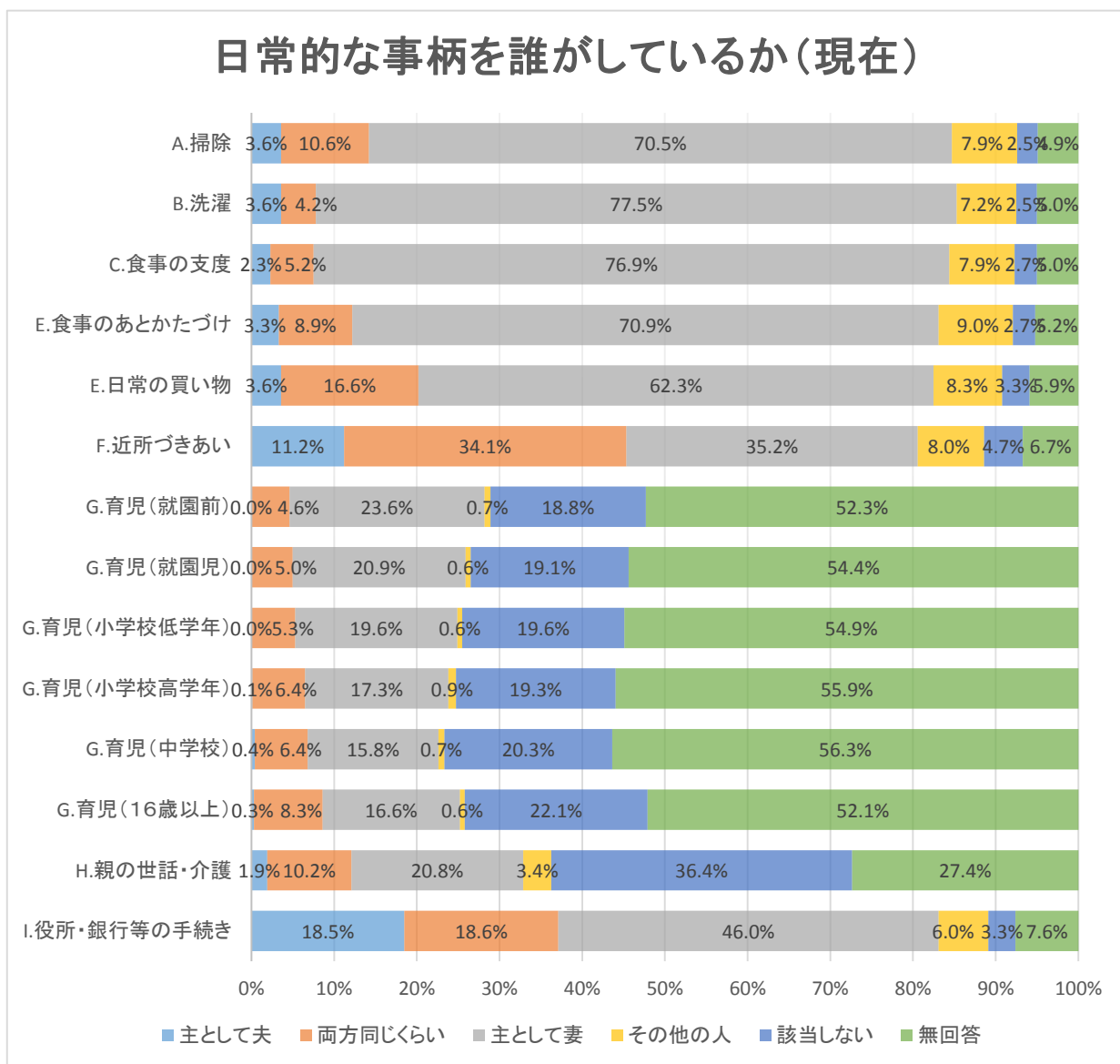
「掃除」(61.5%)、「洗濯」(68.5%)、「食事の支度」(71.0%)、「食事のあとかたづけ」(60.2%)、「日常の買い物」(59.8%)など、ほとんどの項目で、妻が家事の役割の多くを担っている。「主として夫」は、「役所・銀行等の手続き」(17.0%)、「近所づきあい」(12.9%)、「食事のあとかたづけ」(6.4%)がやや高いものの、他の項目は5%以下にとどまり、夫の役割は少ない。



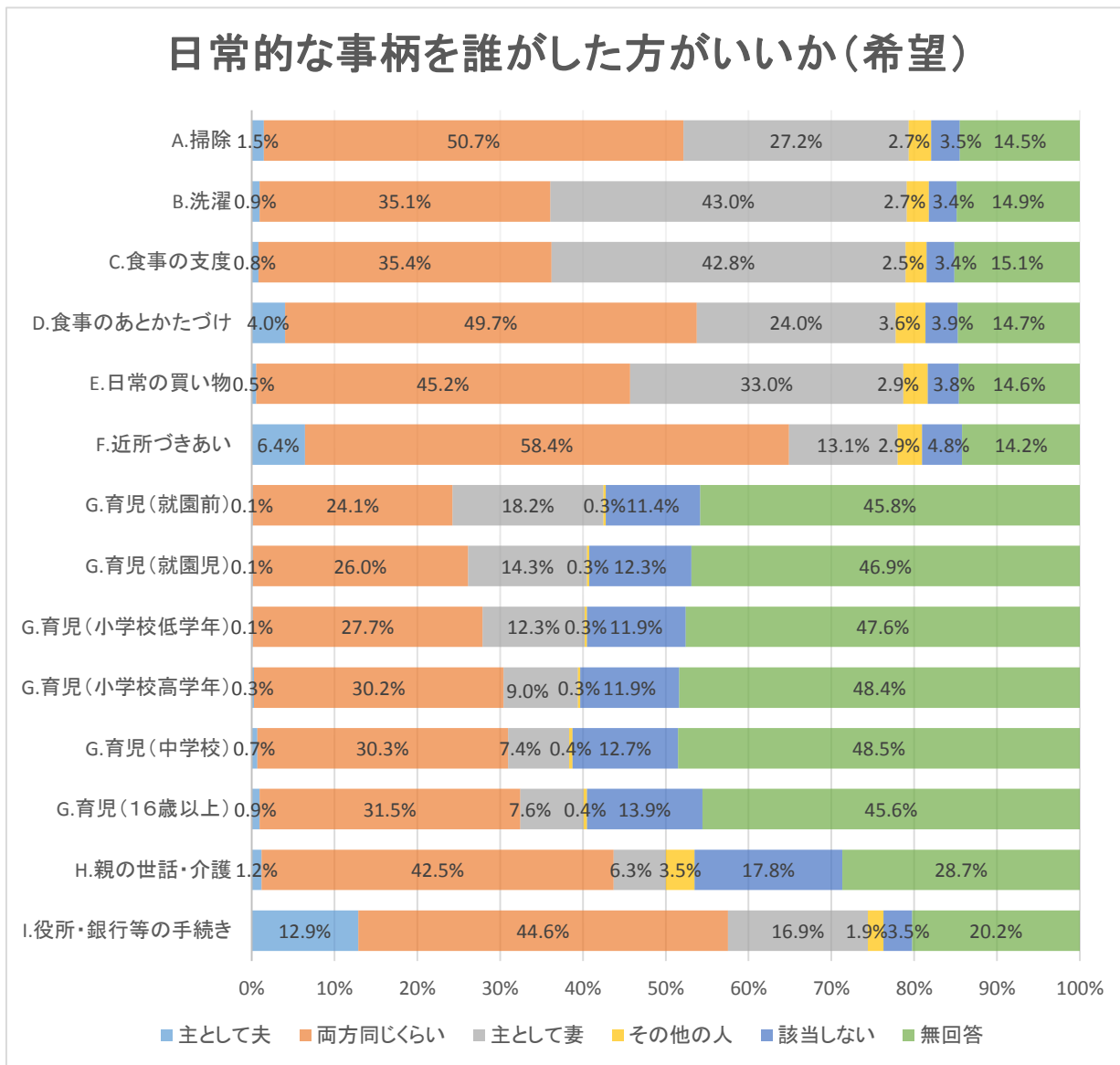
問9 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

「掃除」(70.5%)、「洗濯」(77.5%)、「食事の支度」(76.9%)、「食事のあとかたづけ」(70.9%)、「日常の買い物」(62.3%)などと比べると、ほとんどの項目で、妻の負担割合は減少傾向にはあると考えられるが、依然として、妻が家事の役割の多くを担っている。

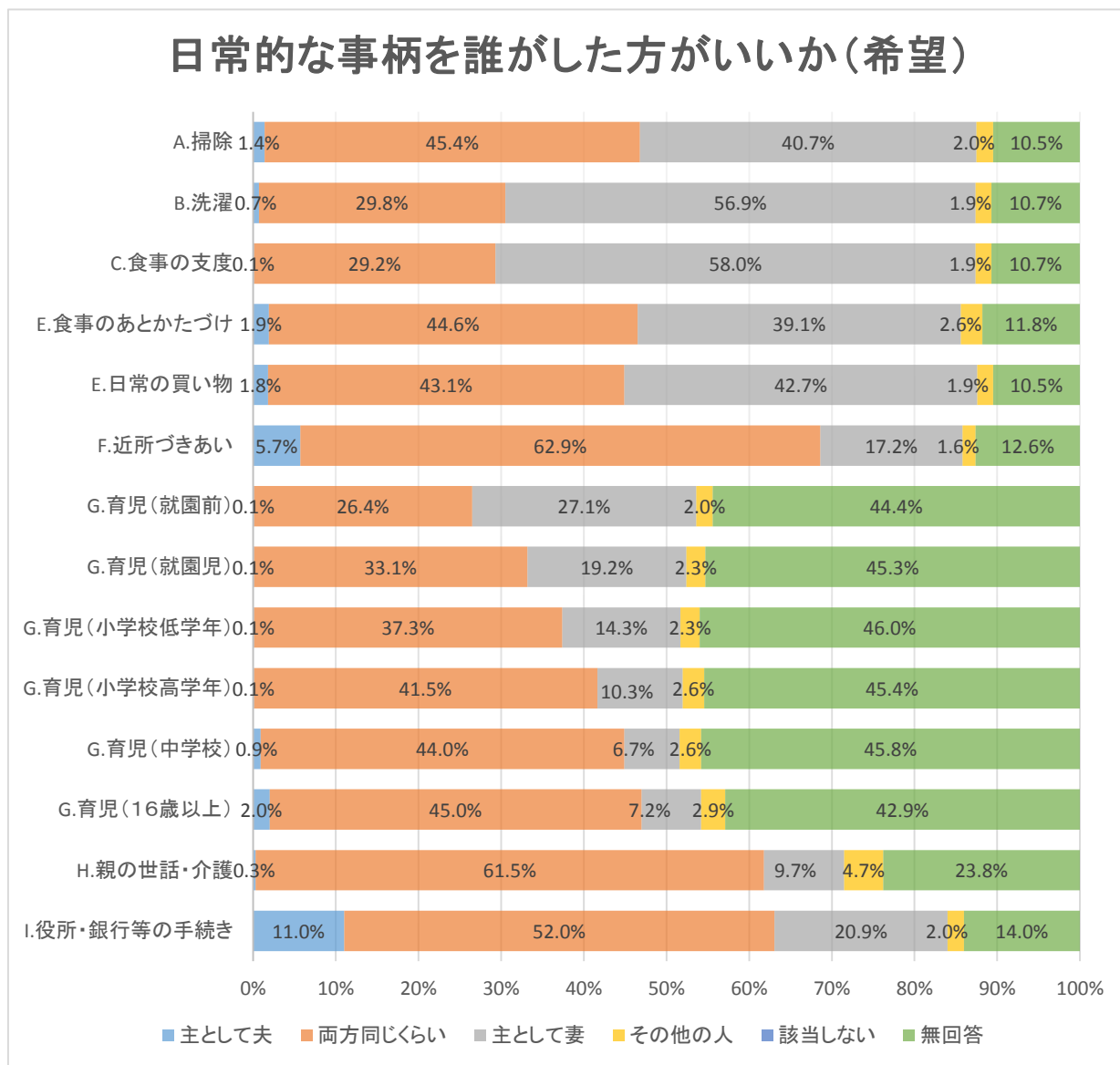


「掃除」(50.7%)、「食事のあとかたづけ」(49.7%)、「日常の買い物」(45.2%)、「近所づきあい」(58.4%)、「役所・銀行等の手続き」(44.6%)は、「両方同じくらい」が約半数を占める。一方で「洗濯」「食事の支度」においては、「両方同じくらい」より「主として妻」の割合が高くなっている。



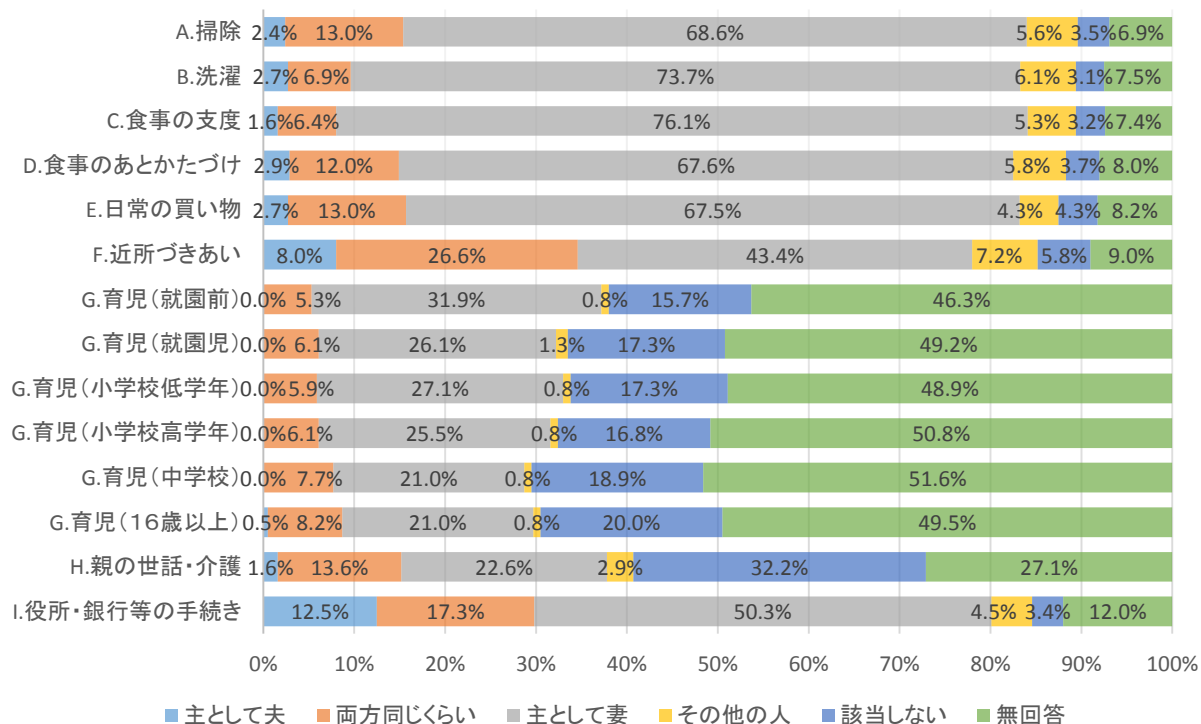
《平成18年度との比較》

全体的に、「主として妻」が減少し、「両方同じくらい」が増加する傾向にあるが、大きな変化はみられない。

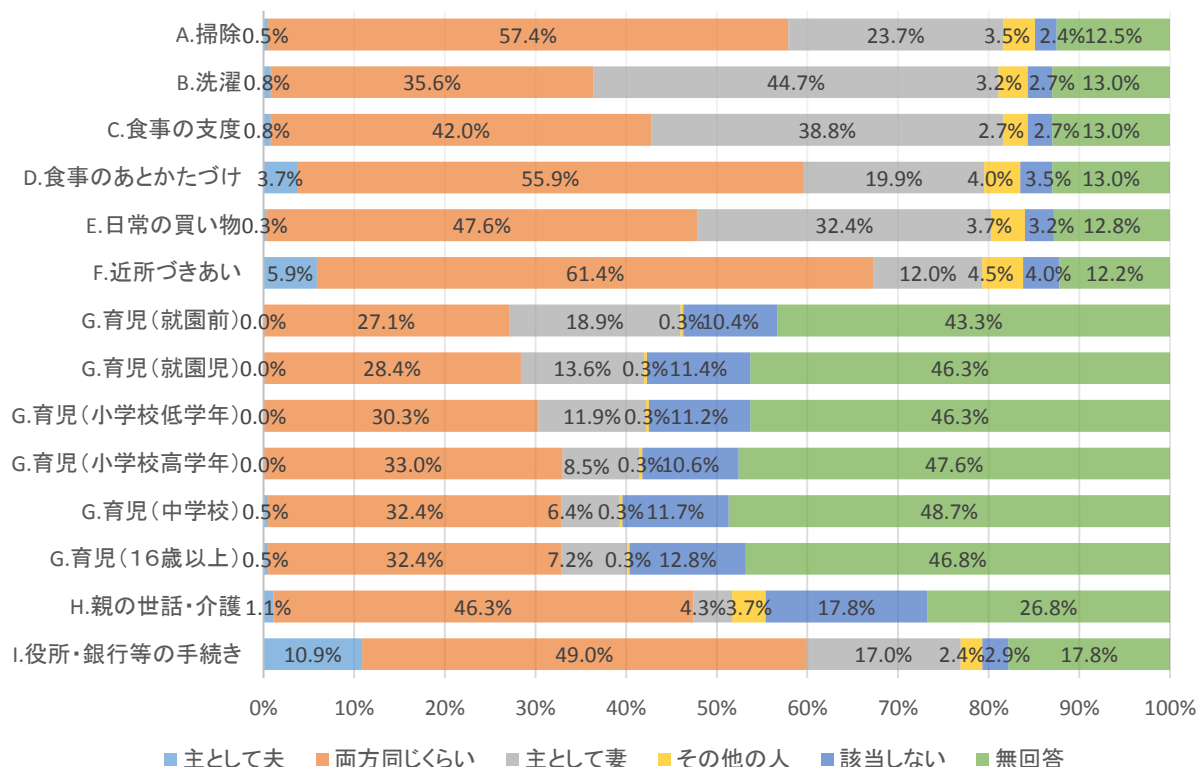


性別で役割分担を見ると、男女間の役割分担に大きな差があることが分かる。「現在」では全体的に「主として妻」の割合が高く、「希望」では男女ともに「両方同じくらい」の割合が大きく増え、男性も意識としては同じくらい分担すべきと考えていることが分かる。

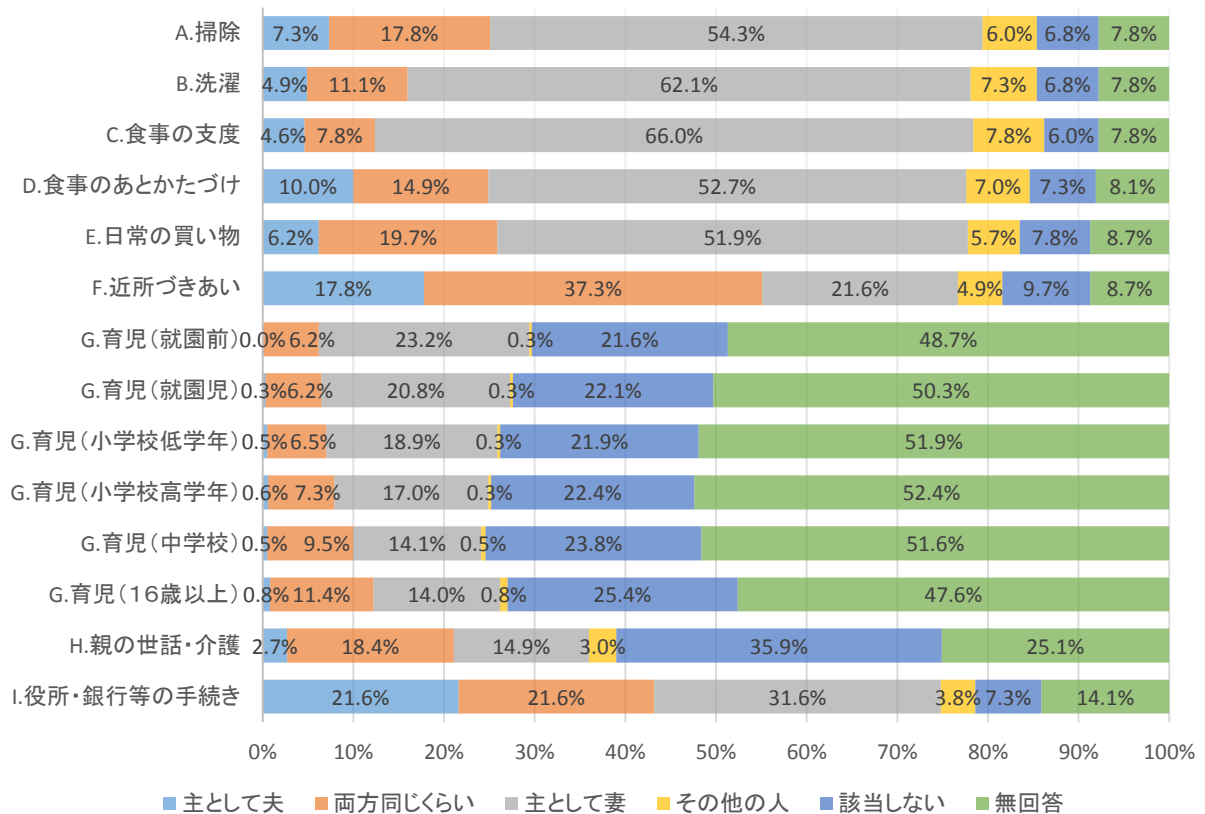
日常的な事柄を誰がしているか(現在:女性)



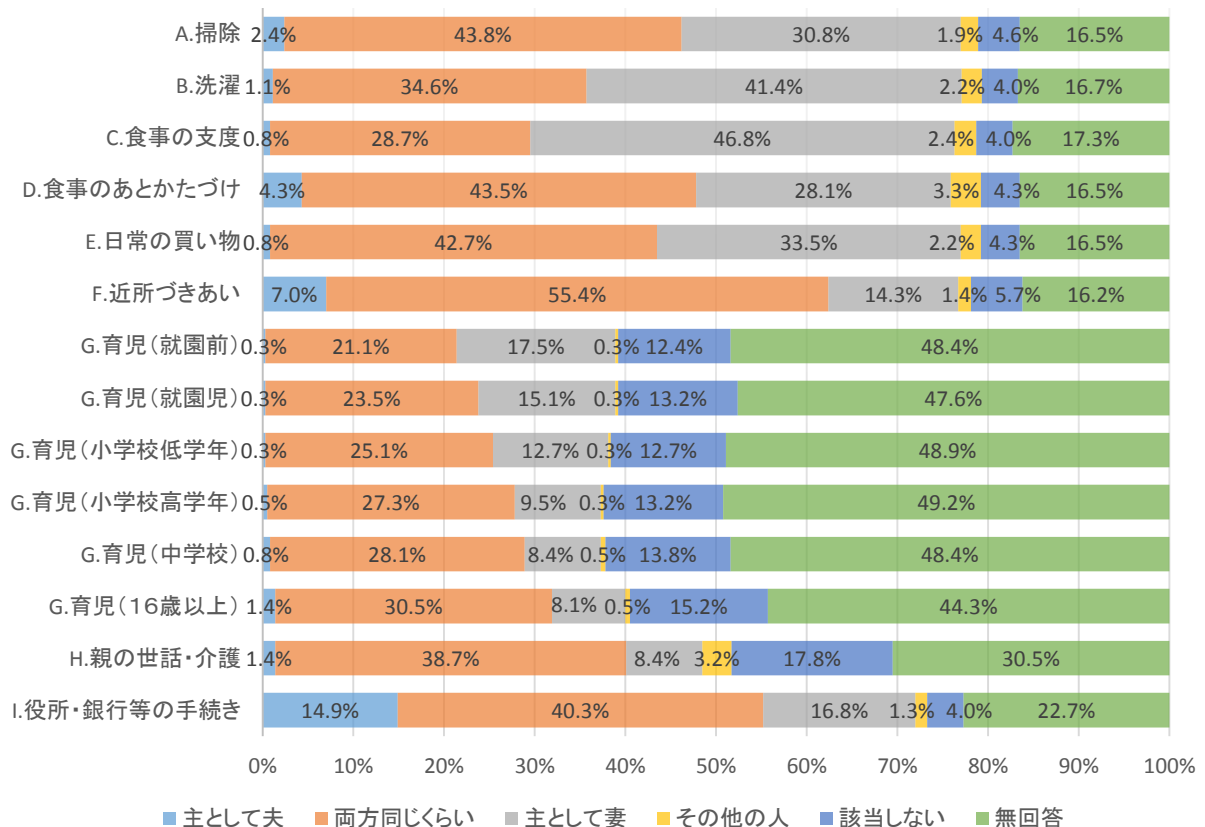
日常的な事柄を誰がした方がいいか(希望:女性)



日常的な事柄を誰がしているか(現在:男性)



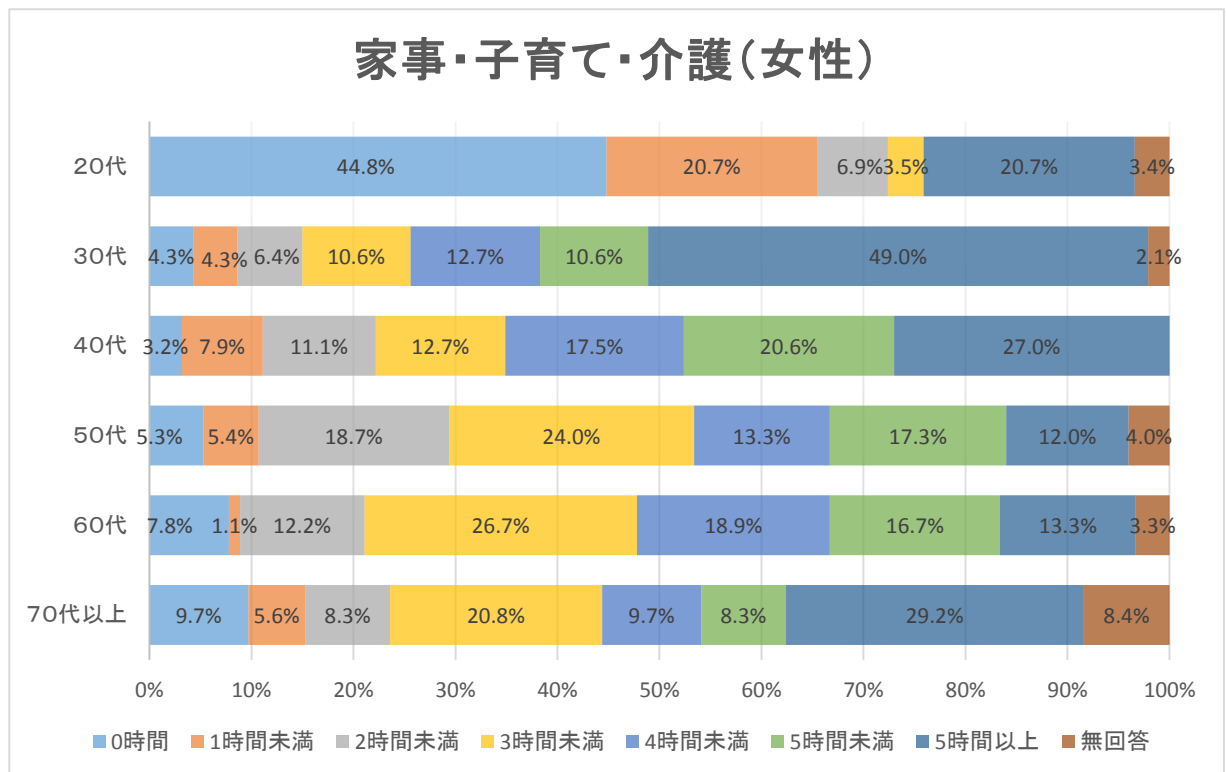
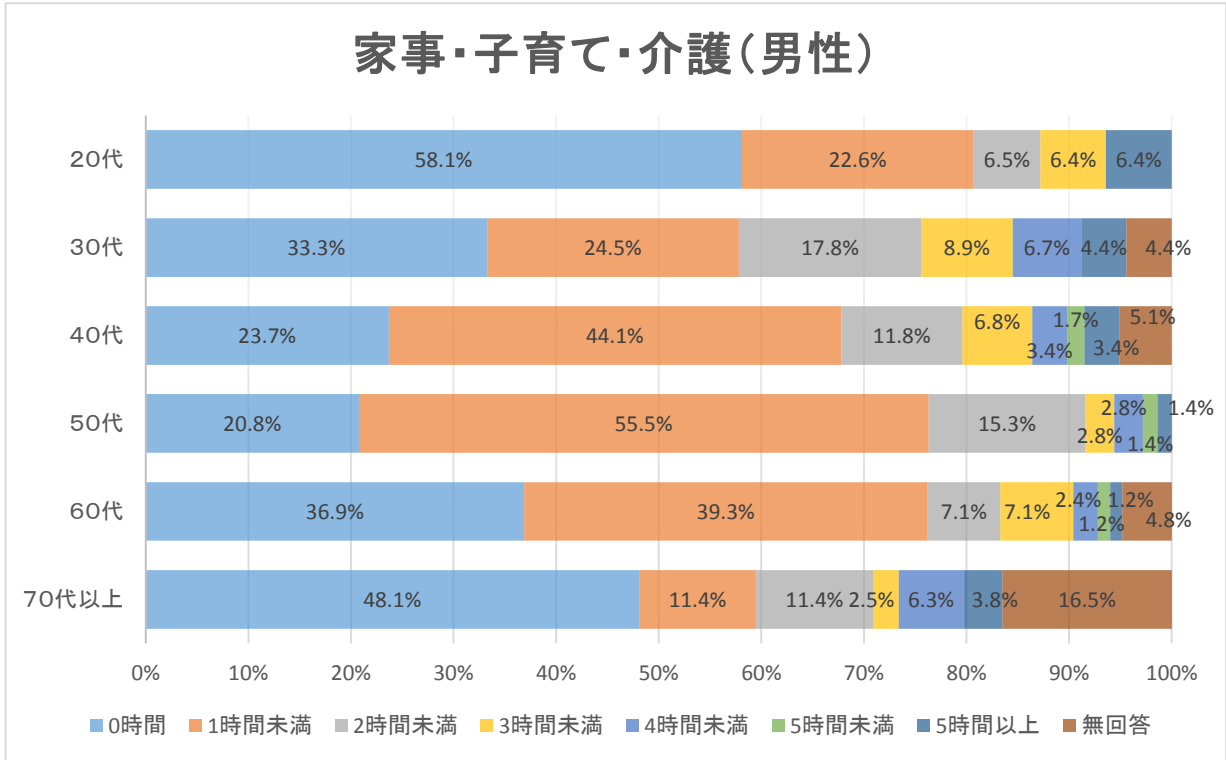
日常的な事柄を誰がした方がいいか(希望:男性)



問10 以下について、あなたは平日にどのくらいの時間を費やしていますか。(1つに○)

① 家事や子育て、介護等

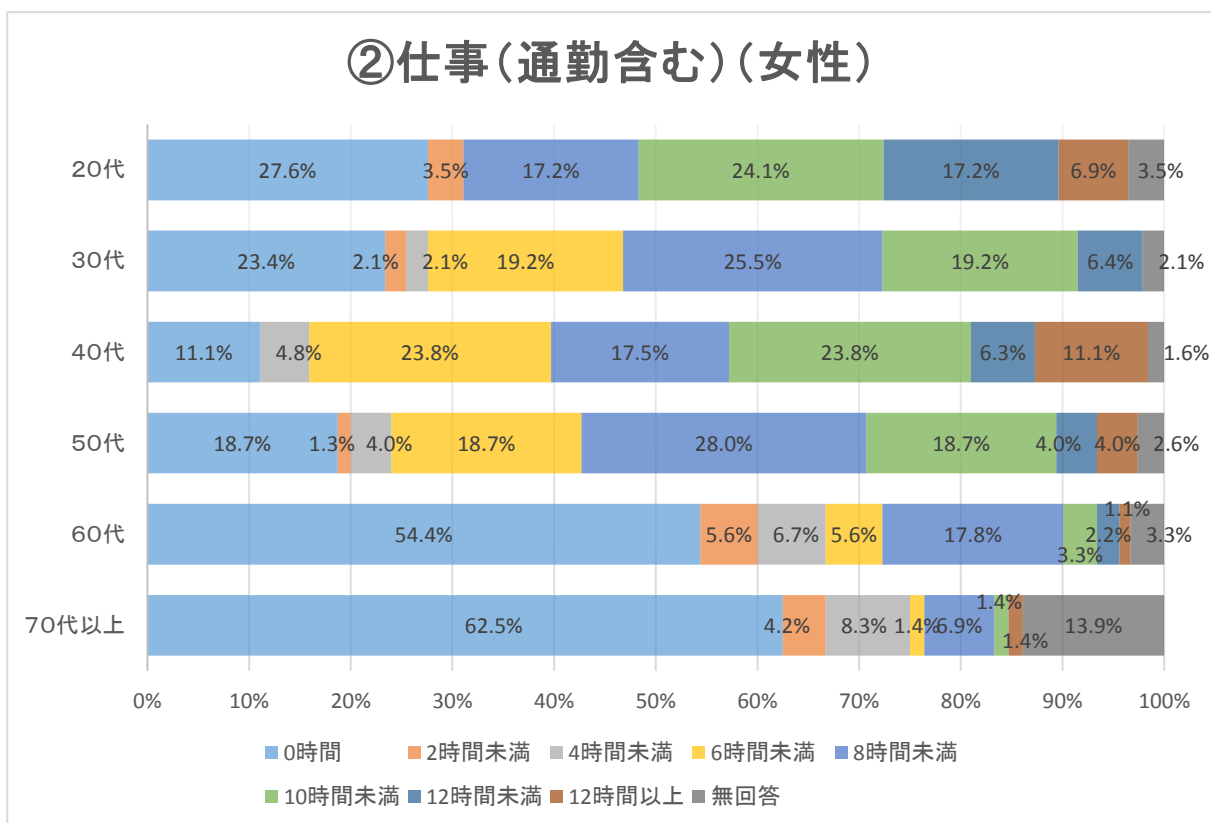
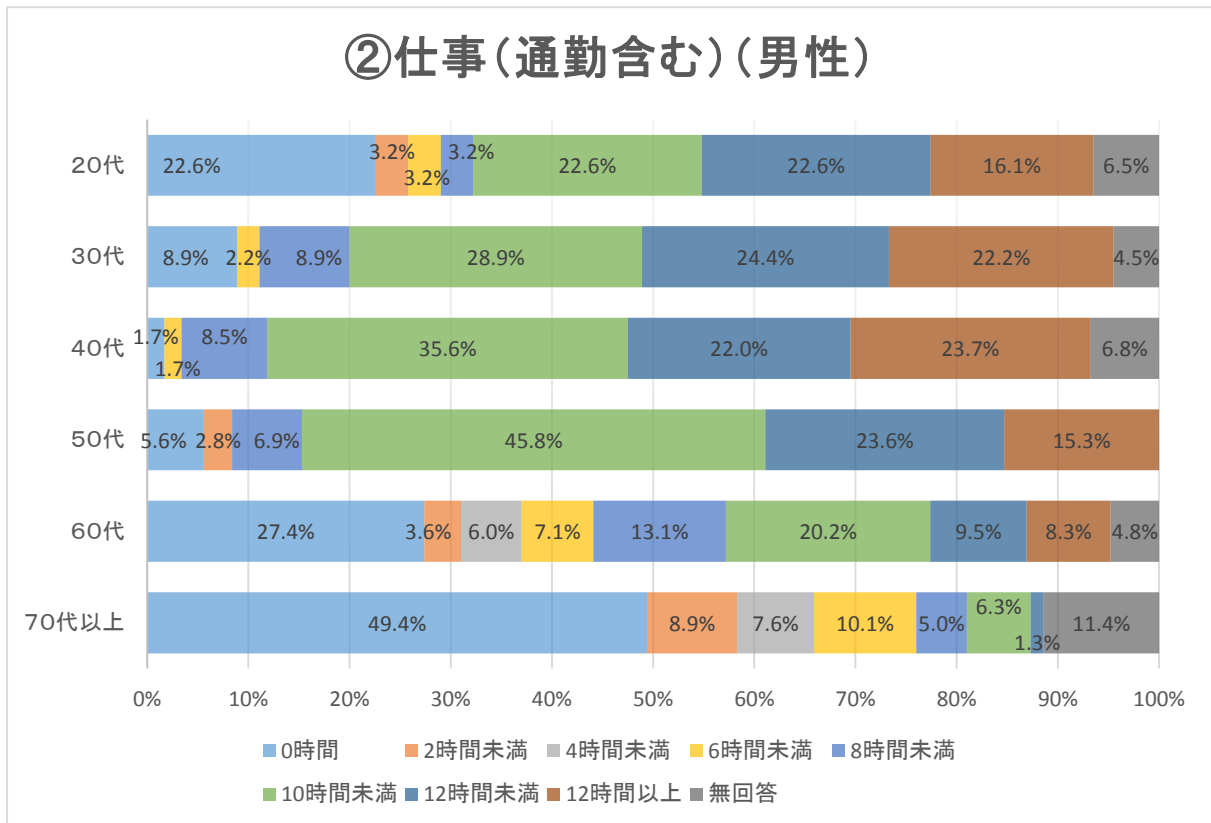
男女の違いをみると、家事などに費やす時間が1時間未満の割合は、男性がすべての年代で過半数を超えているのに対して、女性は「20代」をのぞくすべての年代で20%未満となっており、男性に比べ女性が多くの時間を費やしていることがわかる。



② 仕事(通勤を含む)

男女の違いをみると、仕事に費やす時間が8時間以上の割合は、男性が20代～50代で60%を超えているのに対して、女性はすべての年代で過半数に満たない割合となっており、男性が女性に比べ、多くの時間を仕事に費やしていることがわかる。

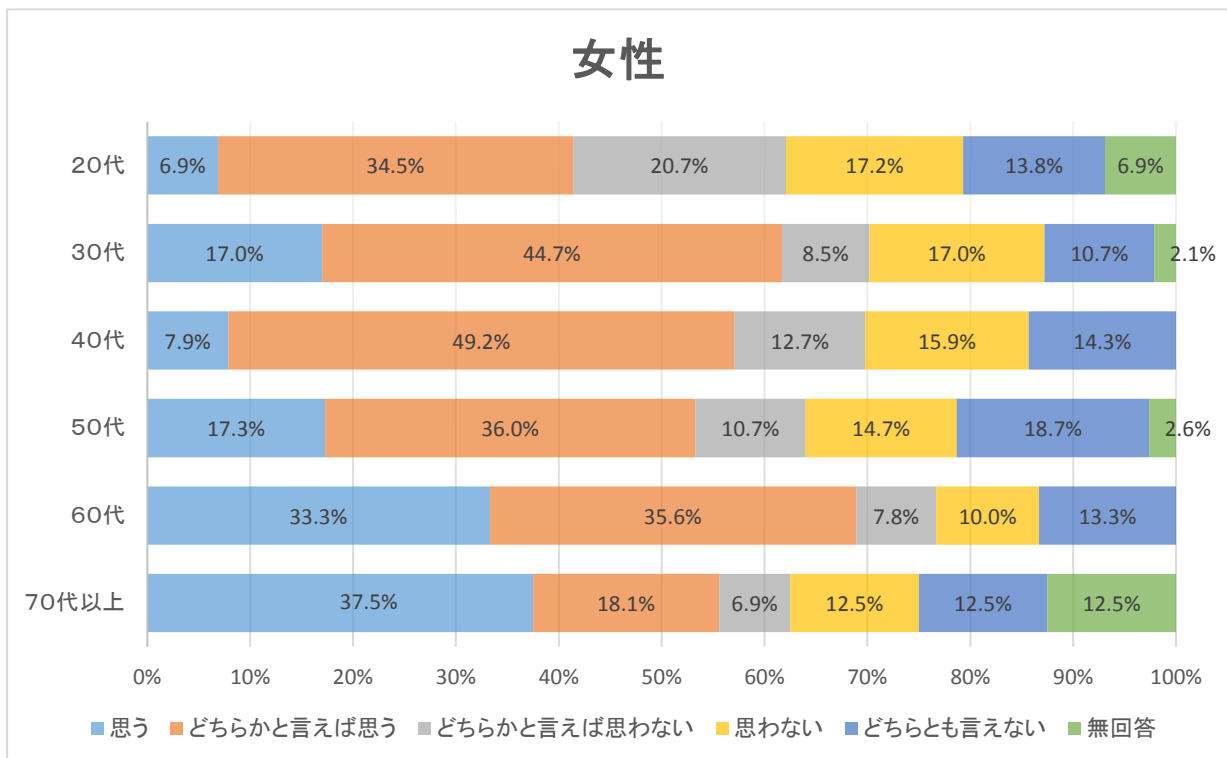
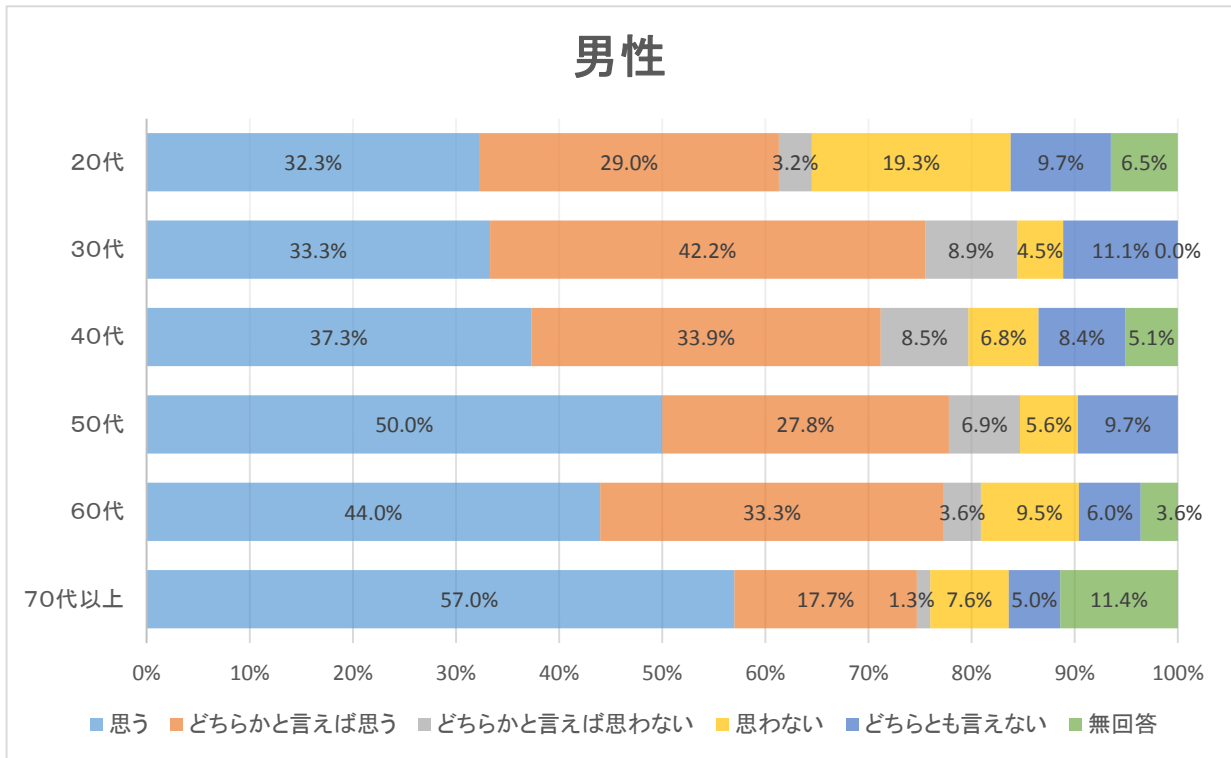
女性と男性のワークライフバランスの現状が結果に表れている。



問11 子どもの育て方についてあなたはどのように思いますか。
 (A~Dのそれぞれについて、1~5の1つに○)

A. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい。

男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、ほとんどの年代で過半数を超えている。

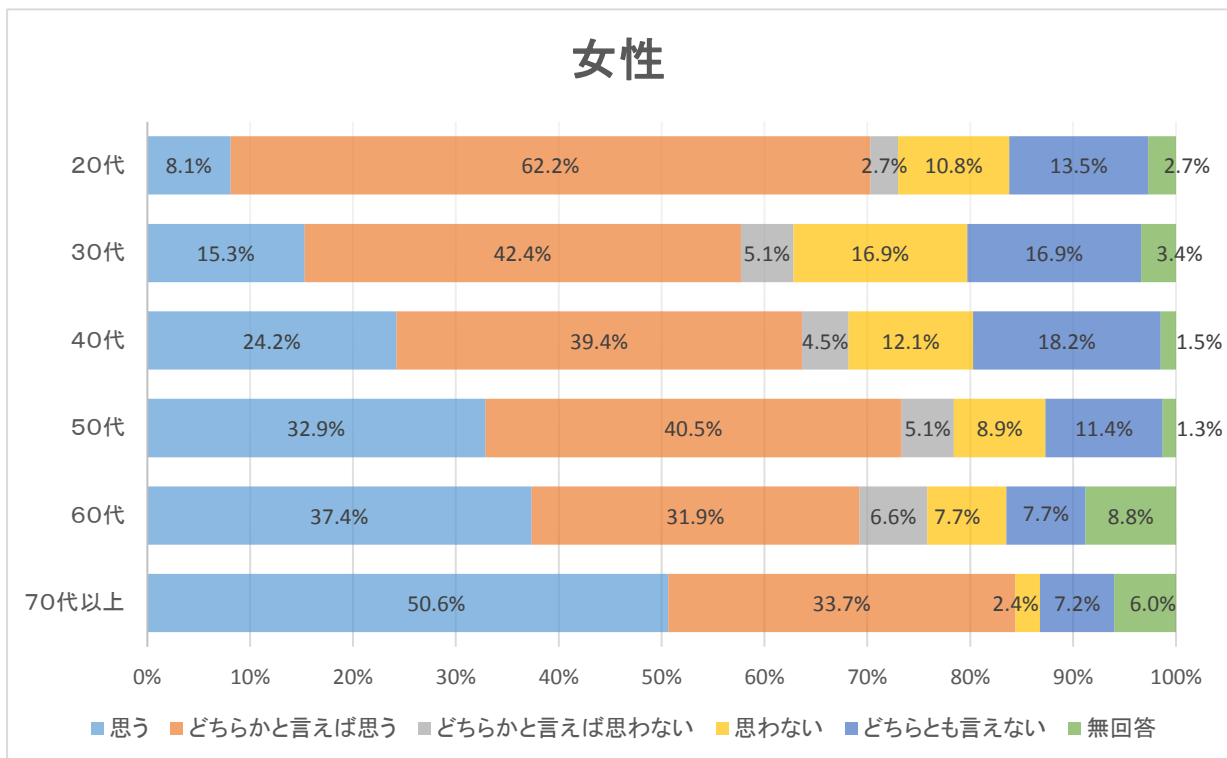
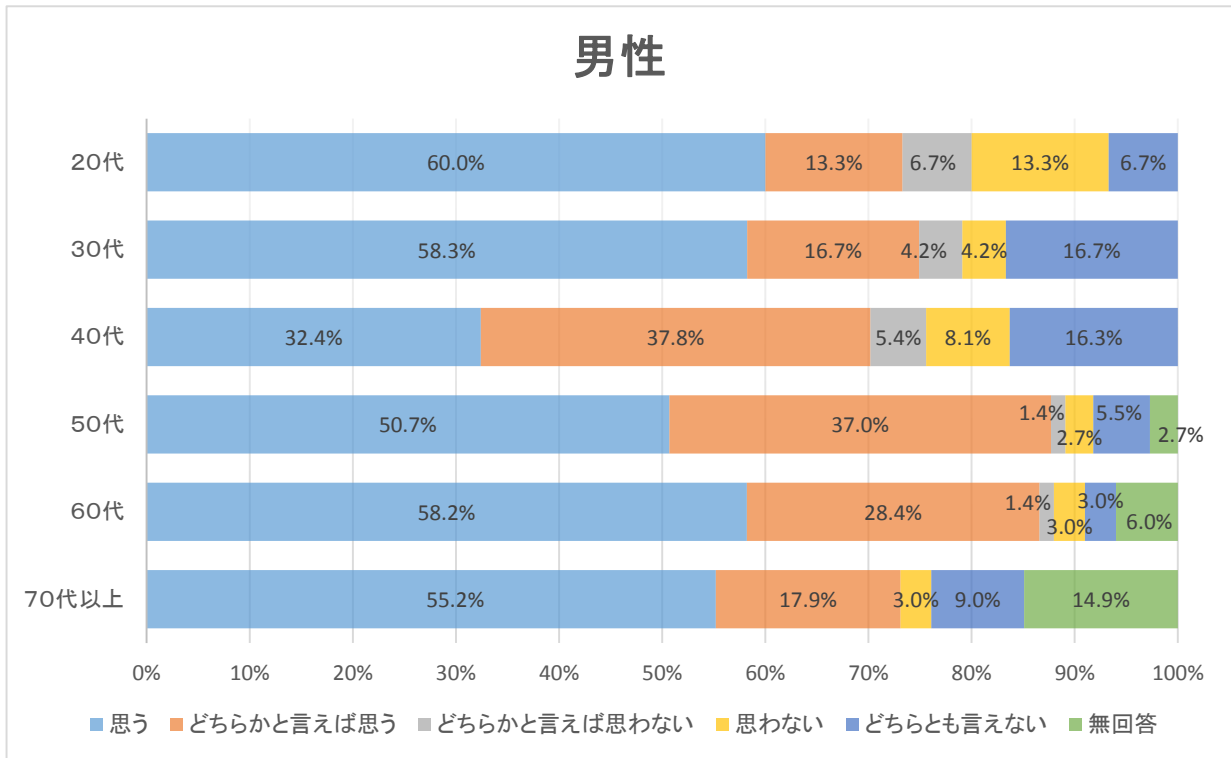


問11

A. H18年度アンケート結果

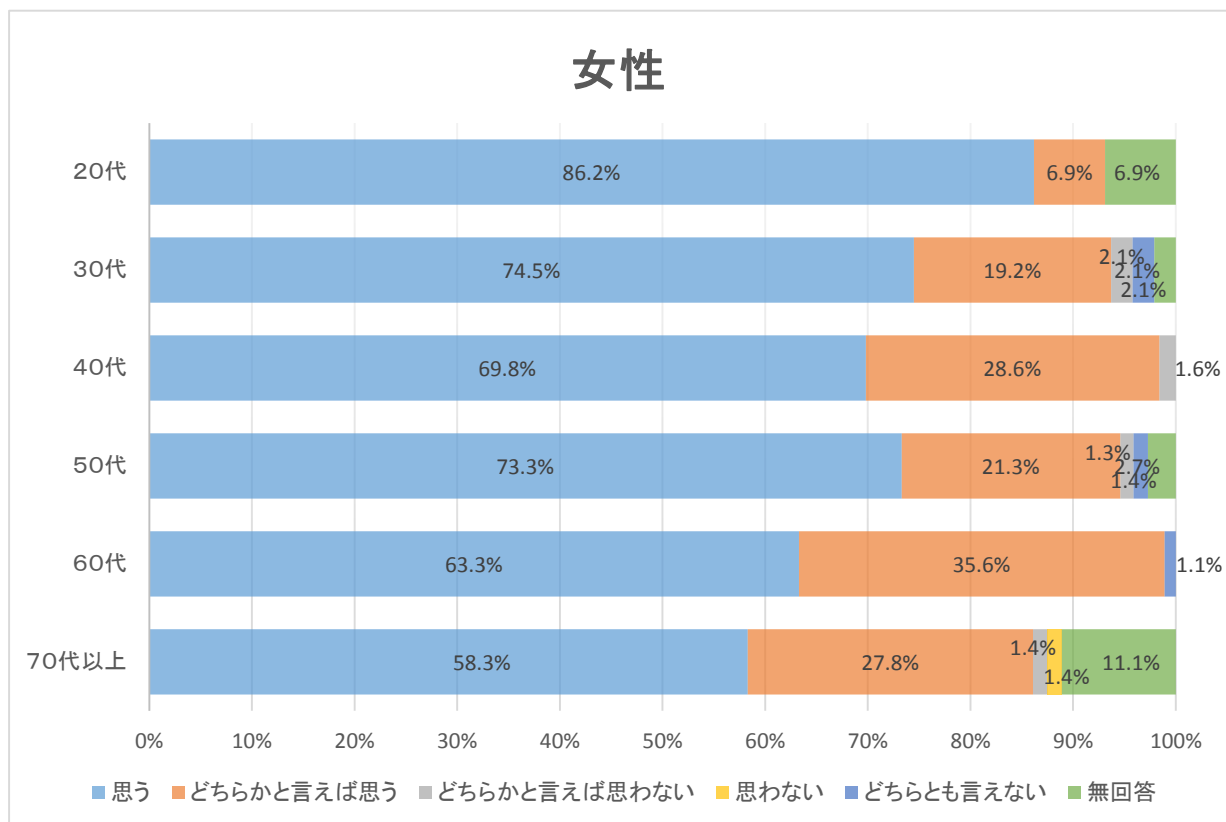
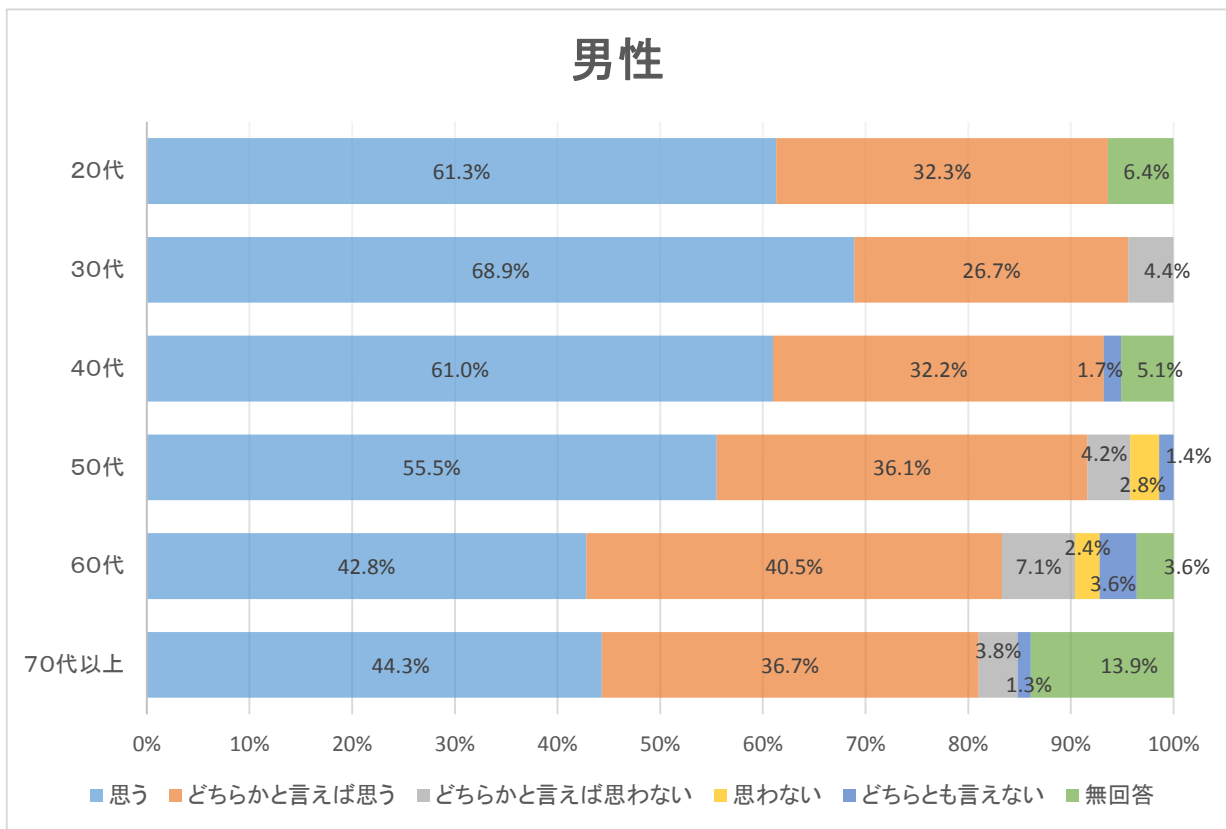
《平成18年度との比較》

平成18年度には、男女とも「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、ほとんどの年代で70%を超えており、その割合が全体的に減少していることがわかる。
全体的に性別にとらわれない育て方を望む人が増えていることが分かる。



B. 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい。

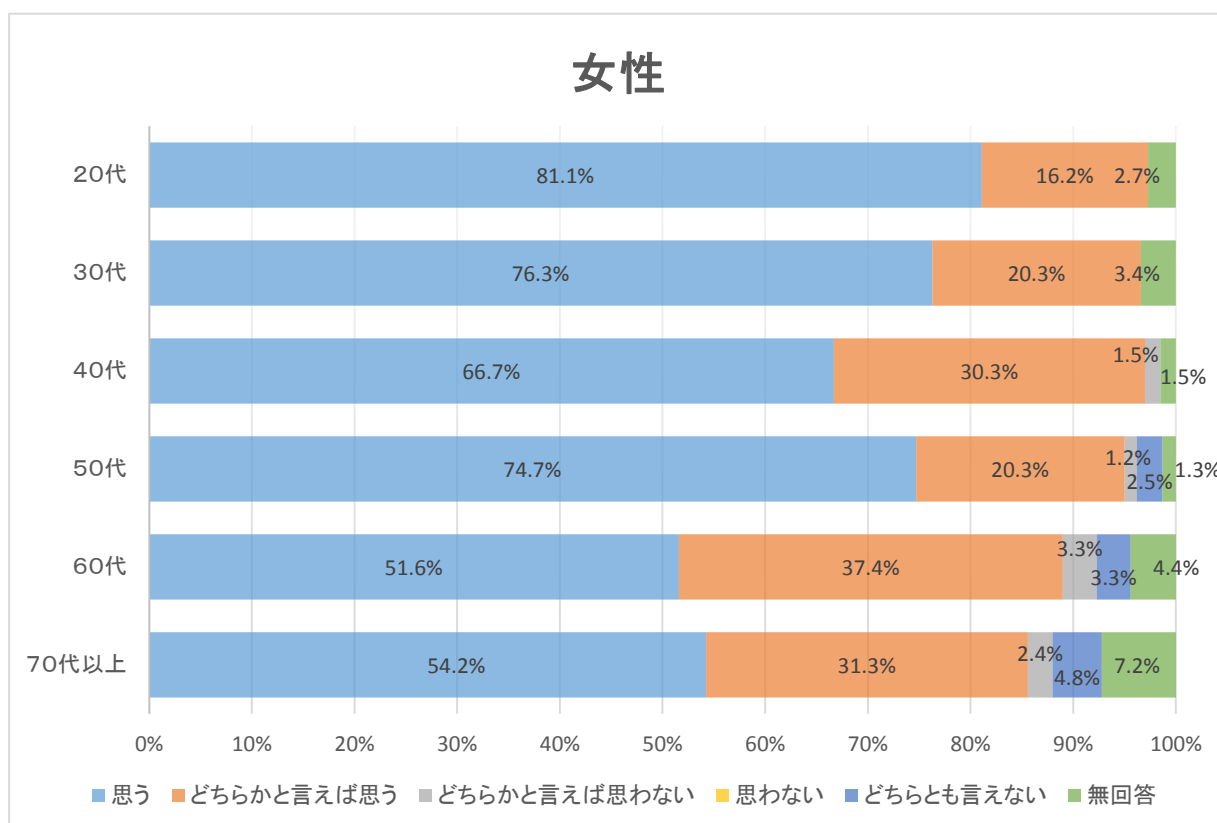
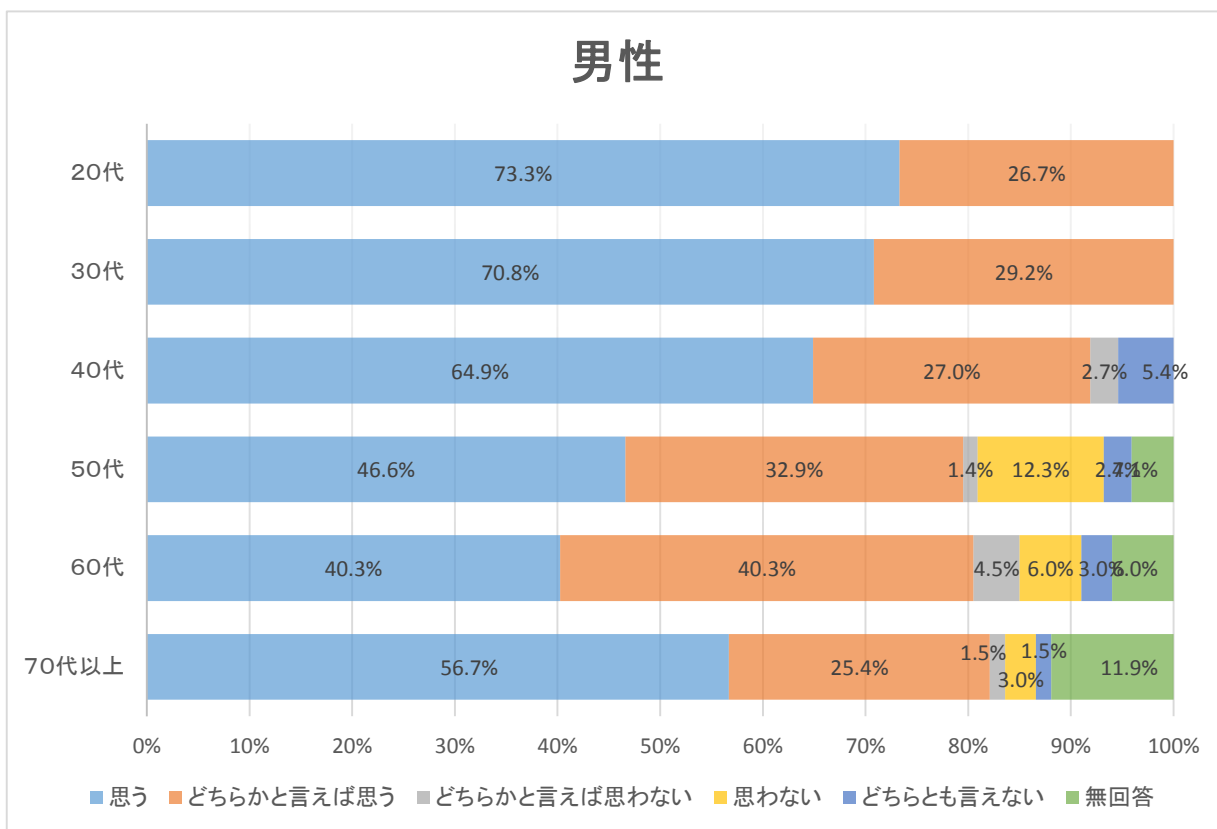
男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、すべての年代で80%を超えている。



B. H18年度アンケート結果

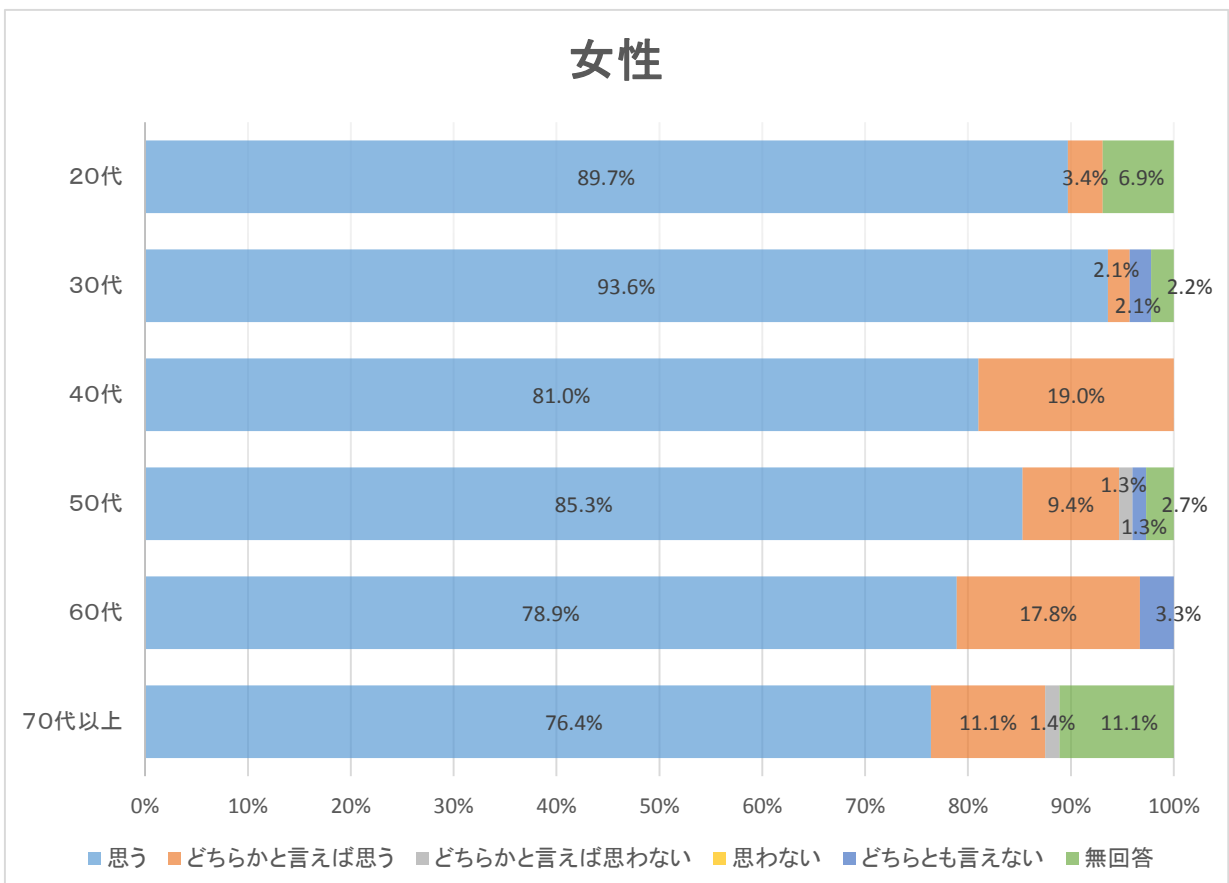
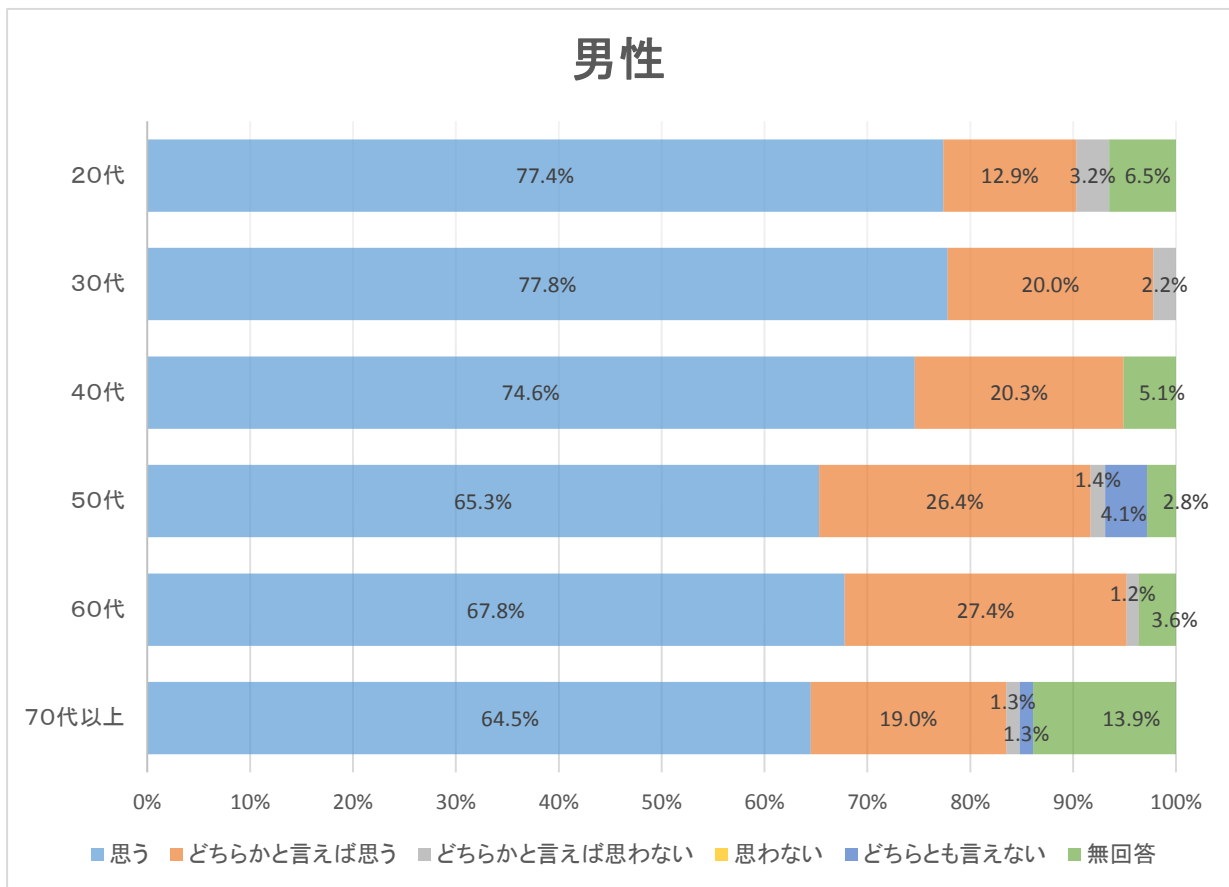
《平成18年度との比較》

平成18年度と、大きな変化はなく、男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、すべての年代で80%を超えている。



C. 性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい。

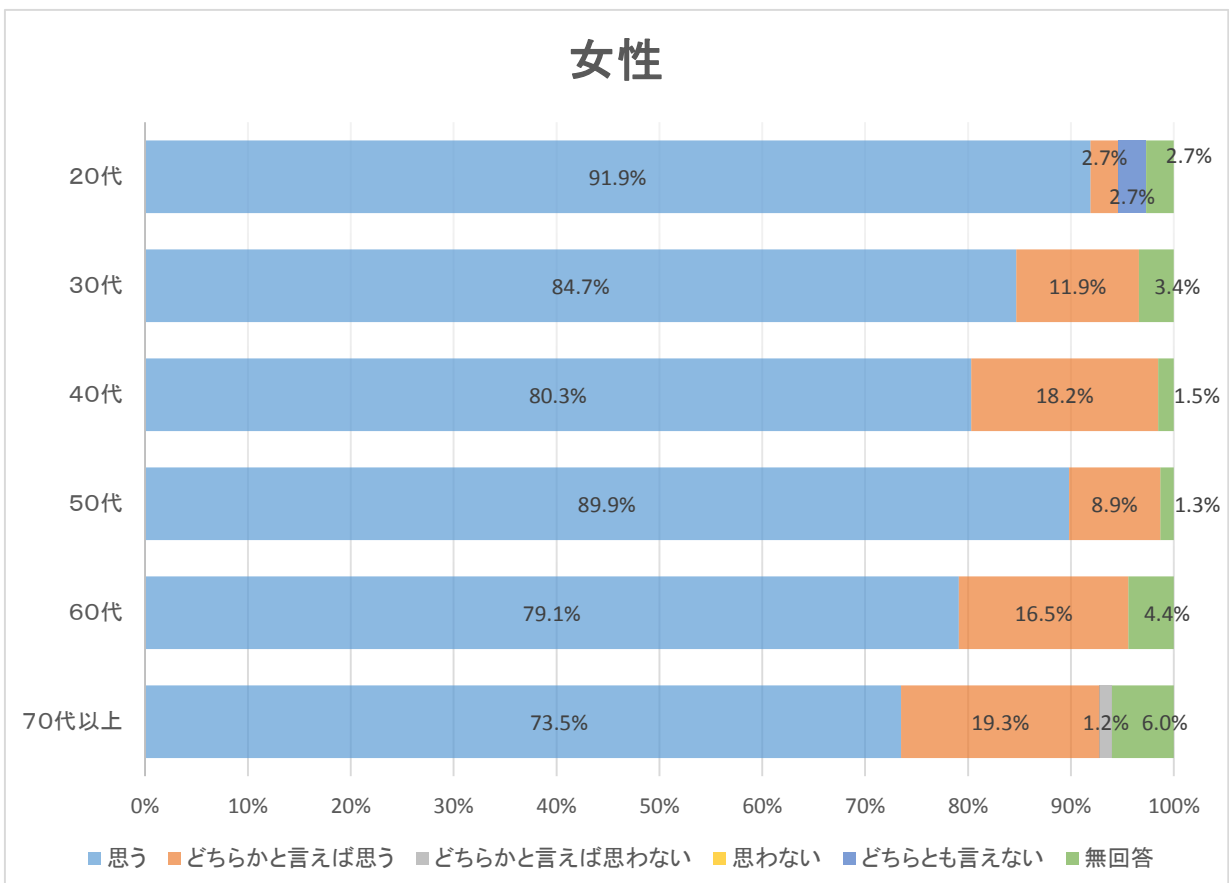
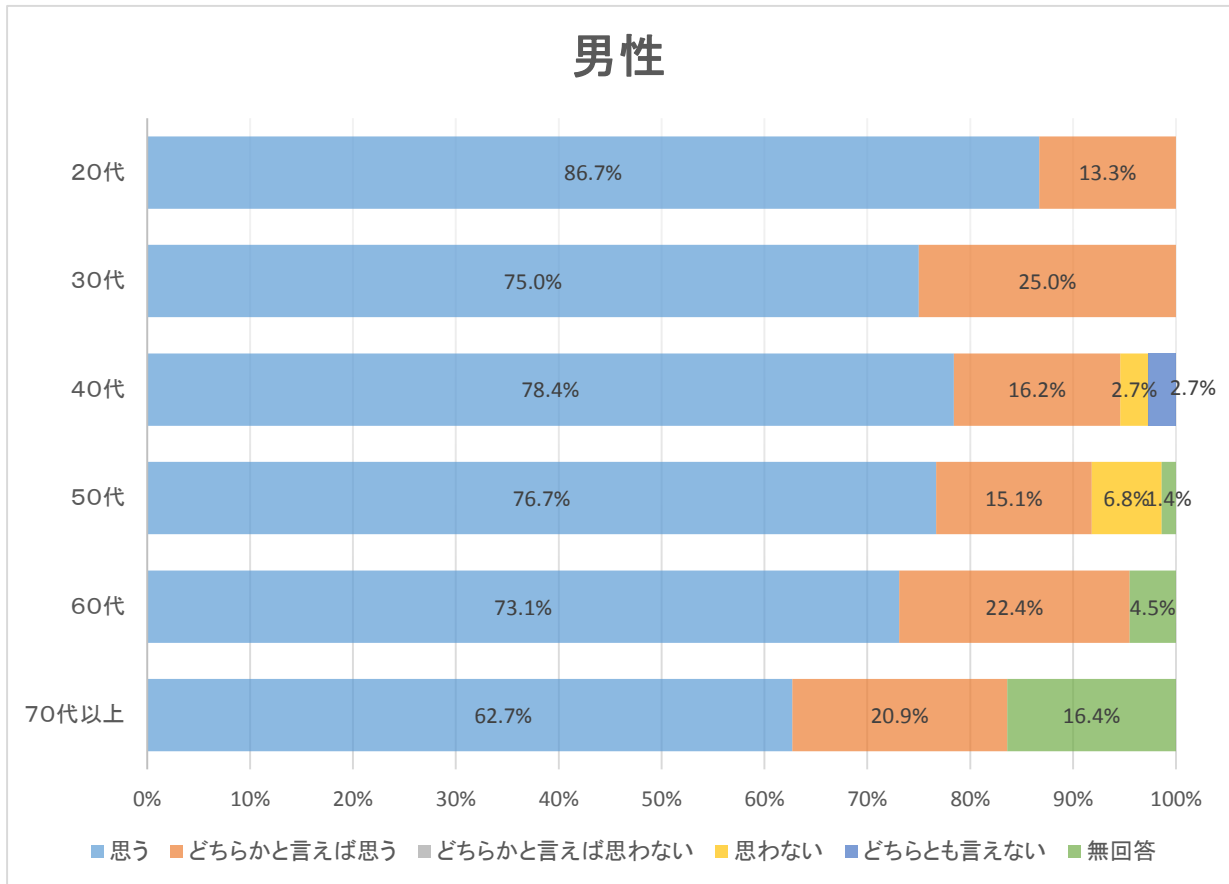
男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、ほぼすべての年代で90%を超えている。



C. H18年度アンケート結果

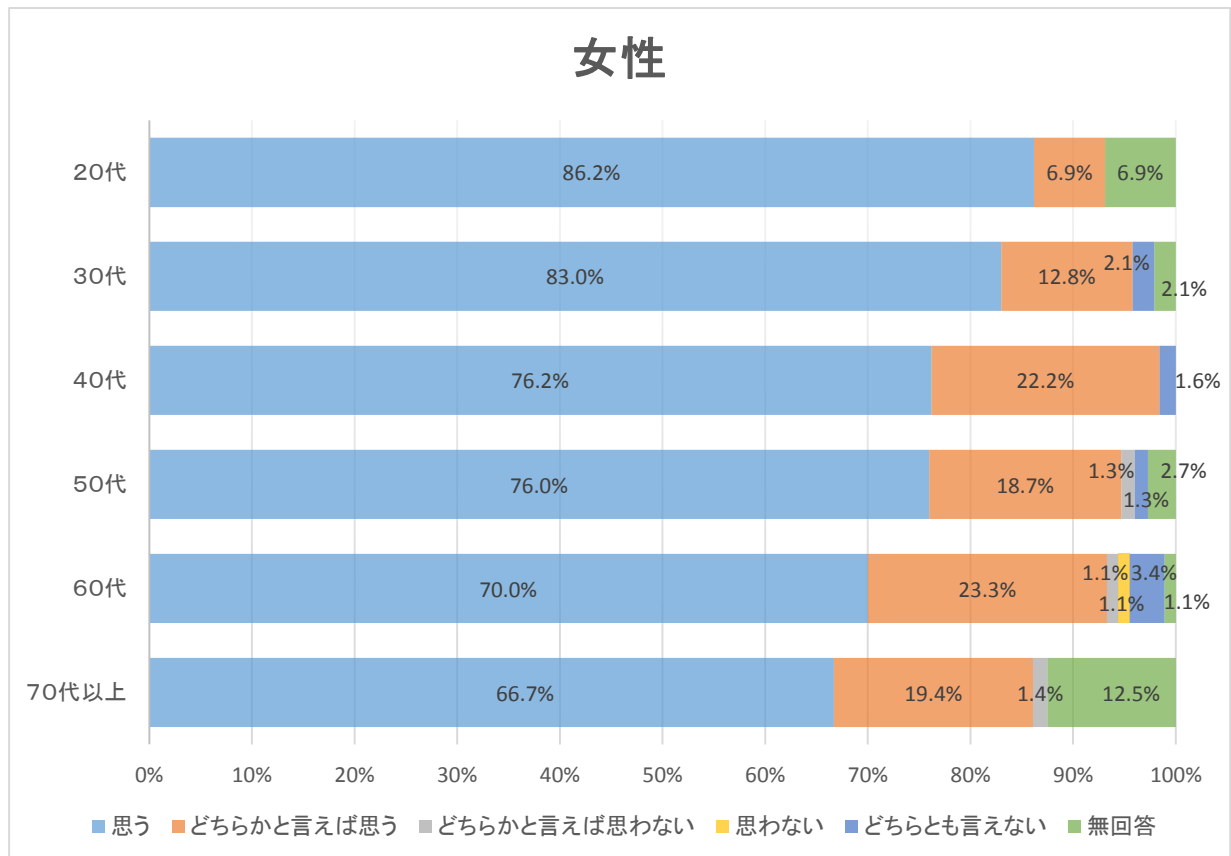
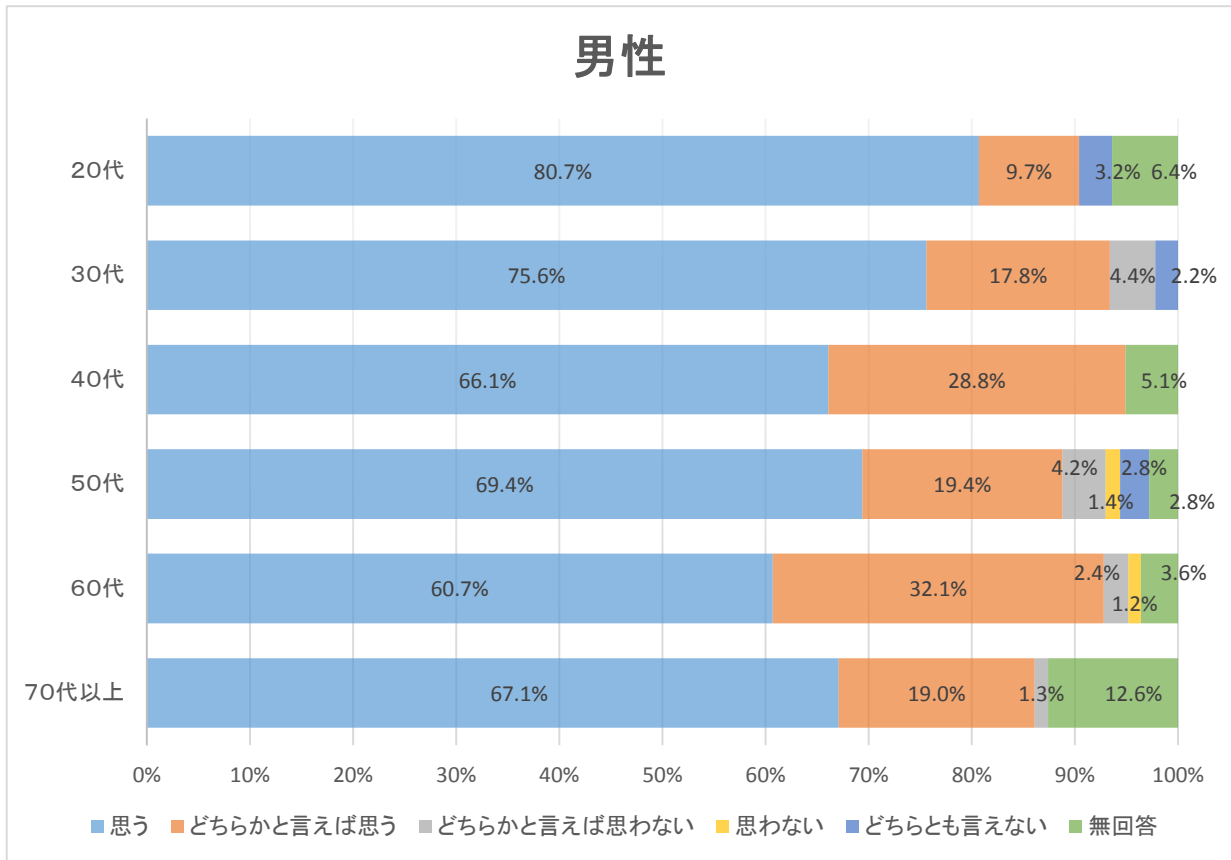
《平成18年度との比較》

平成18年度と、大きな変化はなく、男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、ほぼすべての年代で90%を超えている。



D. 性別にとらわれず、経済的自立ができる子に育てる方がよい。

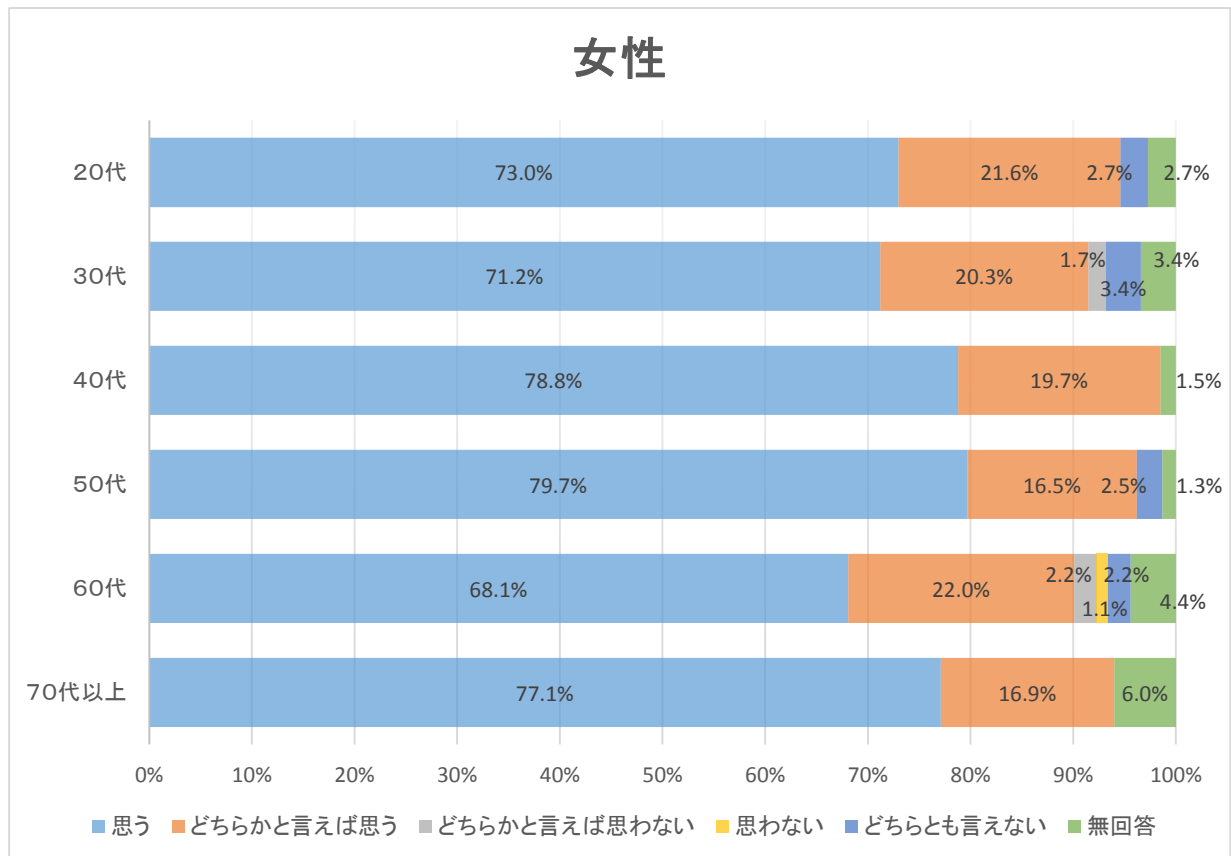
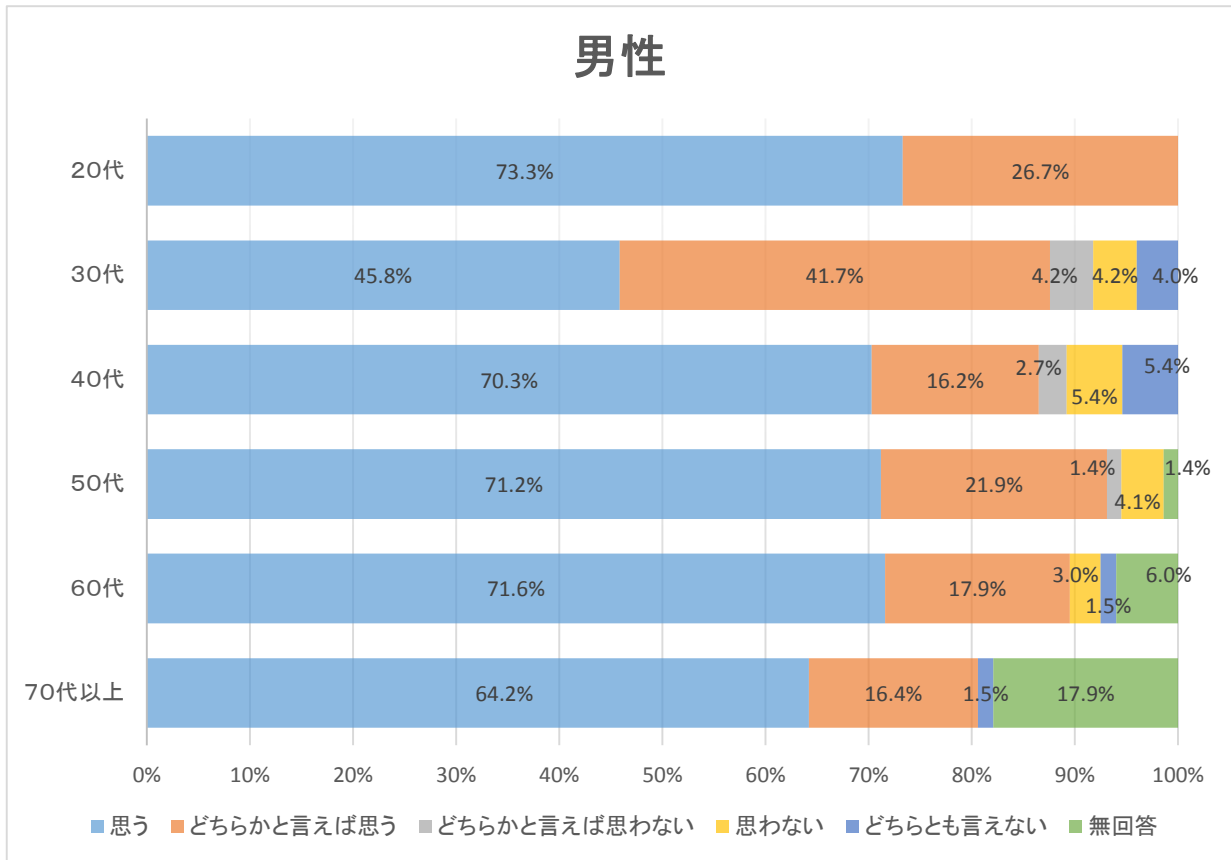
男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、ほぼすべての年代で90%を超えている。



D. H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

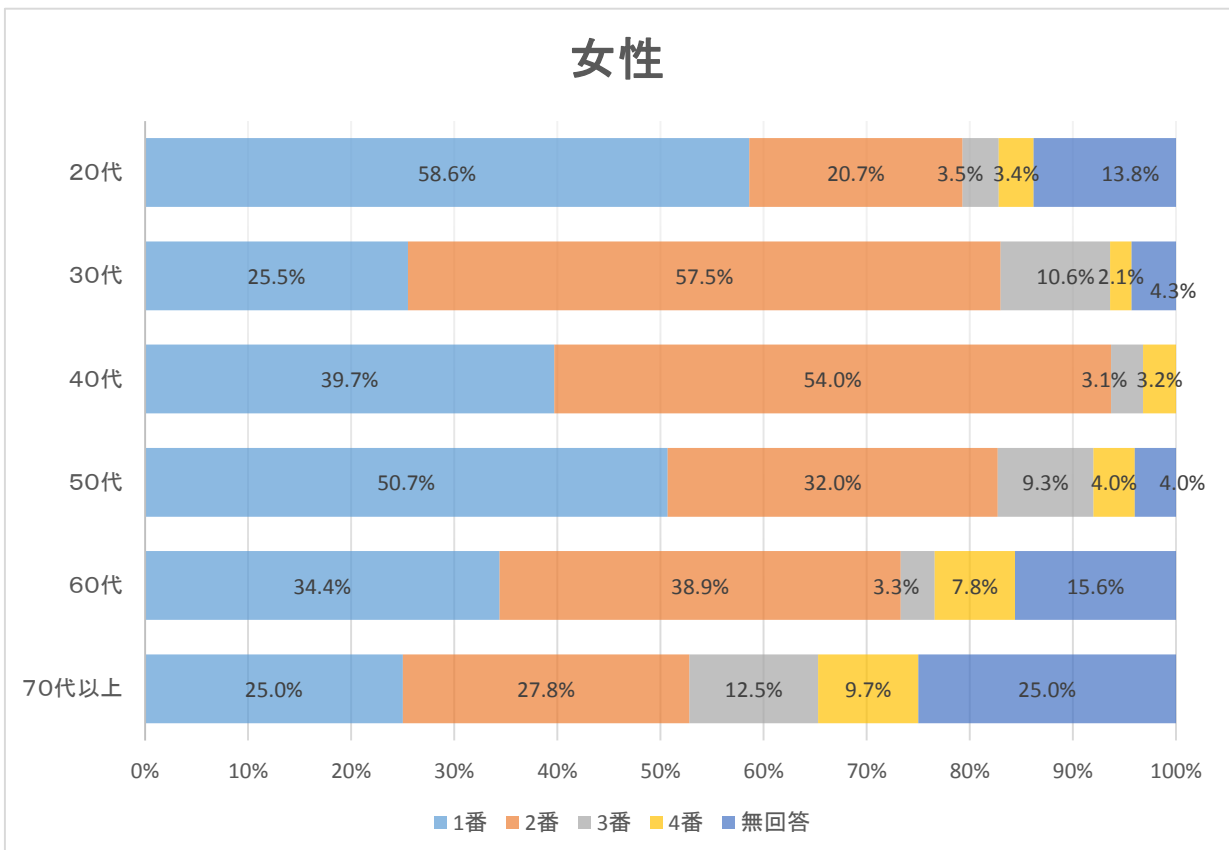
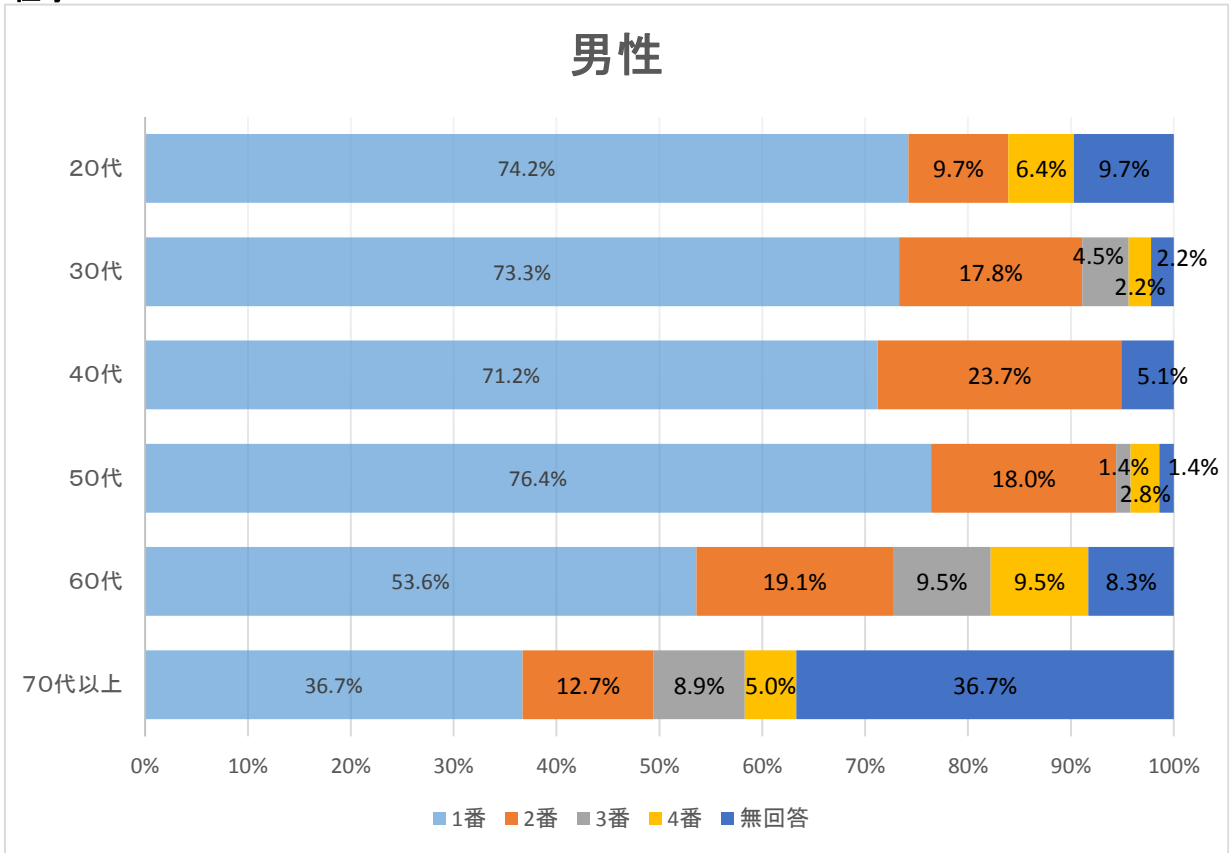
平成18年度と、大きな変化はなく、男女とも、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合が、ほぼすべての年代で90%を超えている。



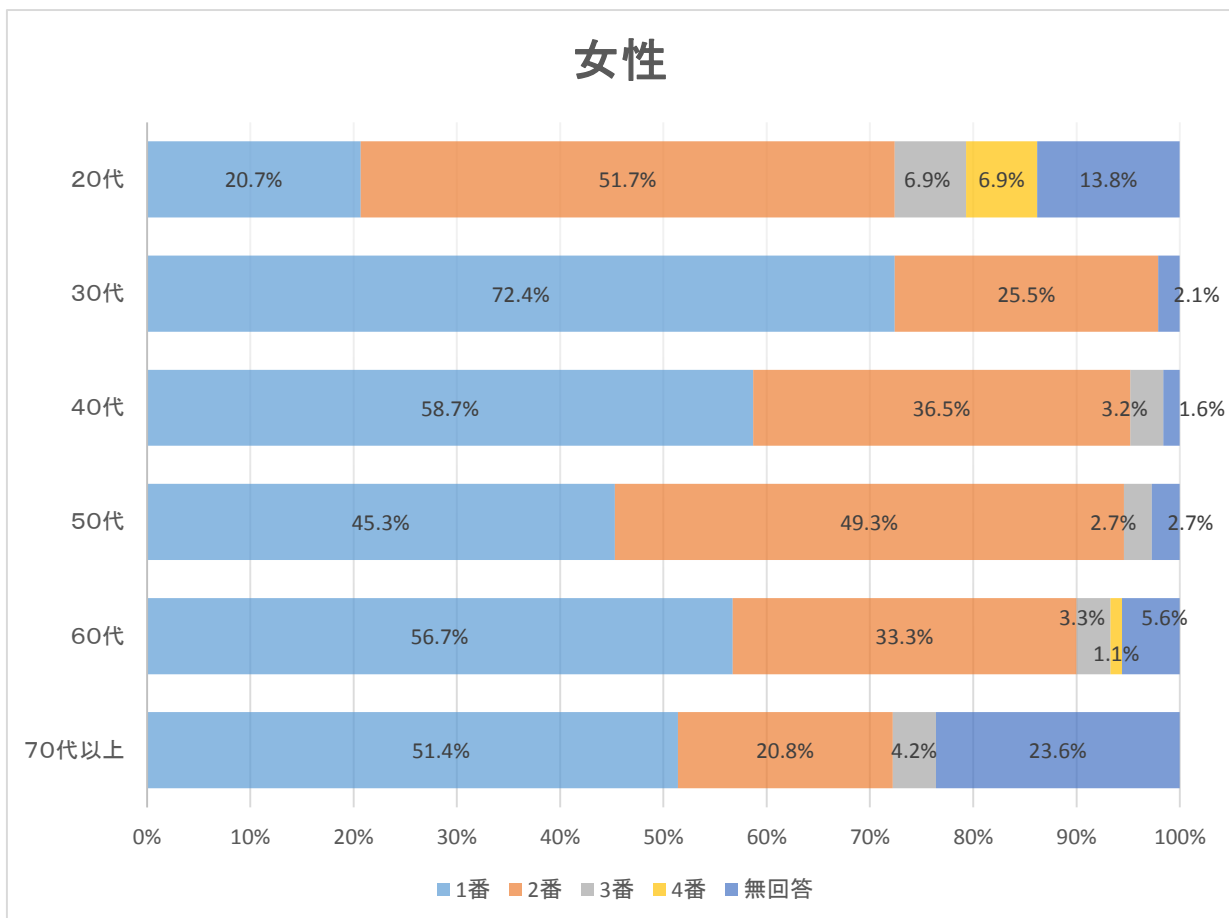
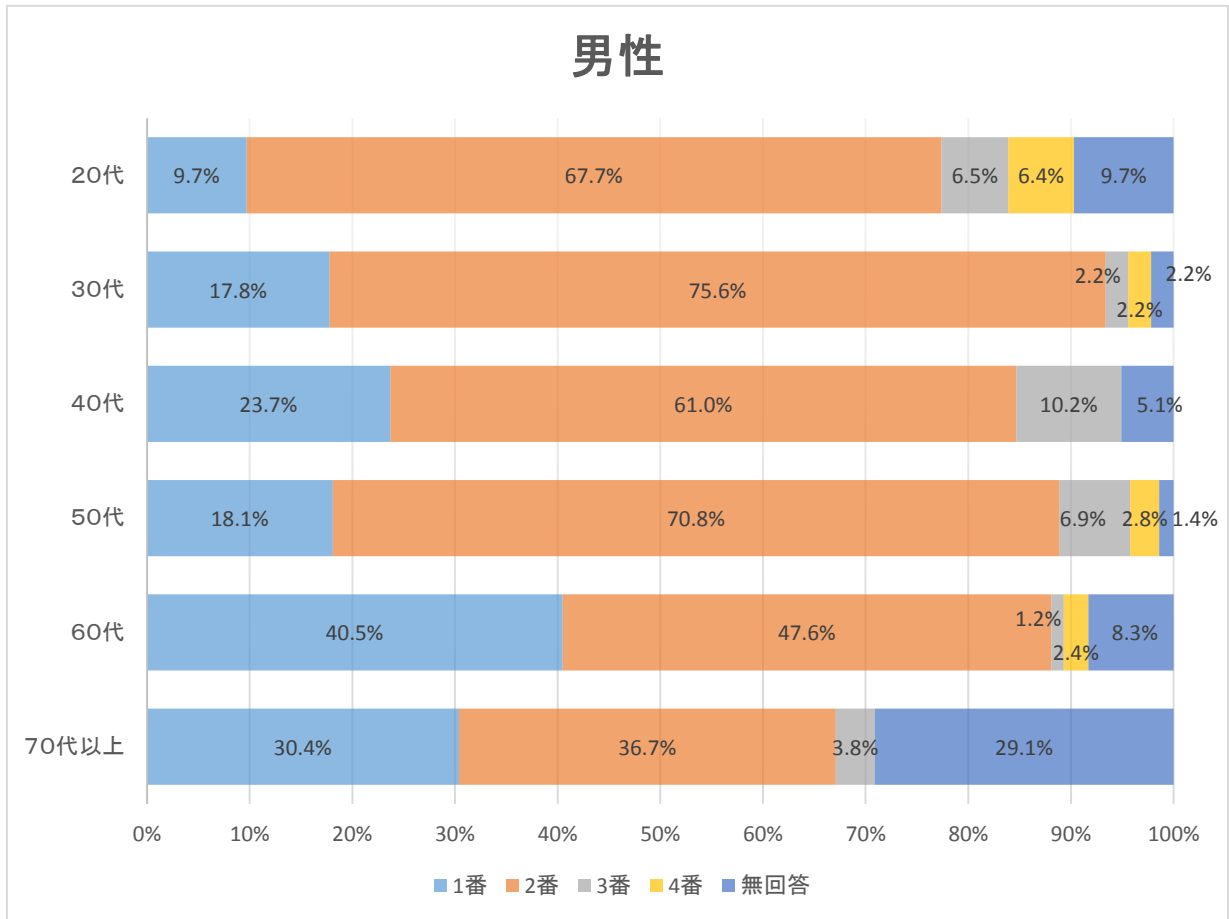
問12 生活の中で優先度が高い順に1～4の番号を記入してください。
 (現在の順位と、希望の順位を記入してください)

男性のすべての年代と女性の20代で、「1番」が「仕事」、「2番」が「家庭」。女性の30代以上の多くの年代で、「1番」が「家庭」、「2番」が「仕事」と答えている。男女ともに、生活の優先度は「仕事」の割合が高いが、女性においては、結婚を機に「家庭」の割合が高くなると考えられる。

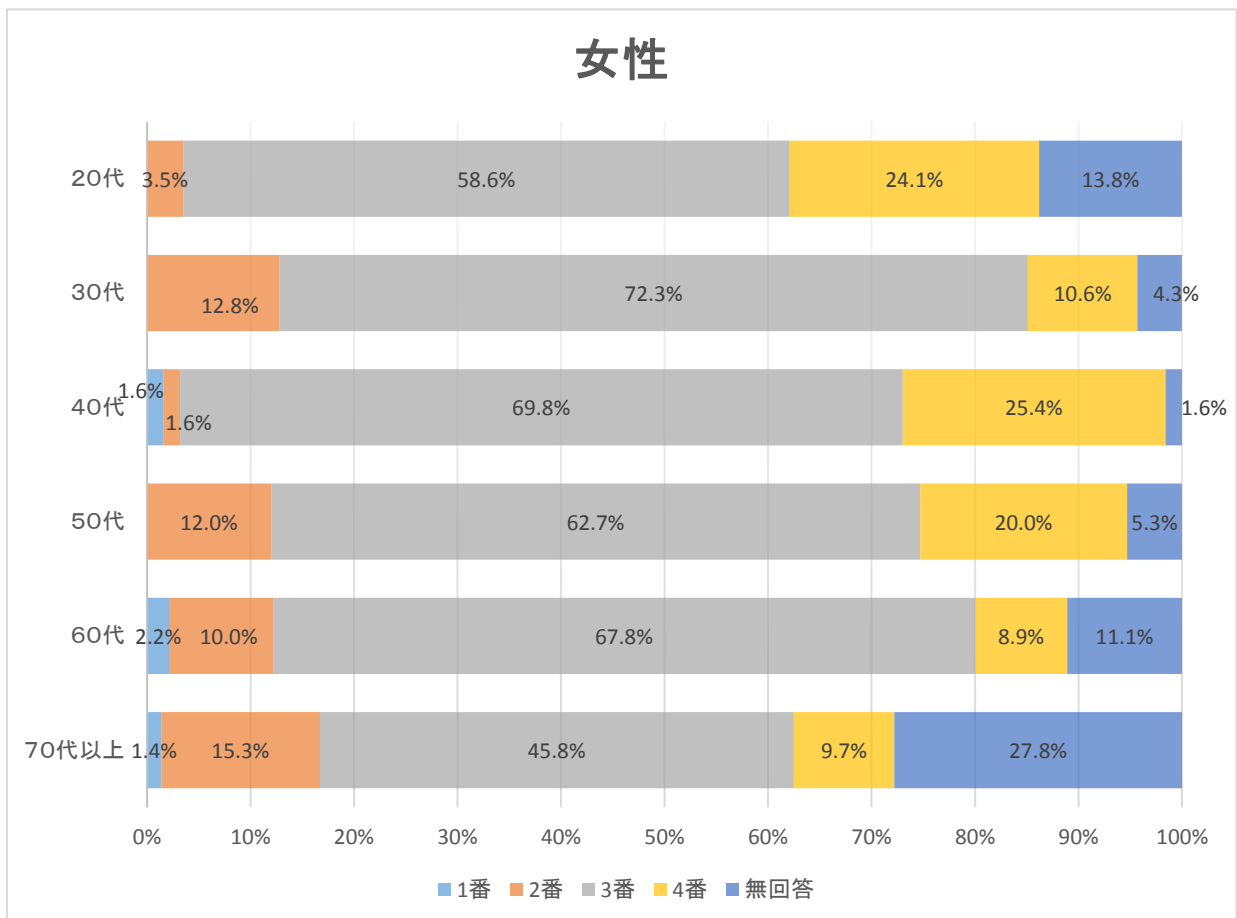
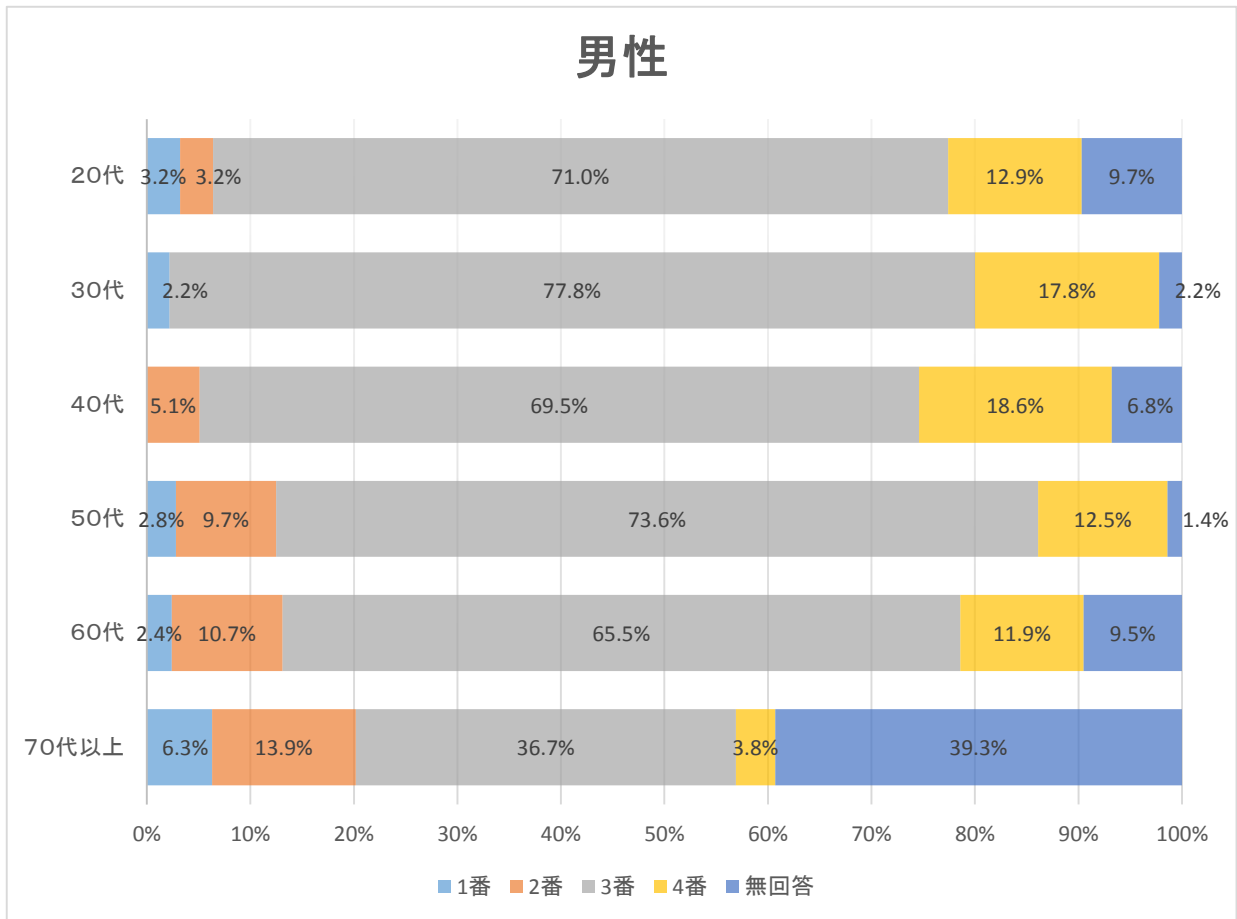
A. 仕事



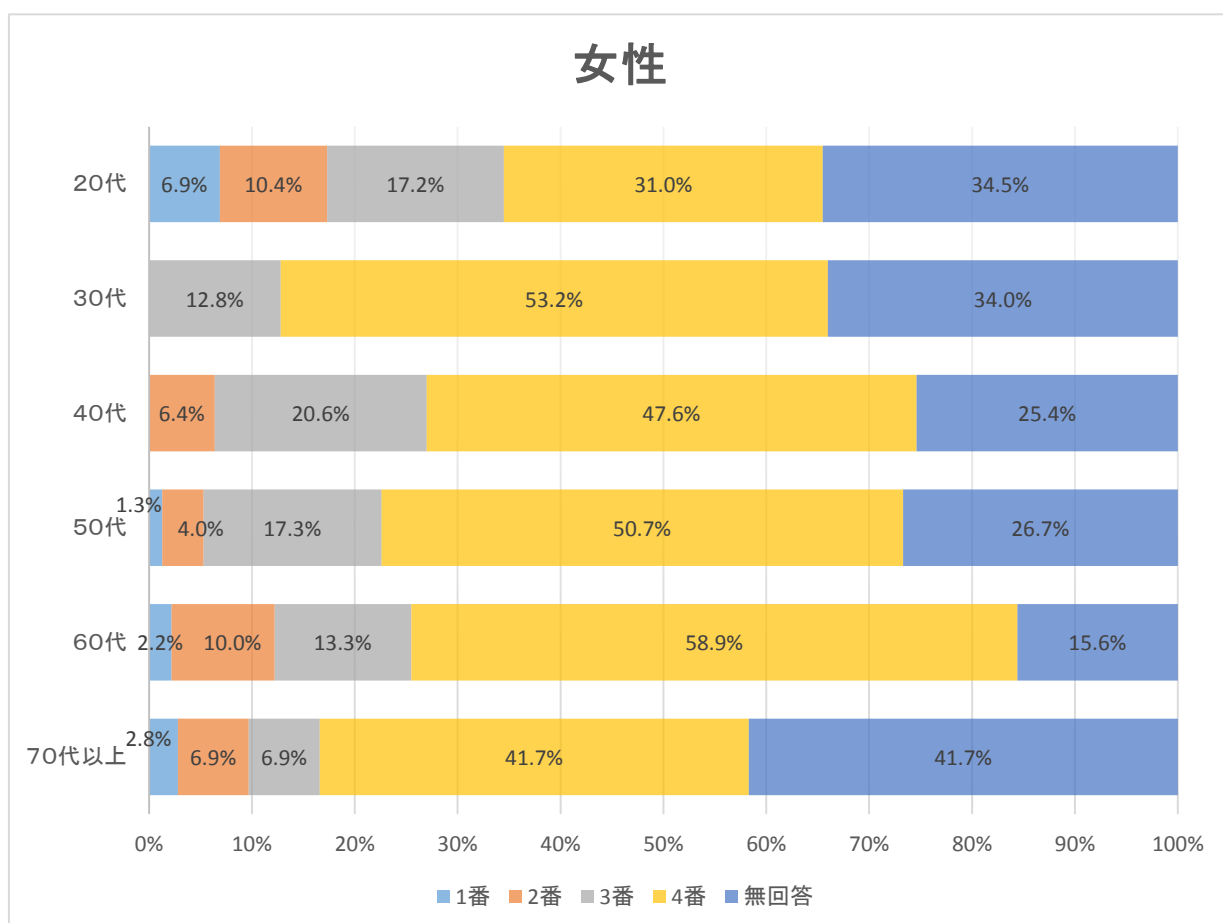
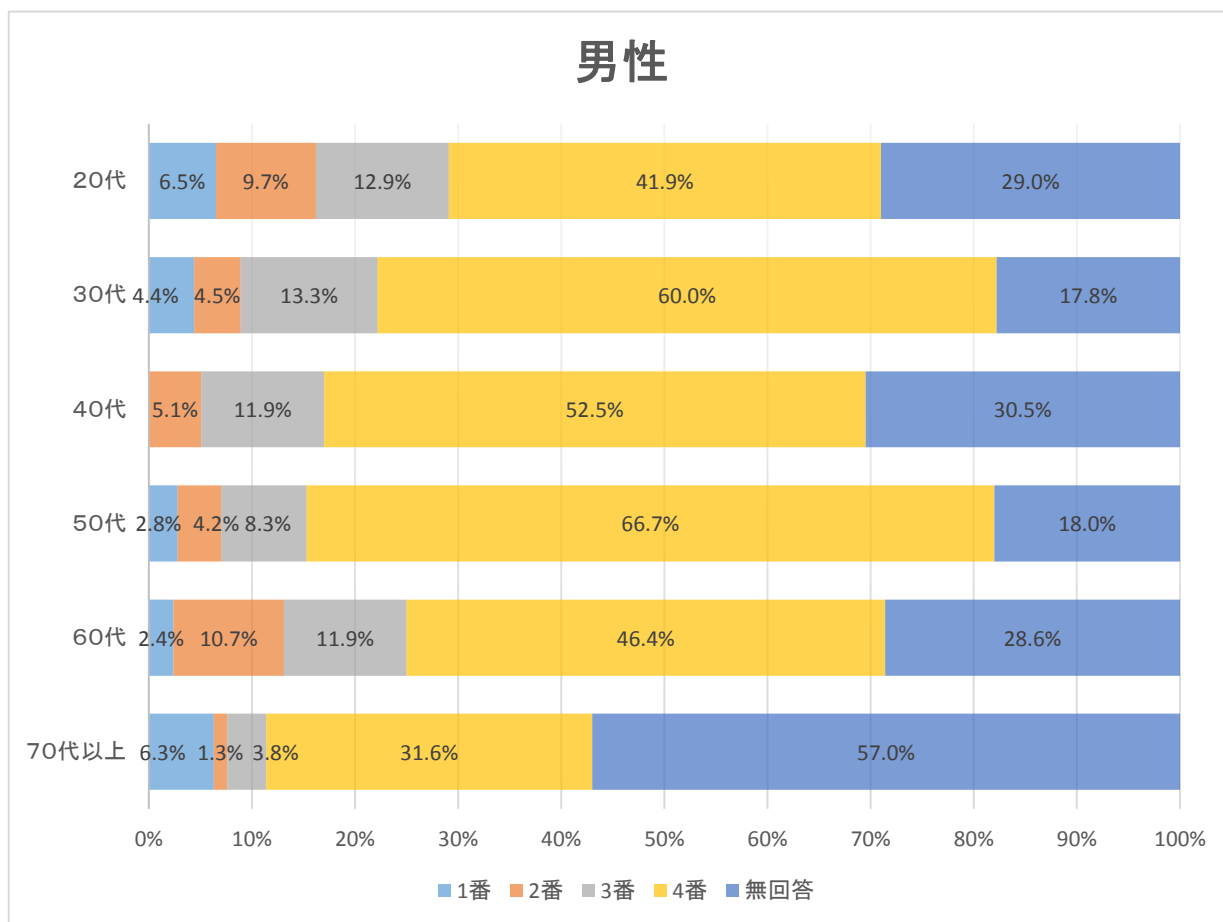
B. 家庭



C. 地域活動



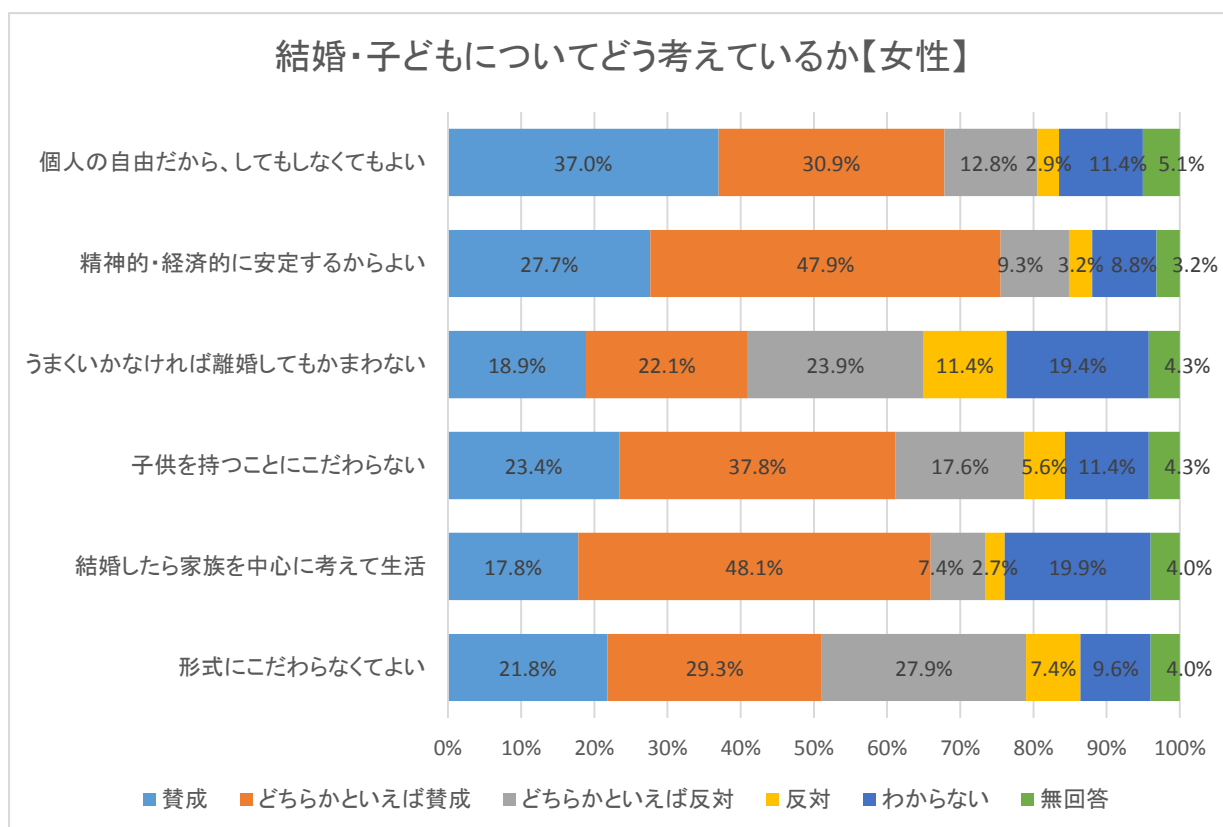
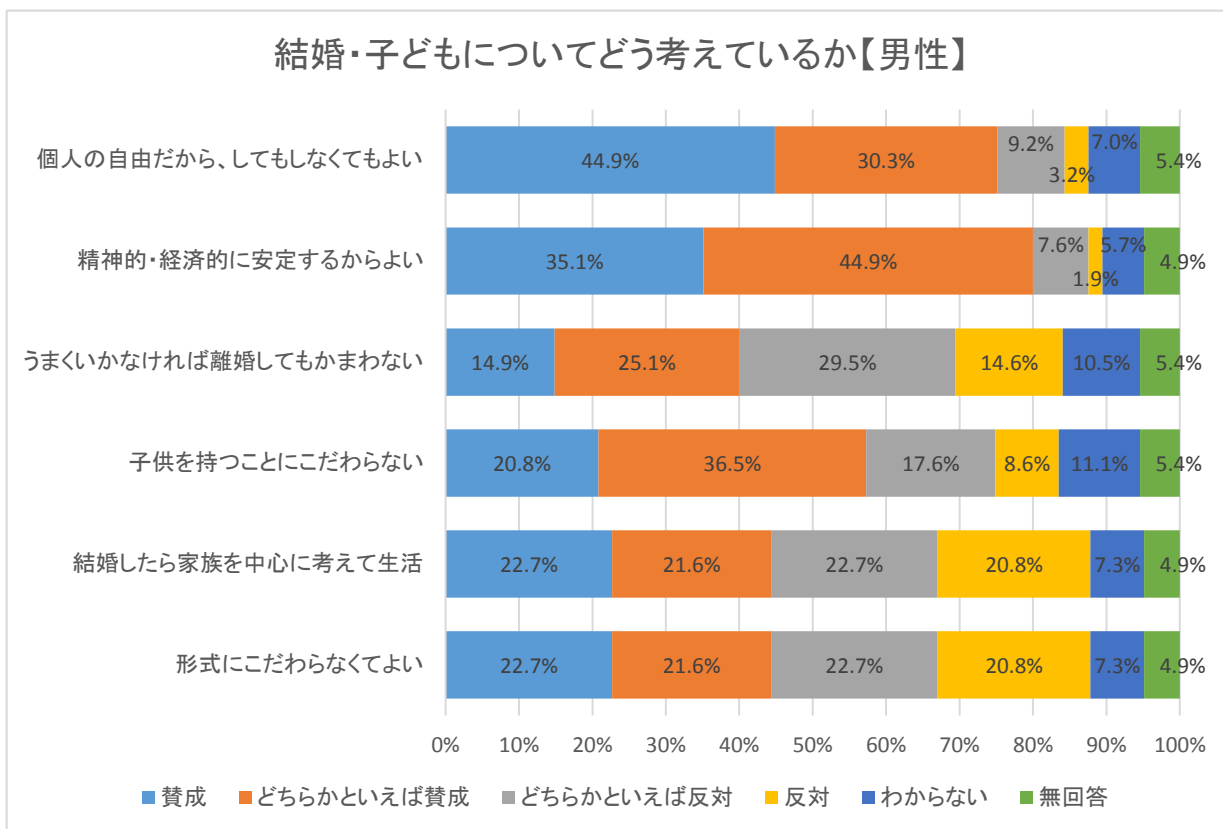
D. その他(趣味、子どもの習い事等)



※「その他」の回答で、内容の記入があった人は「趣味」が9割以上でした。

問13 次にあげる結婚・子どものことについて、あなたはどのようにお考えですか。

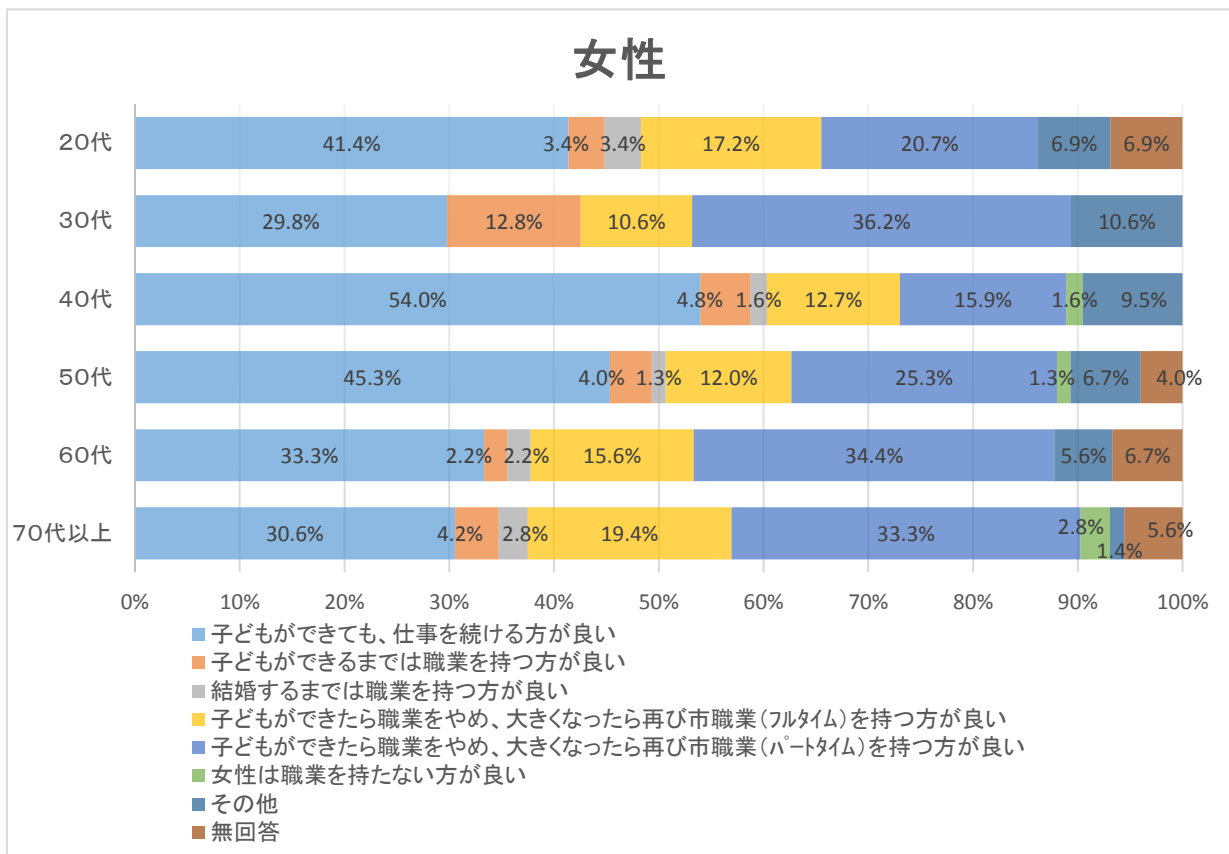
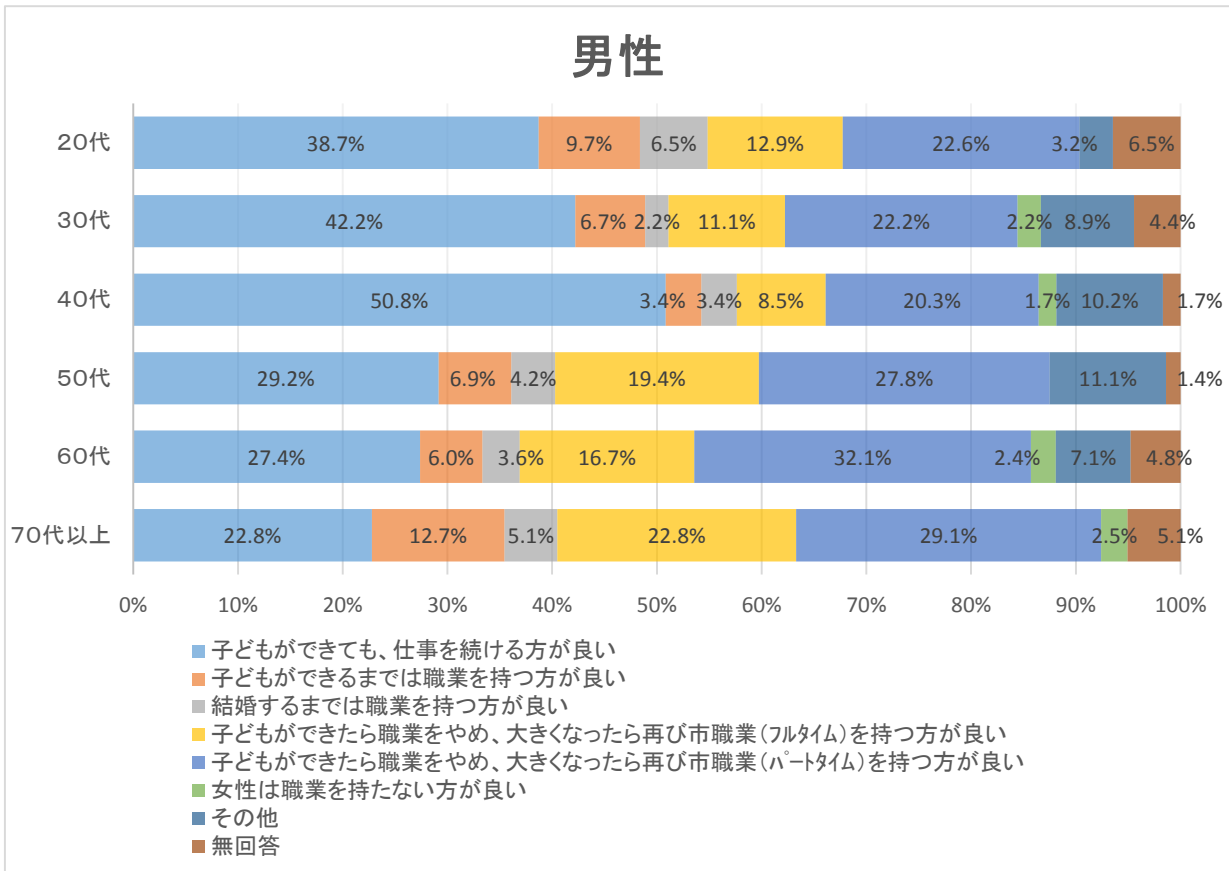
「結婚・子どもについて」の割合では、男女差は少なくなっているが、「結婚したら家族を中心に考えて生活」の項目においては、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた割合が、男性(44.3%)に対して女性(61.2%)となっており、結婚後は家庭中心に生活したいとする女性が多いと考えられる。



3 就労について

問14 一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

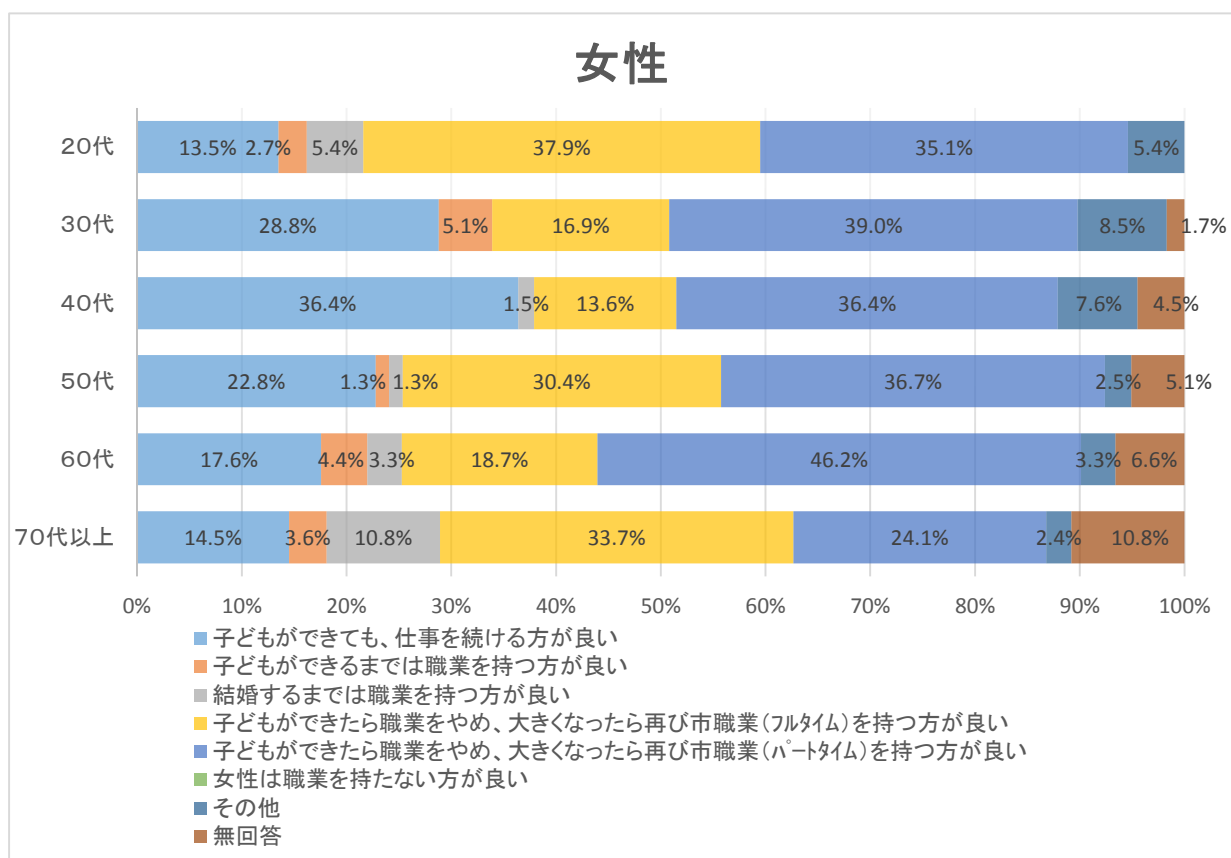
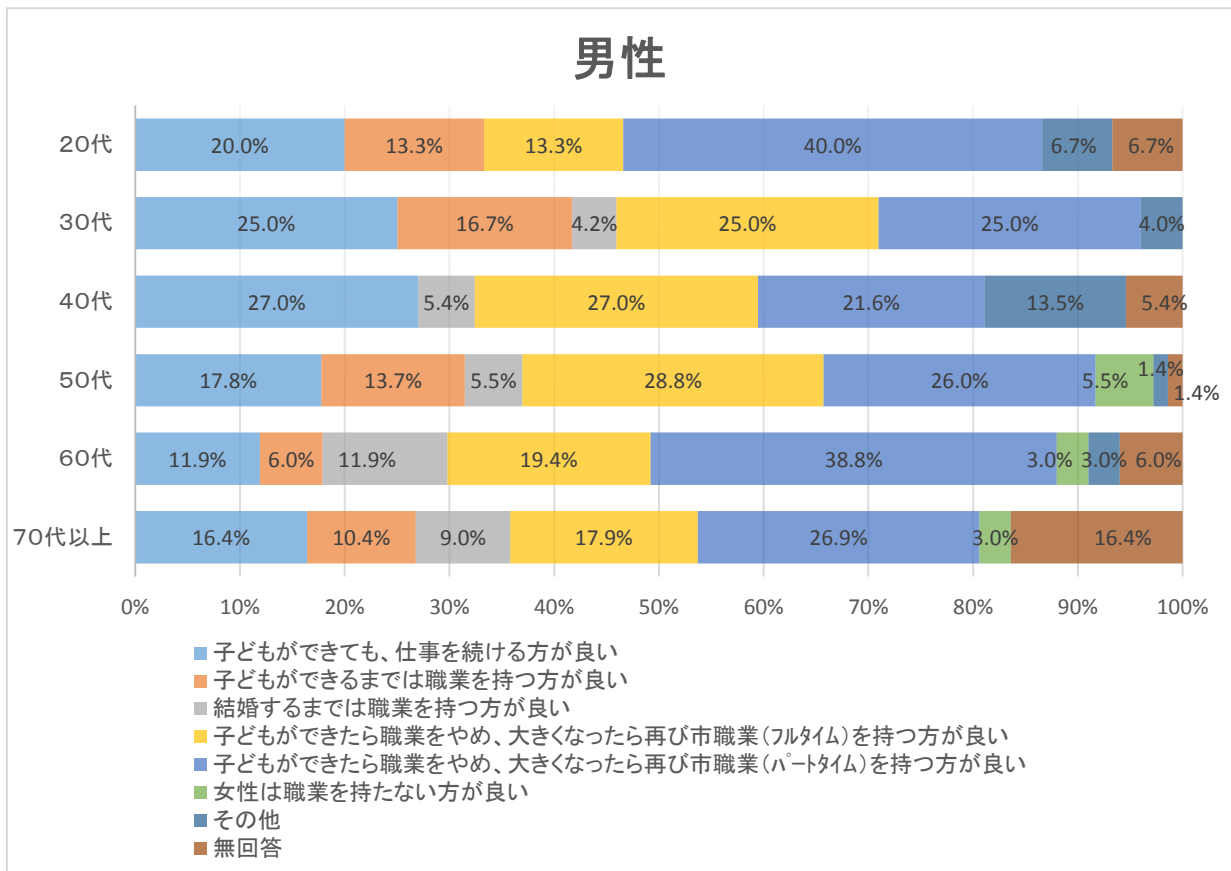
「子どもができて、仕事を続ける方が良い」と答えた割合は、全体で(36.0%)、女性では20代(41.4%)、40代(54.0%)、50代(45.3%)と総じて高くなっているが、30代だけは(29.8%)と極端に低くなっている。30代は育児期の家庭が多いことから、現実的に育児中の女性と考え方に違いがあることが窺われる。



問14 H18年度アンケート結果

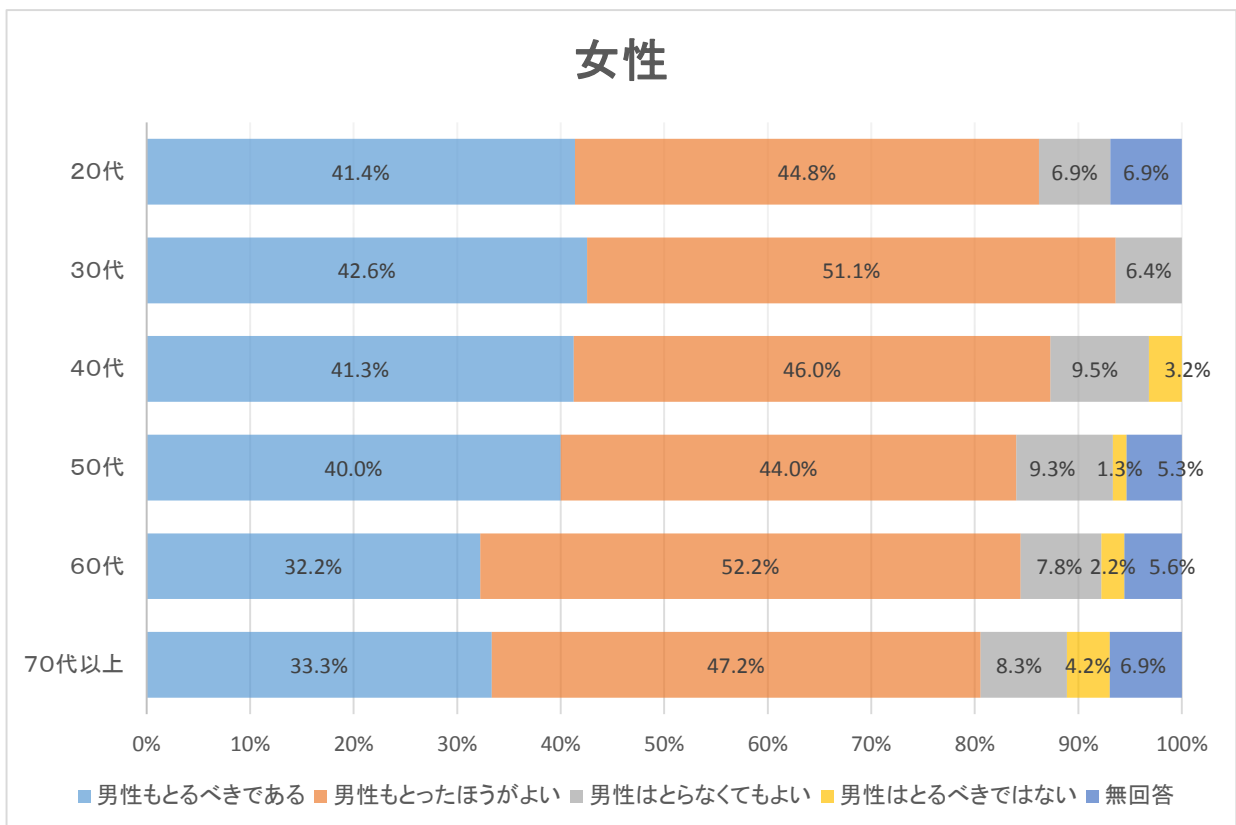
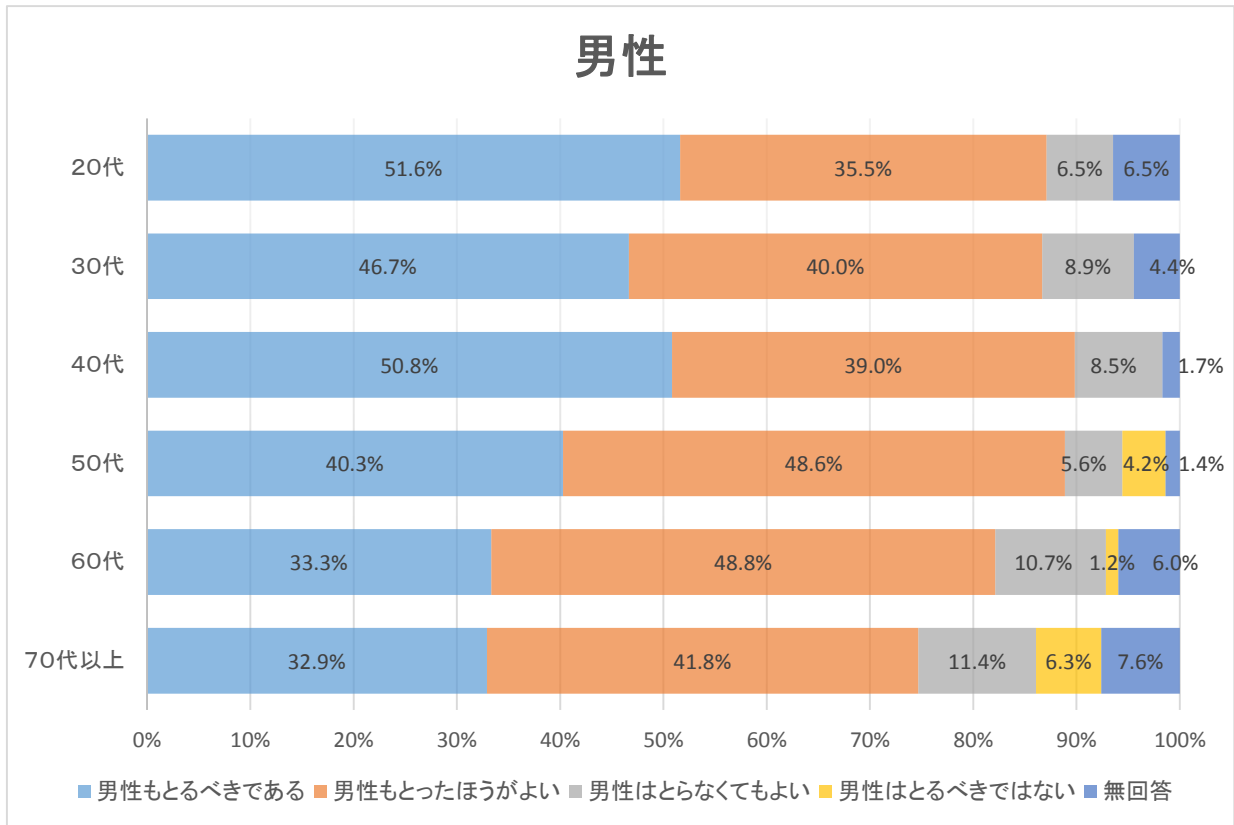
《平成18年度との比較》

「子どもができて、仕事を続ける方が良い」と答えた割合は、ほとんどの年代で大幅に増加しているのに対し、実際に育児中の家庭が多い30代女性だけがほぼ変わらないという結果になった。



問15 男性が育児休業をとることについてあなたはどのように思いますか。(1つに○)

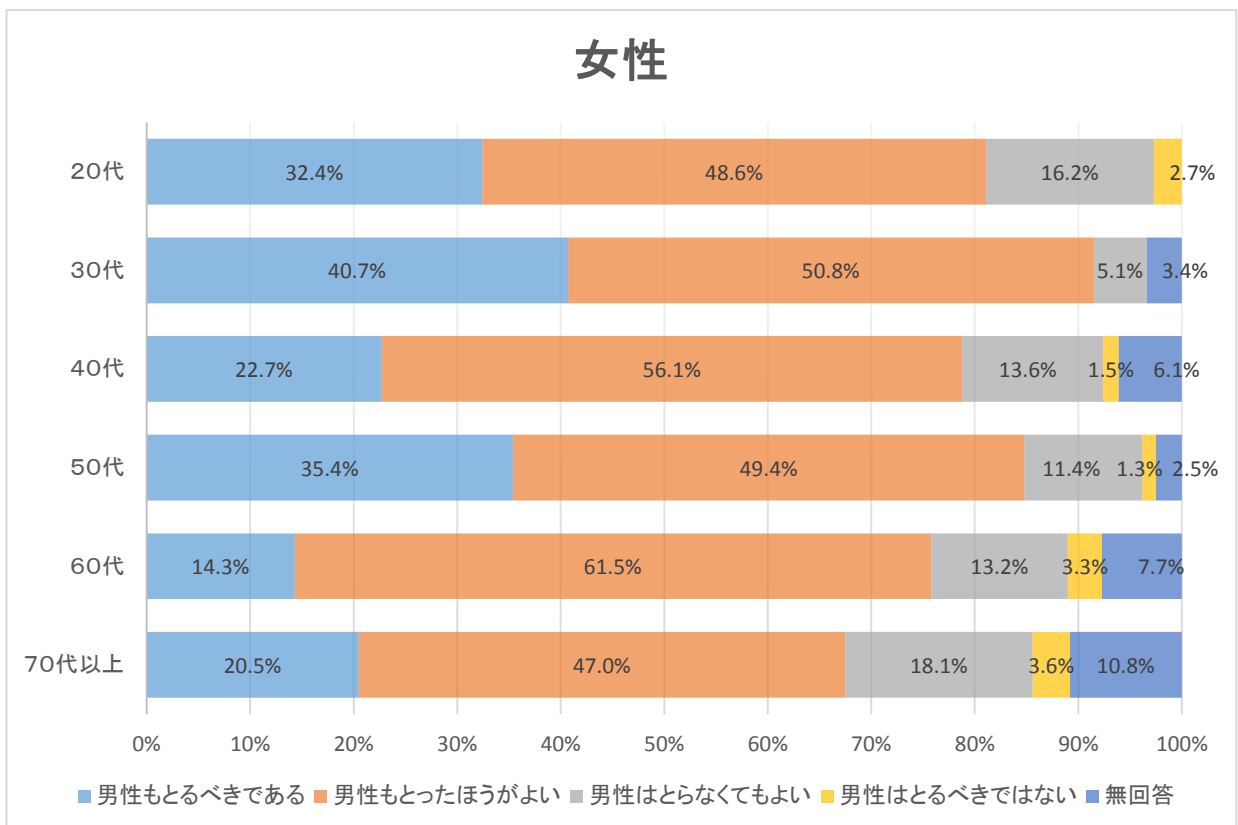
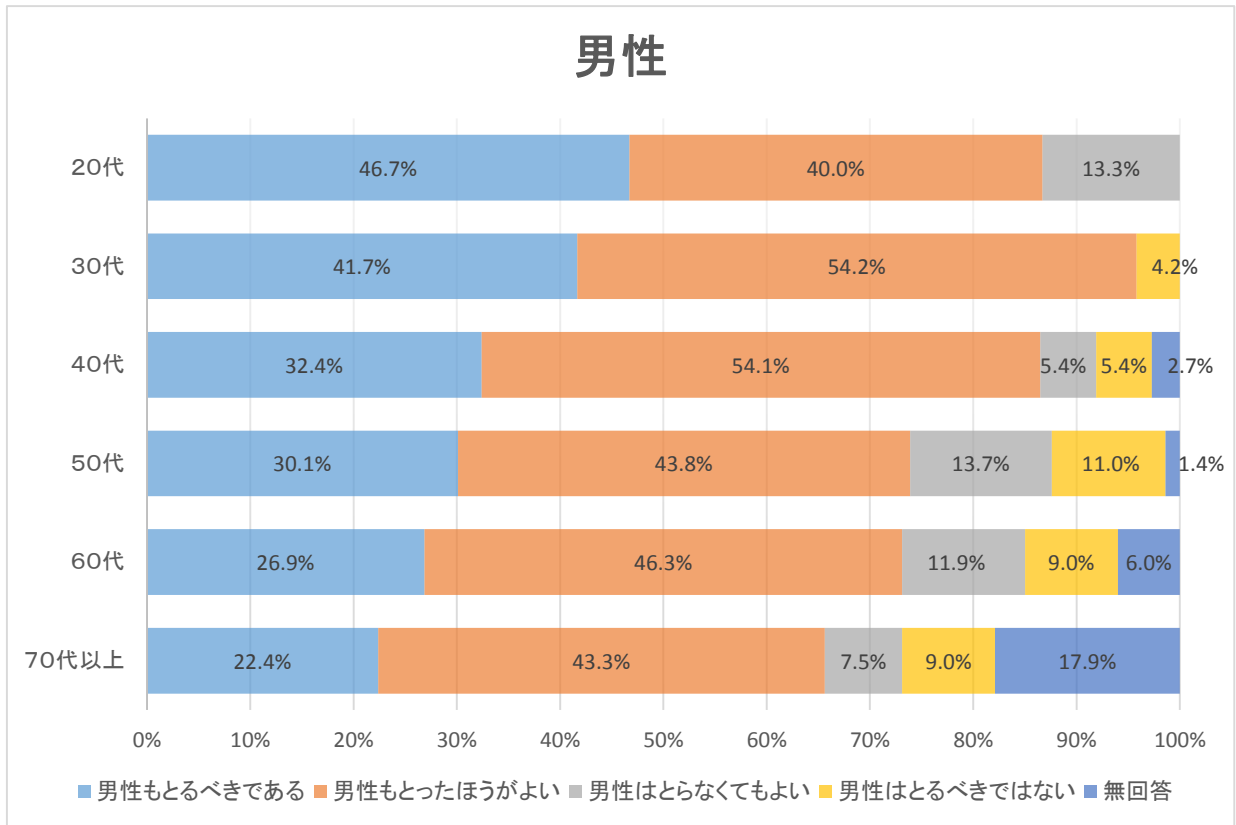
男女別に顕著な差はみられず、全体では「男性もとるべきである」と「男性もとったほうがよい」の合計が8割以上となっている。このことから、男性の育児休業取得には世間一般に肯定的であることがわかる。



問15 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

平成18年度も「男性もとるべきである」と「男性もとったほうがよい」の合計は全体で(77.8%)と高く、男性の育児休業取得に肯定的な考え方は変わらない。

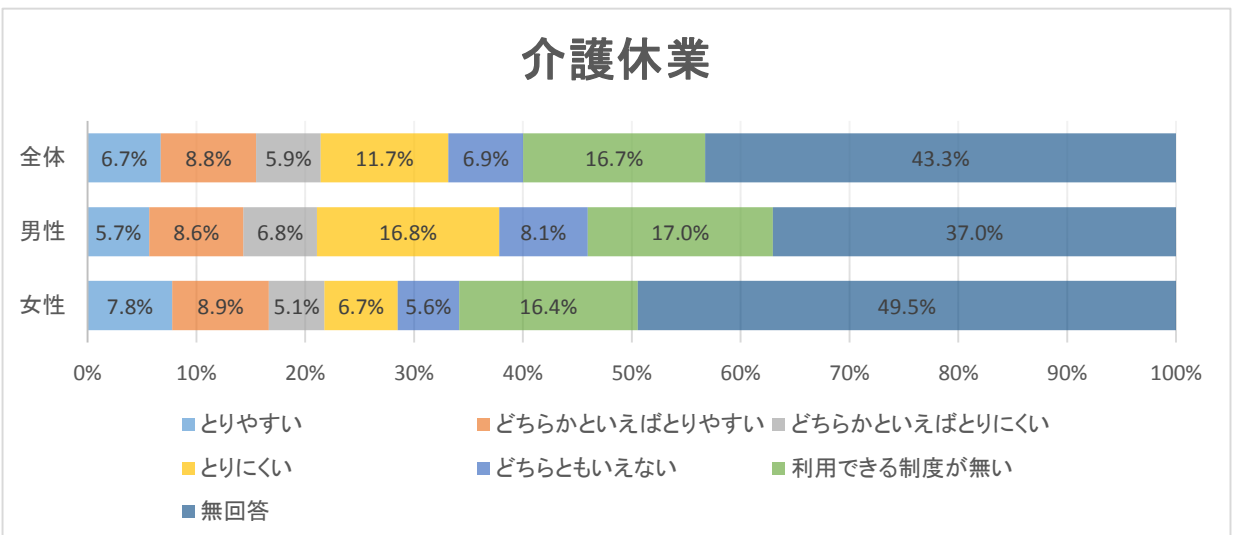
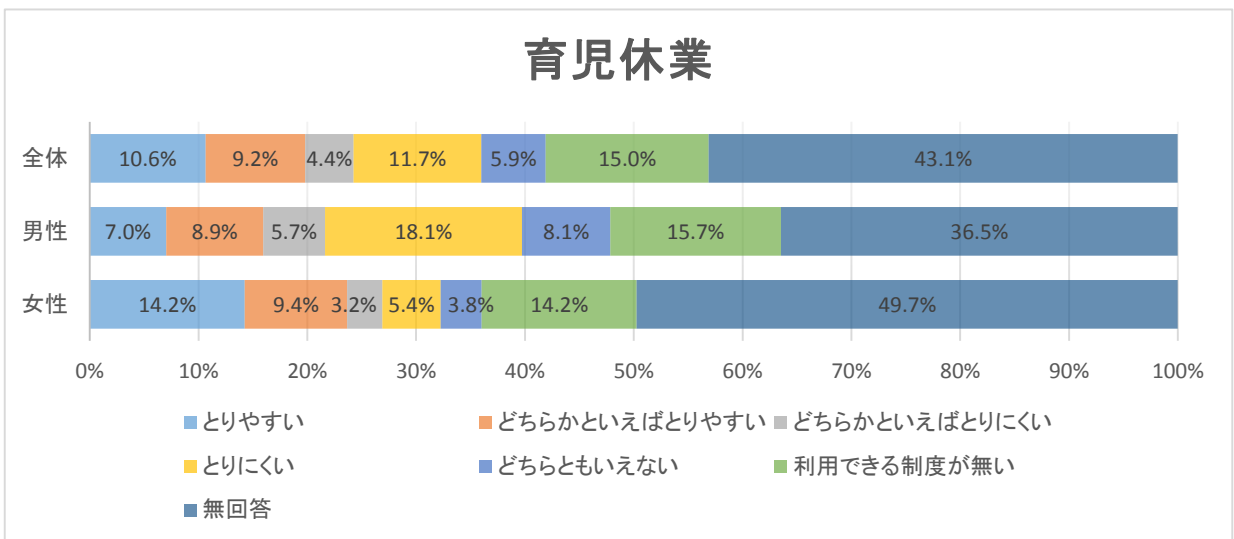
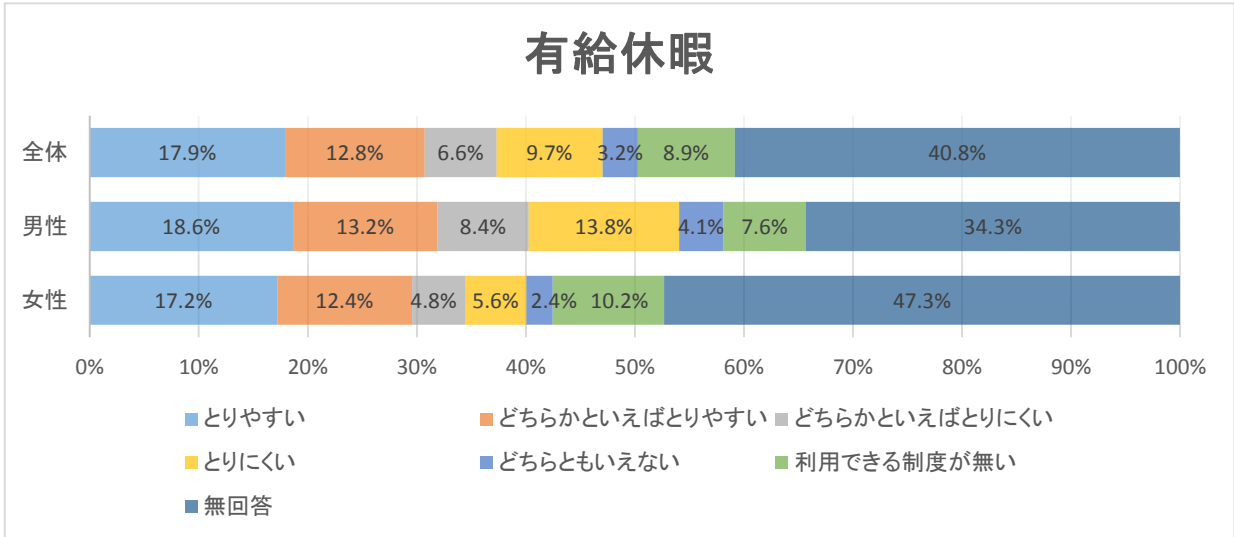


【現在働いている方におたずねします】

問16 あなたの職場は有給休暇・育児休業・介護休業はとりやすいですか。
(A～Cのそれぞれについて、1～6の1つに○)

全体では、有給休暇について、「とりやすい」(17.9%)、「どちらかといえばとりやすい」(12.8%)をあわせて30.7%に対して、「どちらかといえばとりにくい」(6.6%)、「とりにくい」(9.7%)、「利用できる制度が無い」とあわせると25.2%となる。

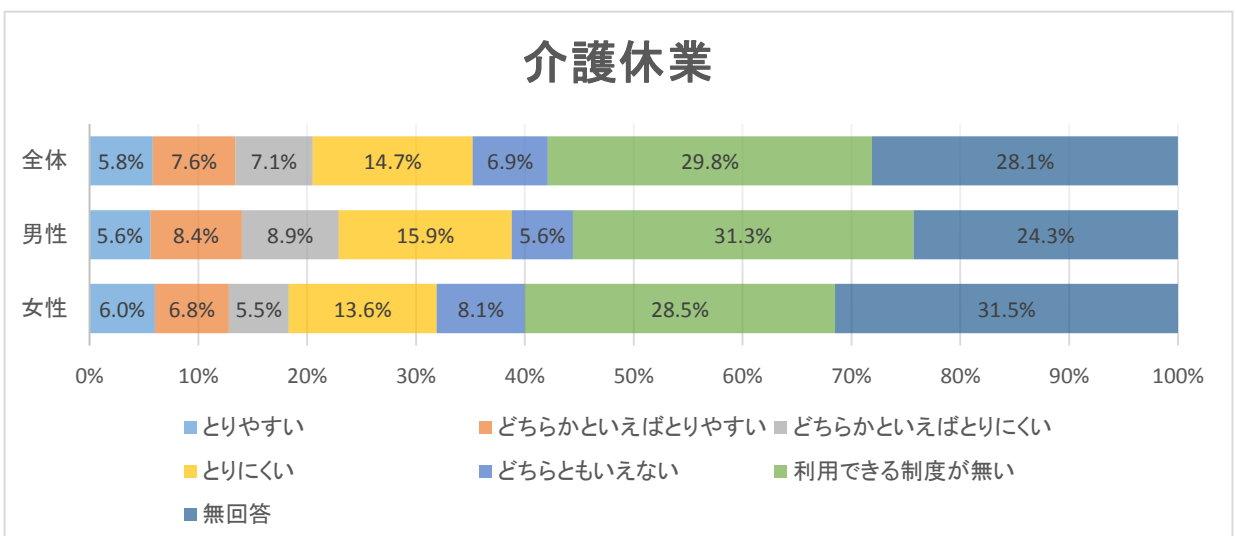
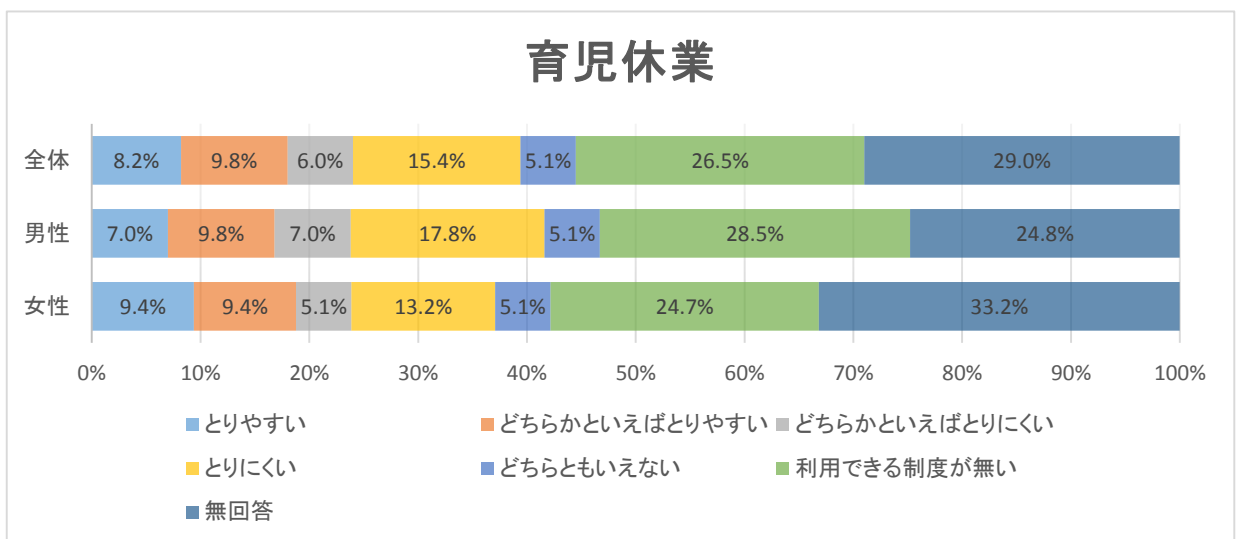
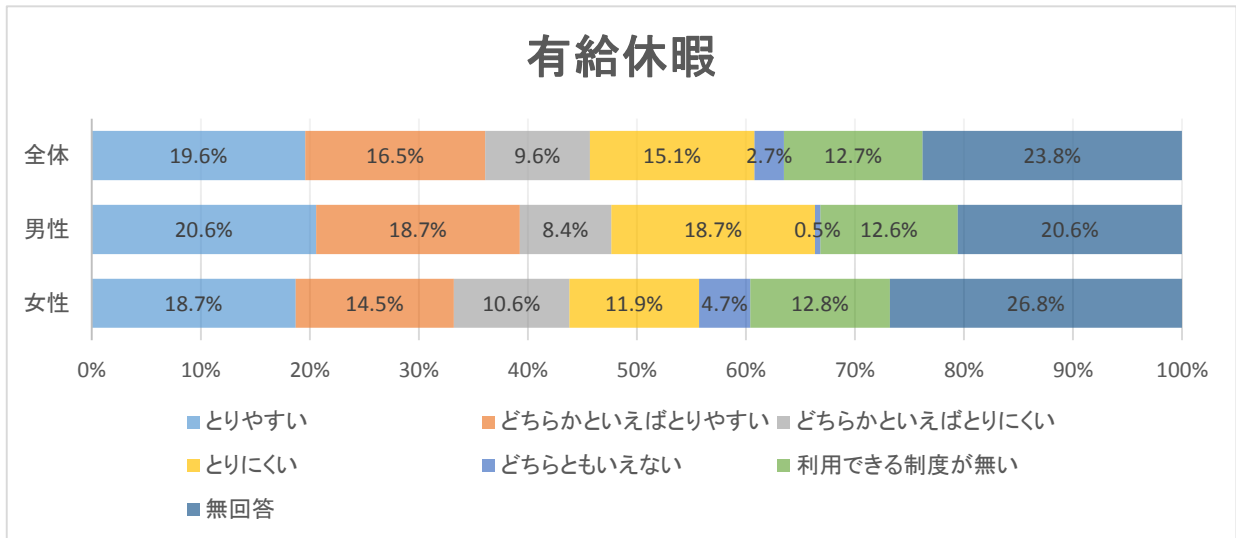
育児休業と介護休業の取得には、男女差があり、男性のほうがより取得しづらい状況が窺われる。



問16 H18年度アンケート結果

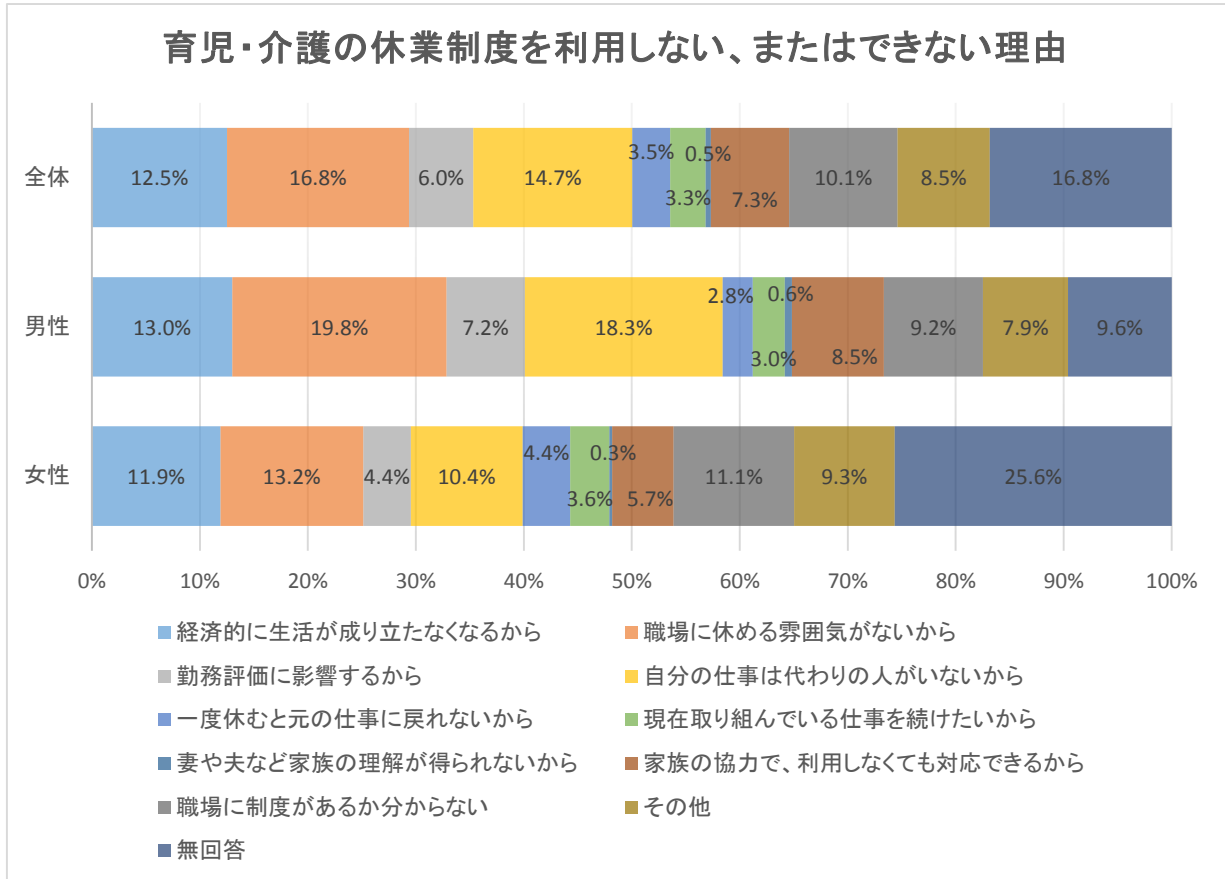
《平成18年度との比較》

育児休業と介護休業について、「利用できる制度が無い」が育児休業で(26.5%)から(15.0%)、介護休業で(29.8%)から(16.7%)と制度の普及が進められている状況が分かる。



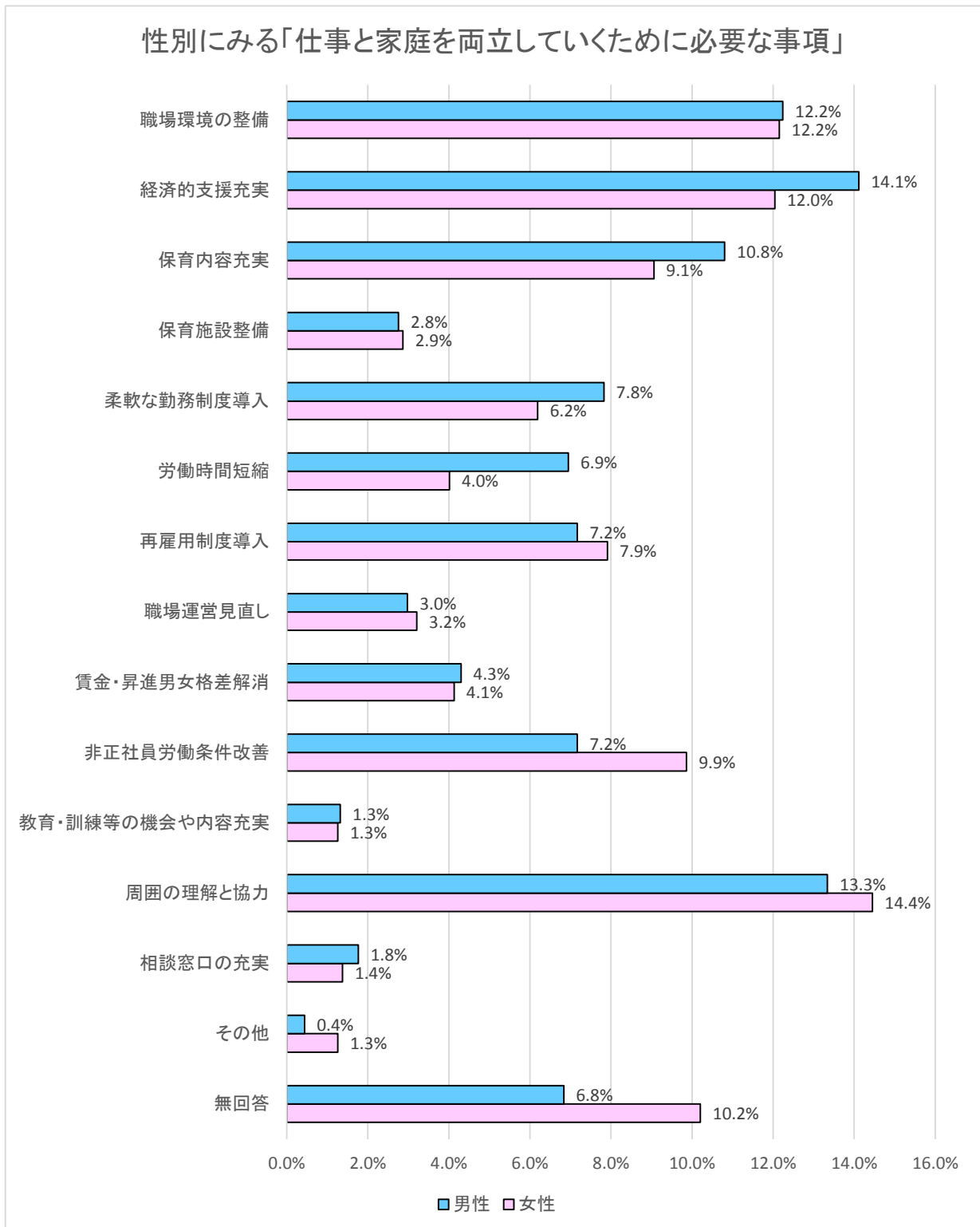
問17 育児・介護の休業制度を利用しない、または使用できない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

休業制度を利用しない理由として、割合の高い順に「職場に休める雰囲気がないから」(16.8%)、「自分の仕事は代わりの人がいないから」(14.7%)と職場環境を原因とする理由に、「経済的に生活がなりたなくなるから」(12.5%)が続いている。



問18 男女がともに仕事と家庭を両立していくために、どのような環境整備が必要だと思いますか。
(あてはまるものに3つまで○)

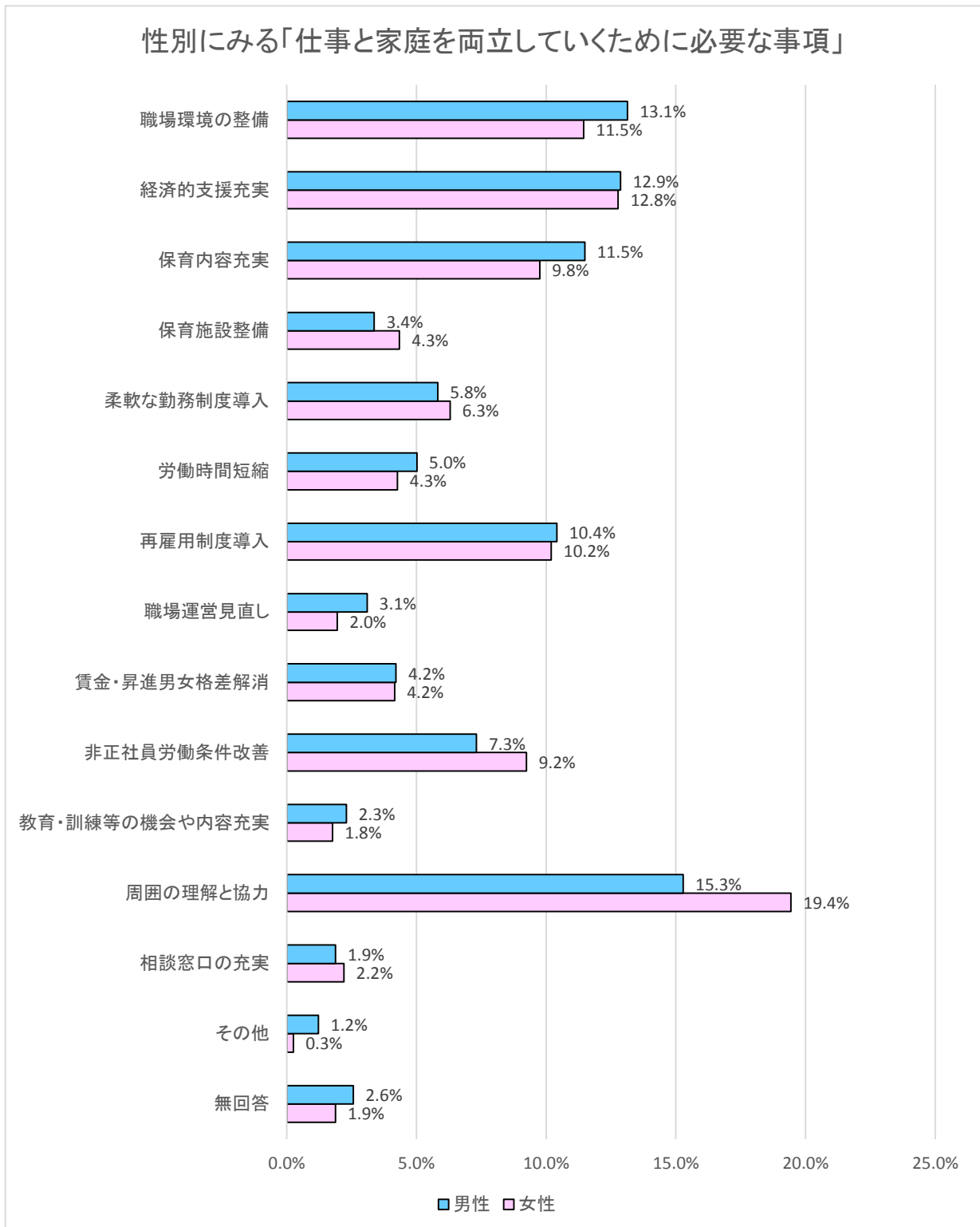
男女ともに、回答の多い項目には「周囲の理解と協力」「経済的支援充実」「職場環境の整備」があげられ、「保育内容充実」「非正社員労働条件改善」が続く。
仕事と家庭を両立するには、周囲の理解と協力に加え、様々な支援や環境整備が必要である。



問18 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

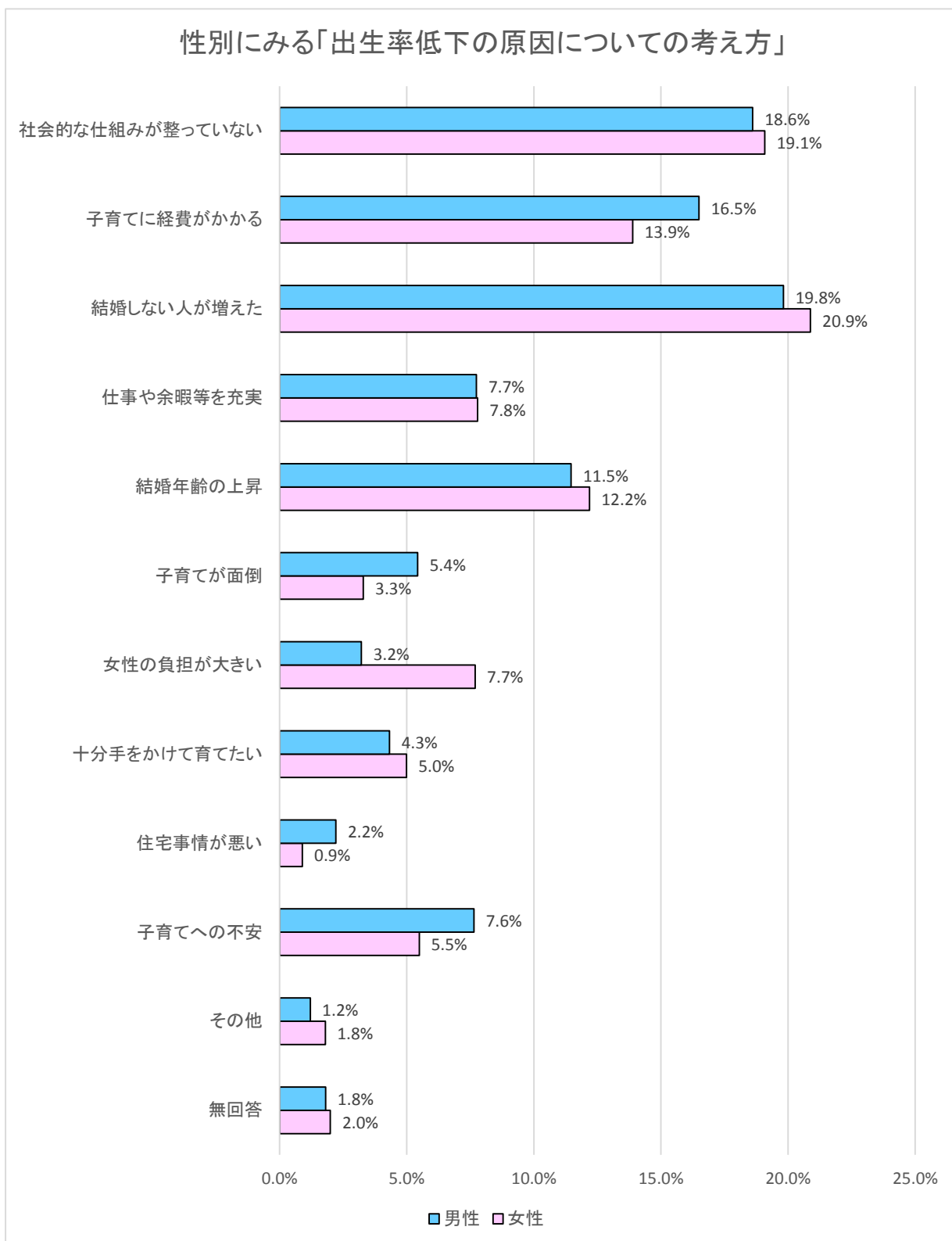
回答の多い項目には、「周囲の理解と協力」「経済的支援充実」「職場環境の整備」があげられ、大きな変化はみられない。



4 少子・高齢化について

問19 出生率が低下しているのは何が原因だと思いますか。(あてはまるものに3つまで○)

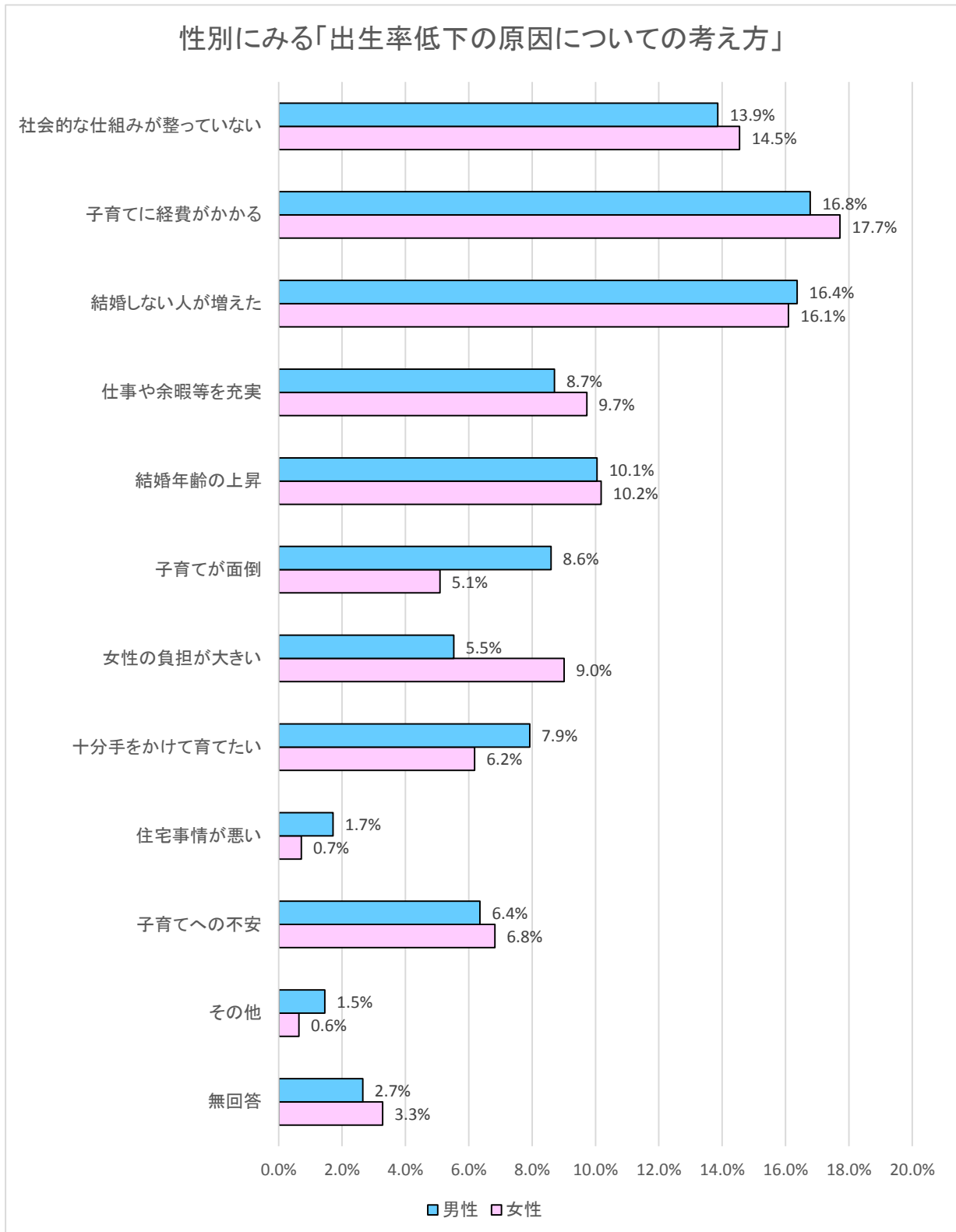
回答として多い順に「結婚しない人が増えた」(男性19.8%、女性20.9%)、「社会的な仕組みが整っていない」(男性18.6%、女性19.1%)があげられ、「子育てに費用がかかる」(男性16.5%、女性13.9%)、「結婚年齢の上昇」(男性11.5%、女性12.2%)が続く。



問19 H18年度アンケート結果

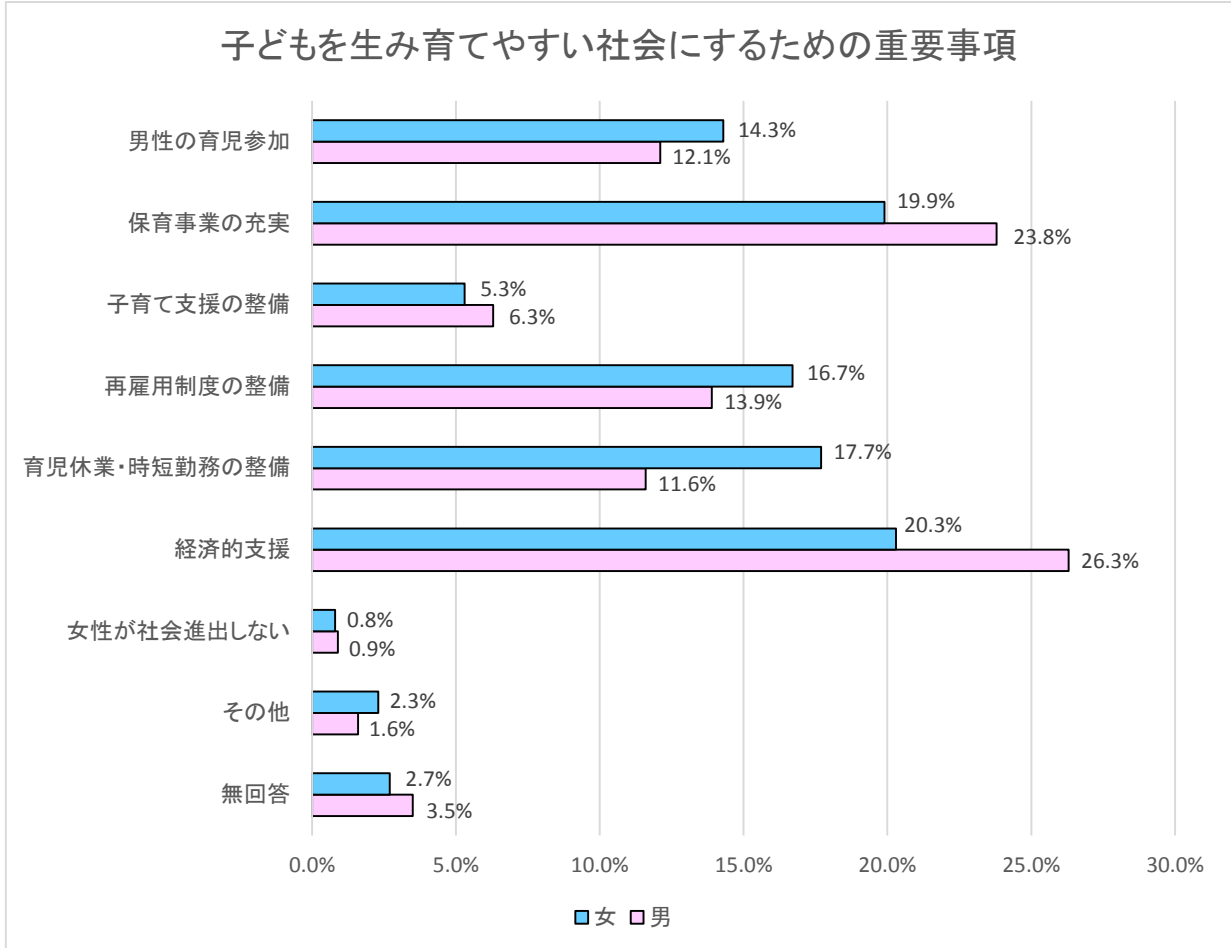
《平成18年度との比較》

回答の多かった項目をみると、「子育てに経費がかかる」の割合は減少し、「社会的な仕組みが整っていない」「結婚しない人が増えた」が増加している。



問20 子どもを生き育てやすい社会にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。
(あてはまるものに2つまで○)

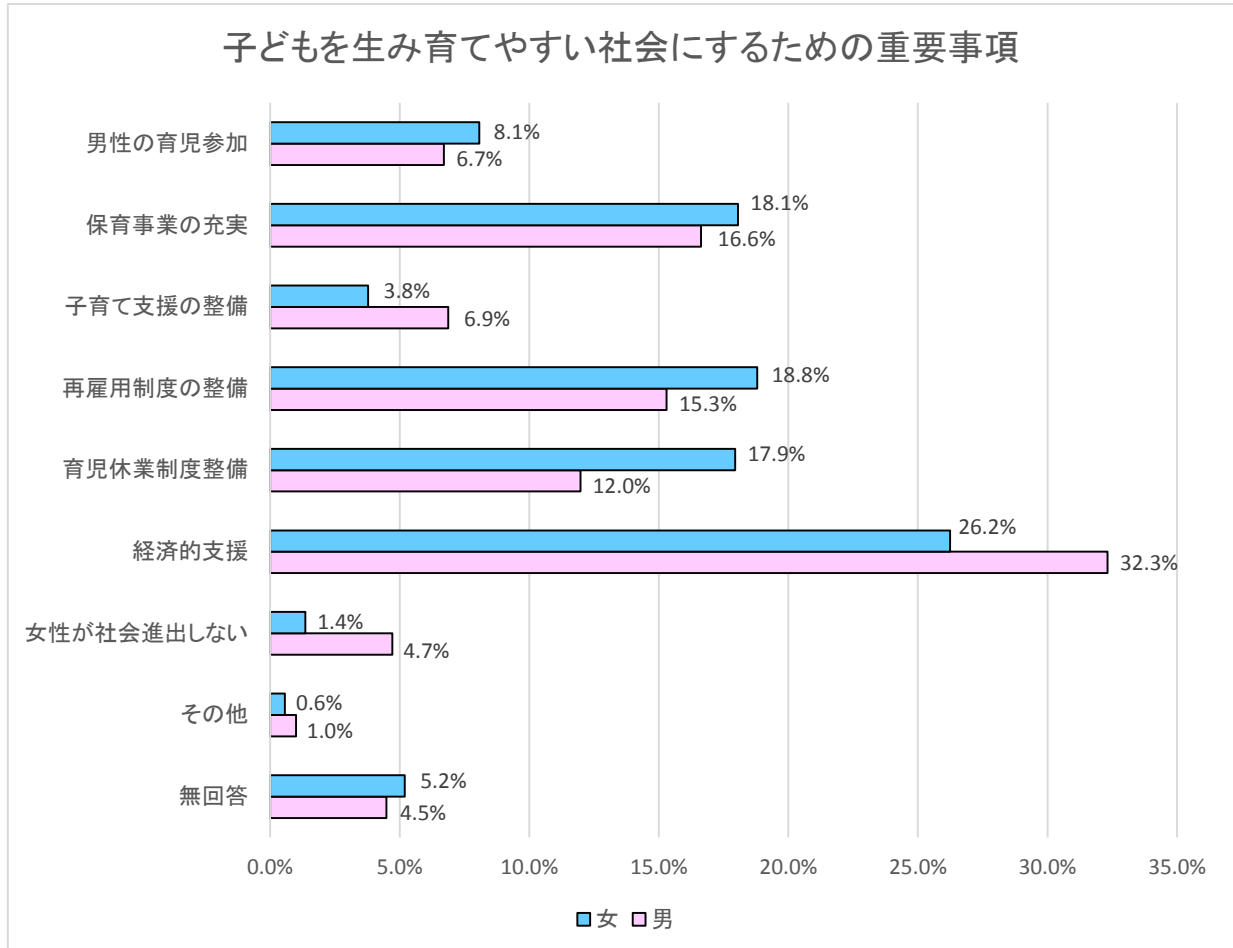
回答として多い順に「経済的支援」(男性20.3%、女性26.3%)、「保育事業の充実」(男性19.9%、女性23.8%)があげられ、「再雇用制度の整備」(男性16.7%、女性13.9%)、「育児休業・時短勤務の整備」(男性17.7%、女性11.6%)、「男性の育児参加」(男性14.3%、女性12.1%)が続く。



問20 H18年度アンケート結果

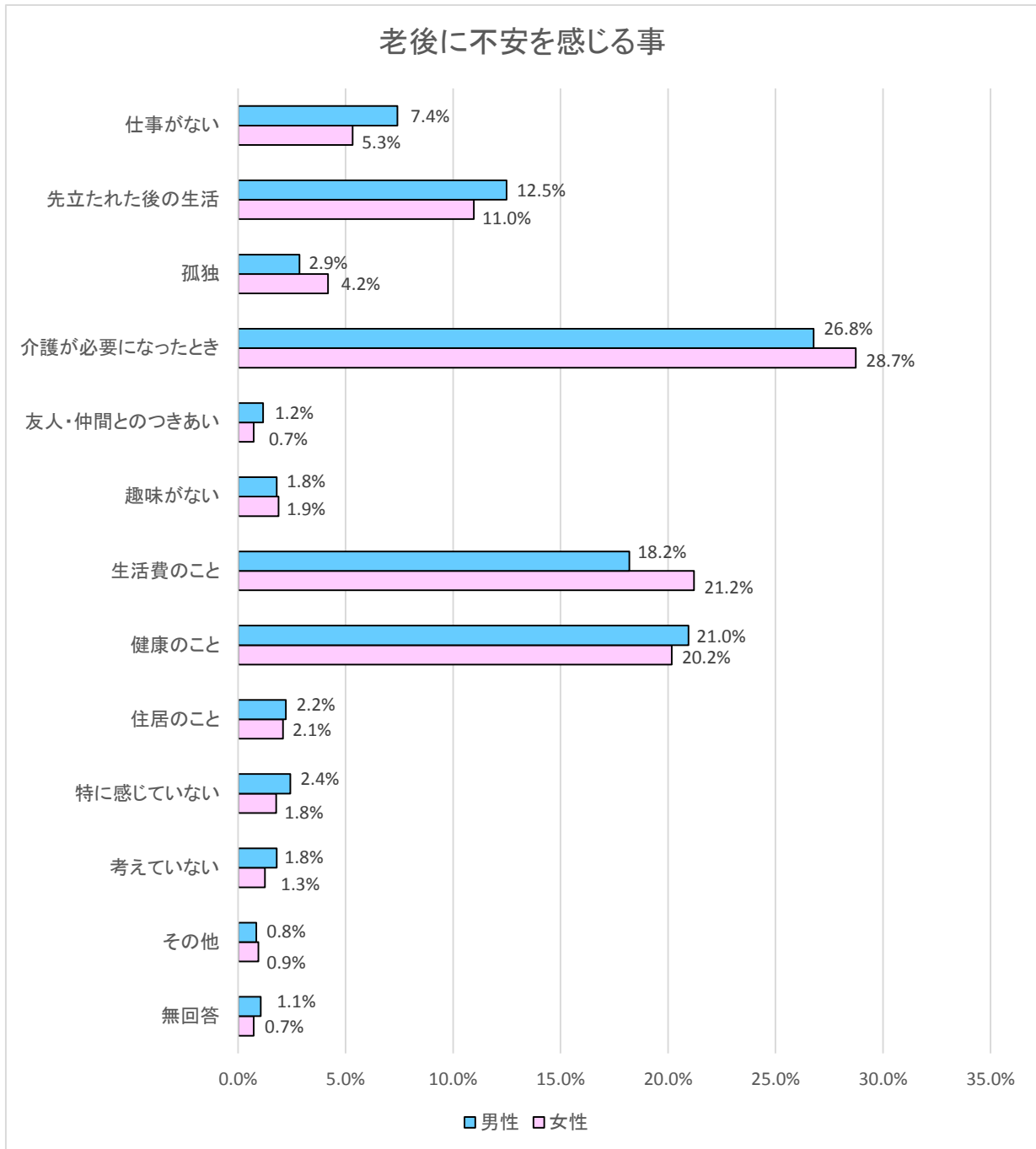
《平成18年度との比較》

回答の多かった項目に変化はみられないが、「経済的支援」の割合は減少し、「男性の育児参加」が大きく増加している。



問21 あなたが自分の老後に不安を感じるのどのようなことですか。
(あてはまるものに3つまで○)

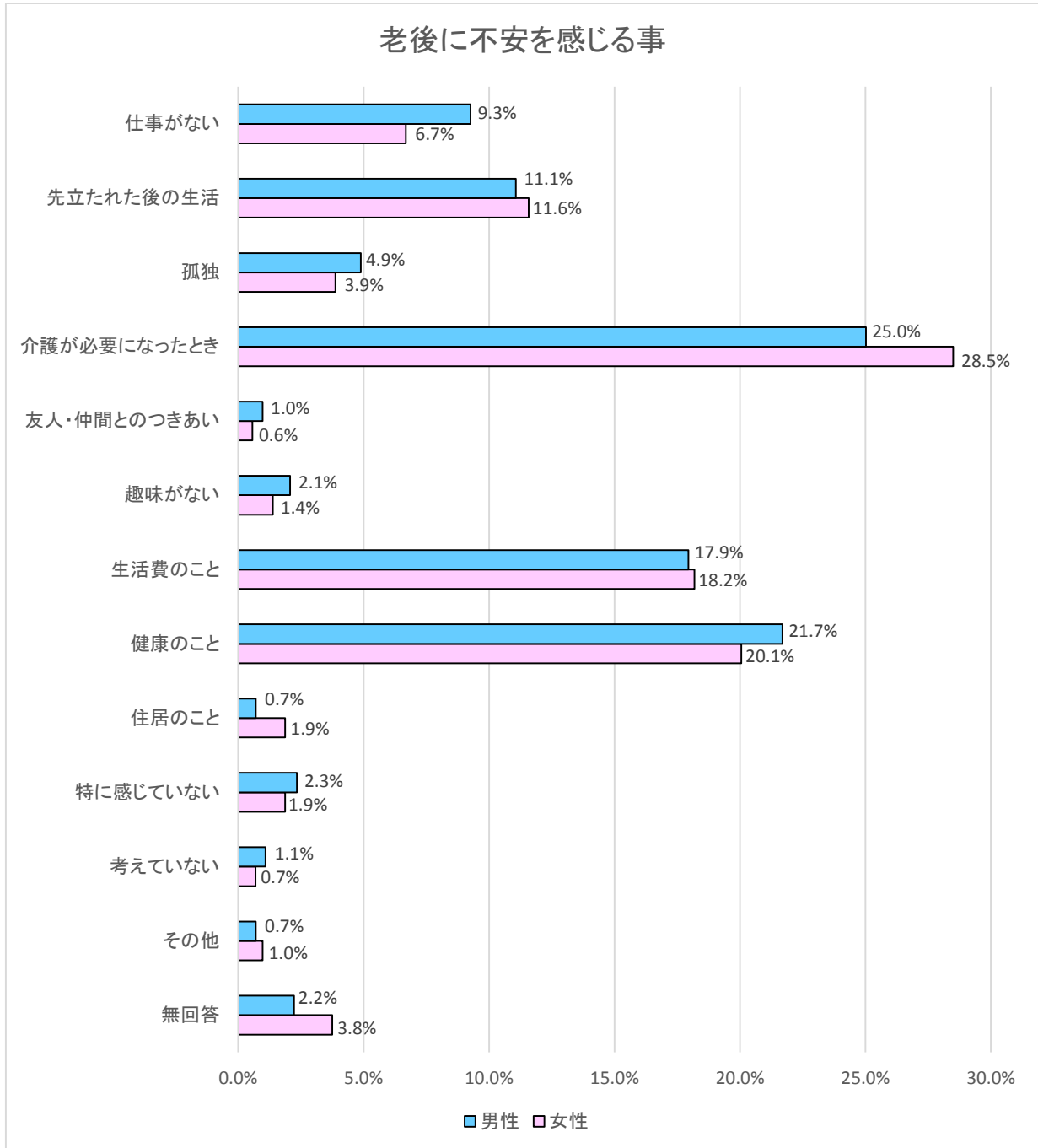
回答として多い順に「介護が必要になったとき」(男性26.8%、女性28.7%)、「健康のこと」(男性21.0%、女性20.2%)があげられ、「生活費のこと」(男性18.2%、女性21.2%)が続く。



問21 H18年度アンケート結果

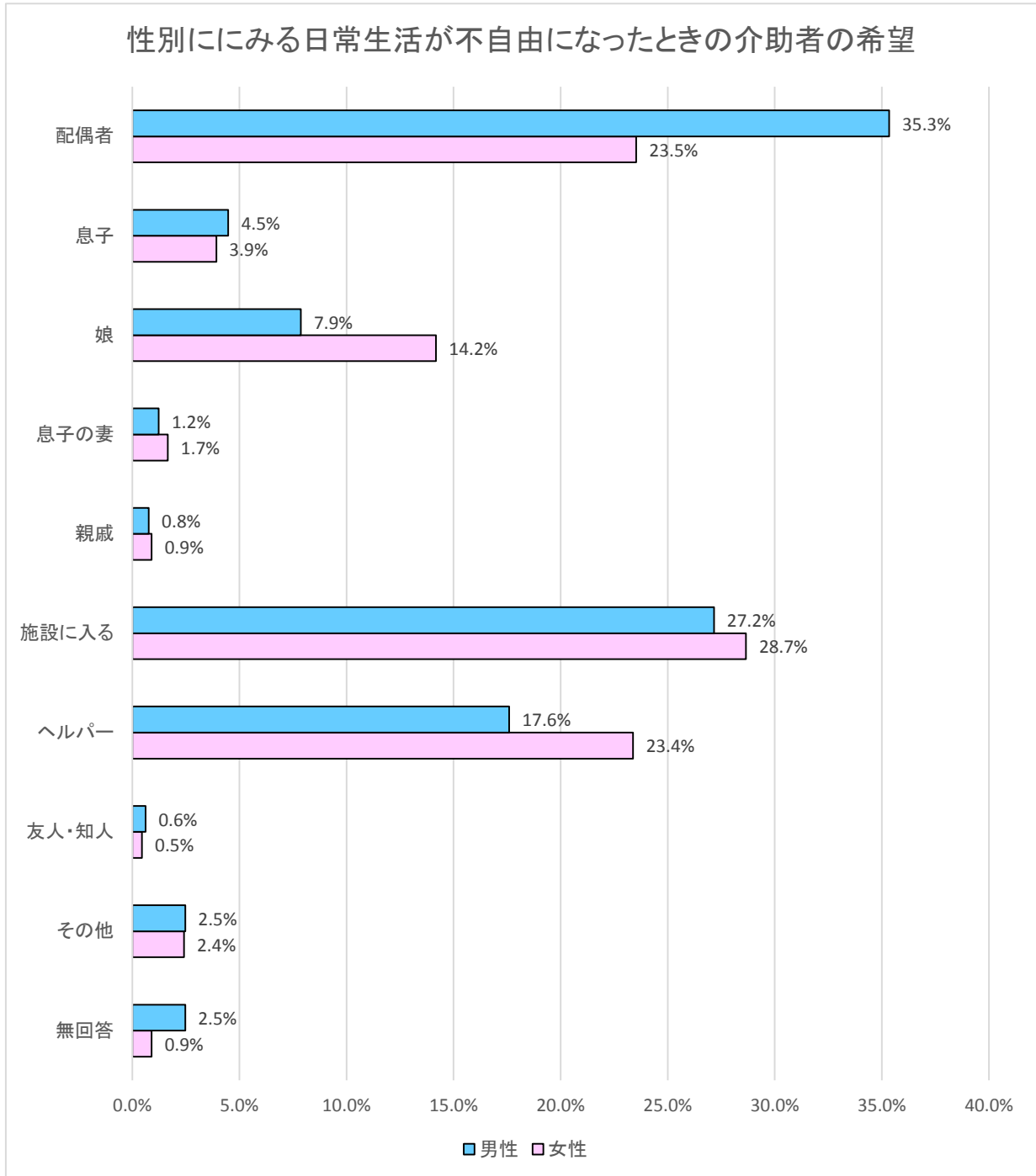
《平成18年度との比較》

平成18年度から大きな変化はなく、ほぼ同様の結果となった。



問22 もし日常生活が不自由になったとき、身の回りの世話はどなたにしてもらいたと思いますか。
(あてはまるものに2つまで○)

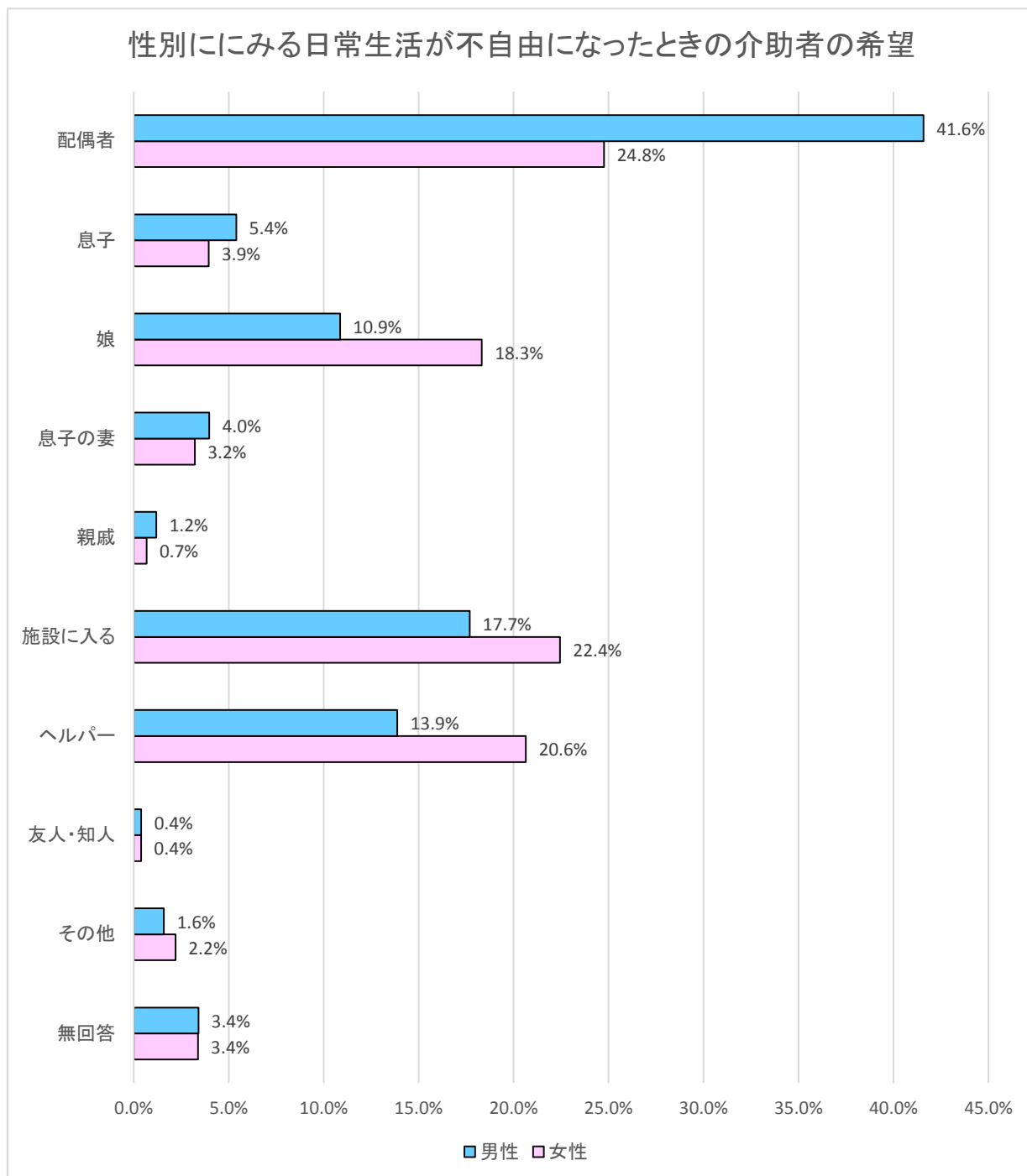
男女とも「配偶者」「施設に入る」「ホームヘルパー」ちう回答が多い。そのうち男性では「配偶者」と答えた人が女性とくらべ多く、女性は「ホームヘルパー」が多かった。また、「息子」に男女差はあまりみられないが、女性は「娘」に世話をしてもらうことを望む傾向がある。



問22 H18年度アンケート結果

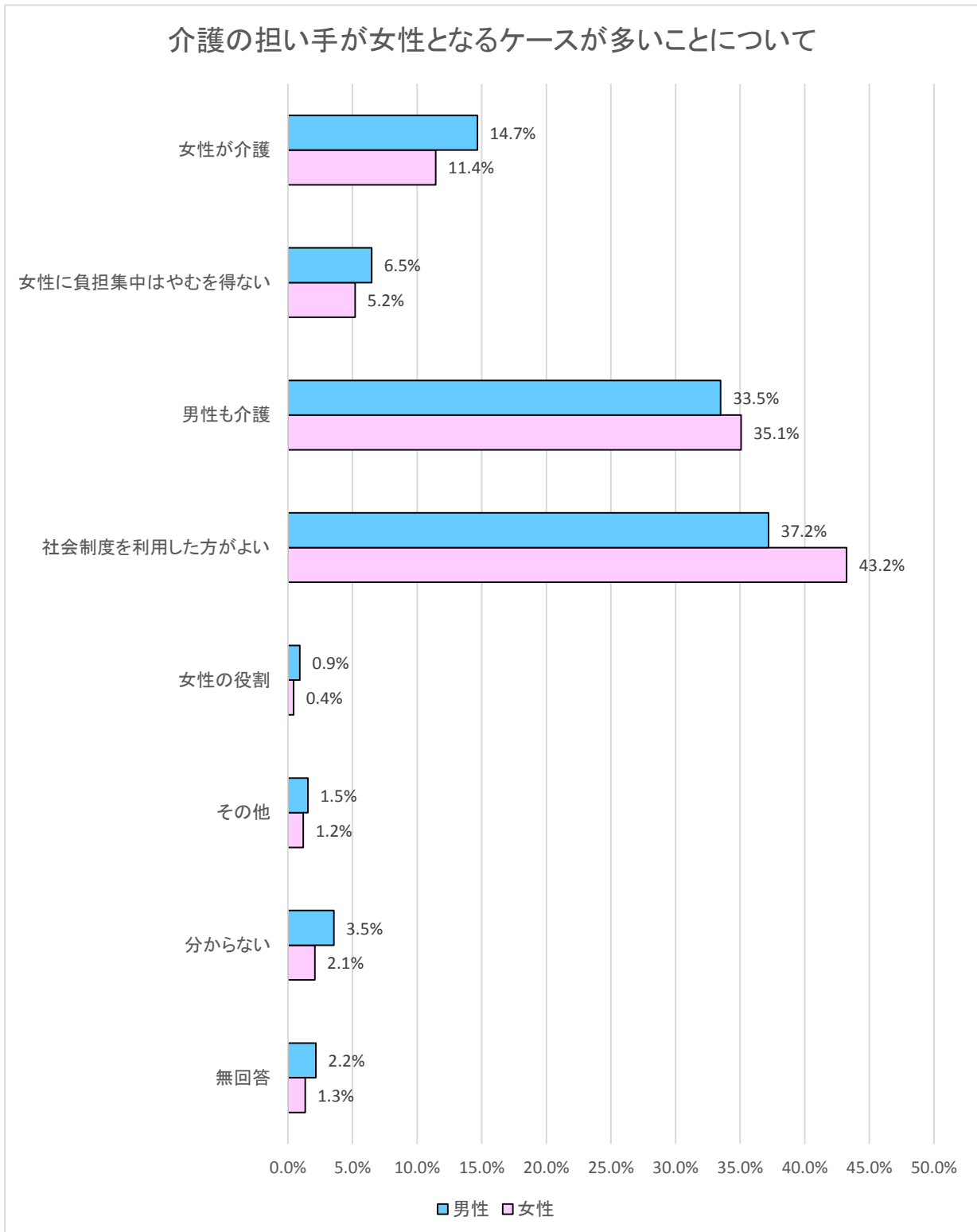
《平成18年度との比較》

平成18年度から大きな変化はなく、ほぼ同様の結果となった。



問23 寝たきりになったお年寄りなどの介護は、女性が主たる担い手となるケースが多いですが、あなたはこのことについてどう思いますか。
 (あてはまるものに2つまで○)

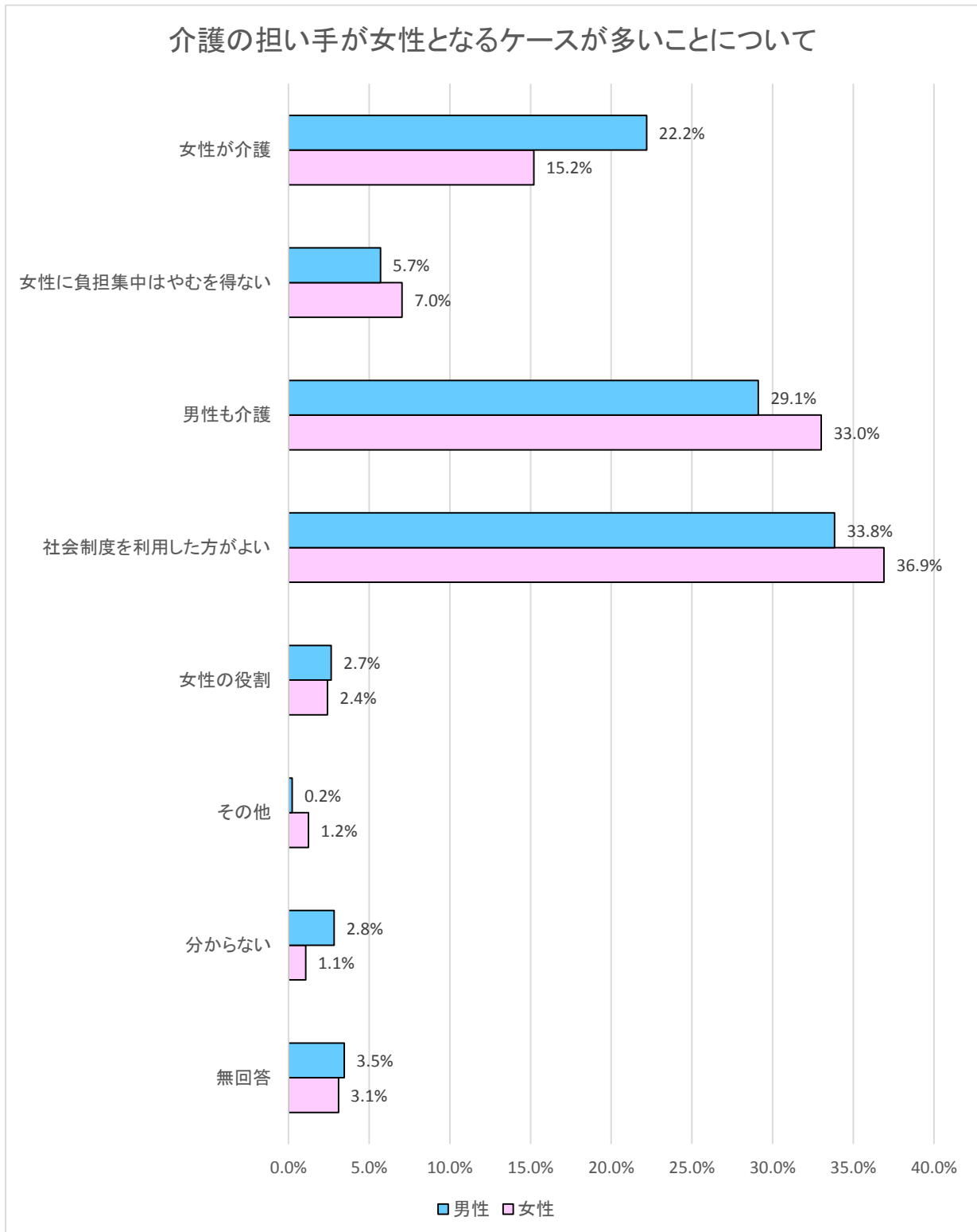
「社会制度を利用したほうがよい」(男性37.2%、女性43.2%)、「男性も介護」(男性33.5%、女性35.1%)という回答が多い。



問23 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

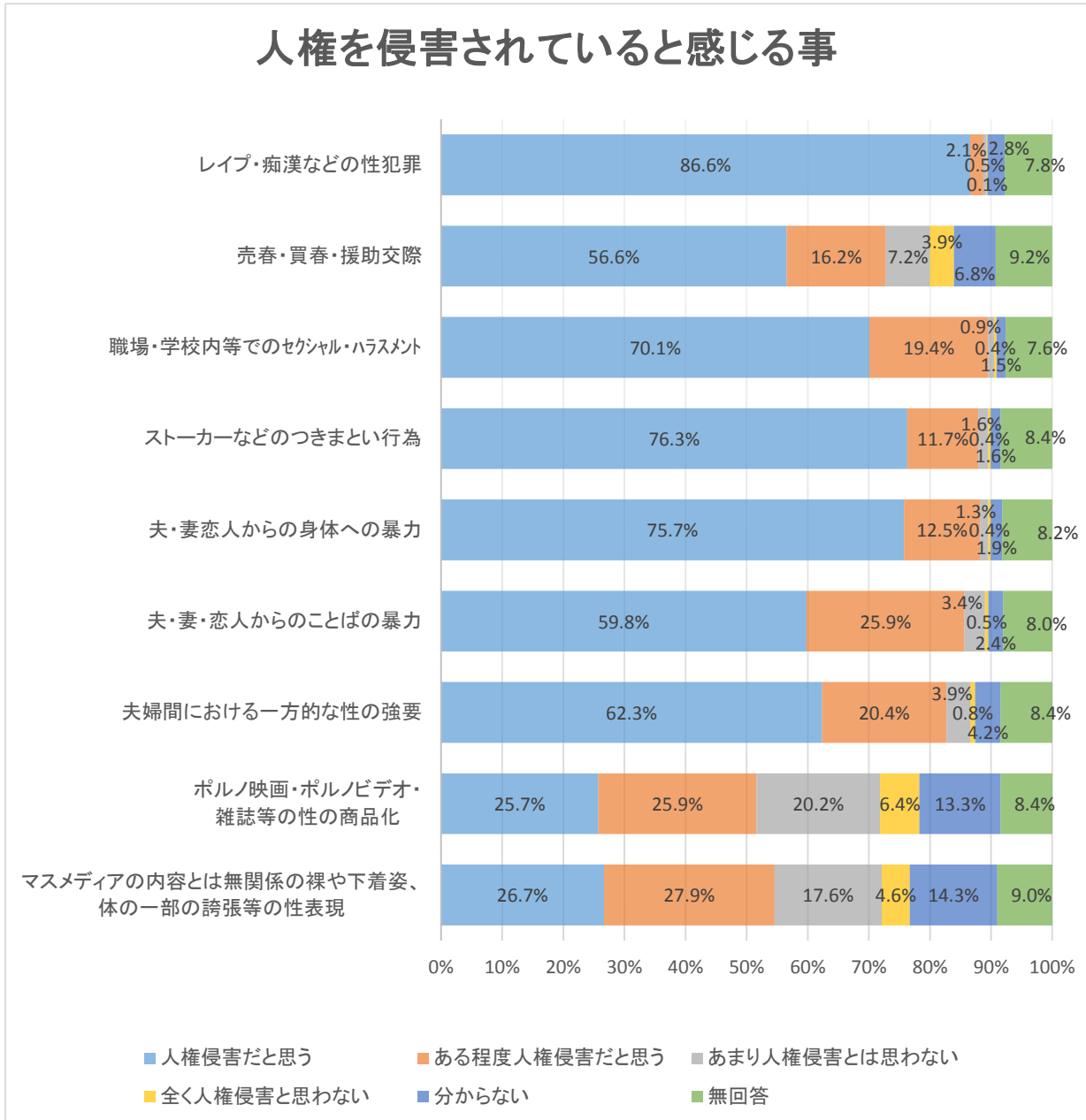
「社会制度を利用したほうがよい」「男性も介護」という回答の増加に加え、「女性が介護」という回答は減少していることから、女性の負担を軽減する考え方が進んでいる。



5 性・暴力と人権について

問24 あなたは、人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことですか。
(A~Iのそれぞれについて、1~5の1つに○)

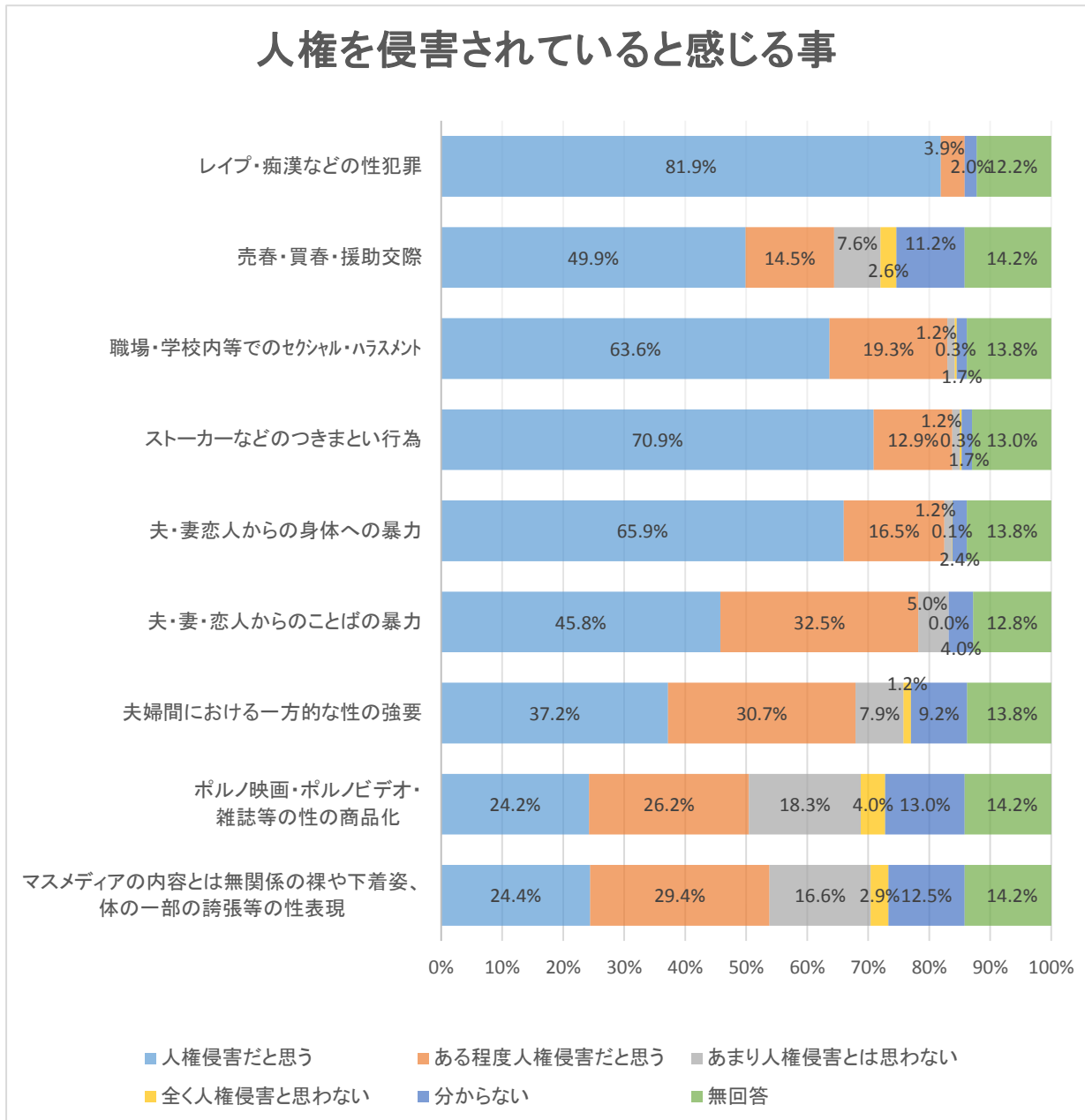
「人権侵害だと思う」と「ある程度人権侵害だと思う」をあわせると、多くの項目で7割を超える。一方で、低いのは「ポルノ映画・ポルノビデオ・雑誌等の性の商品化」、「マスメディアの内容とは無関係の裸や下着姿、身体の一部の誇張等の性表現」の2項目となった。



問24 H18年度アンケート結果

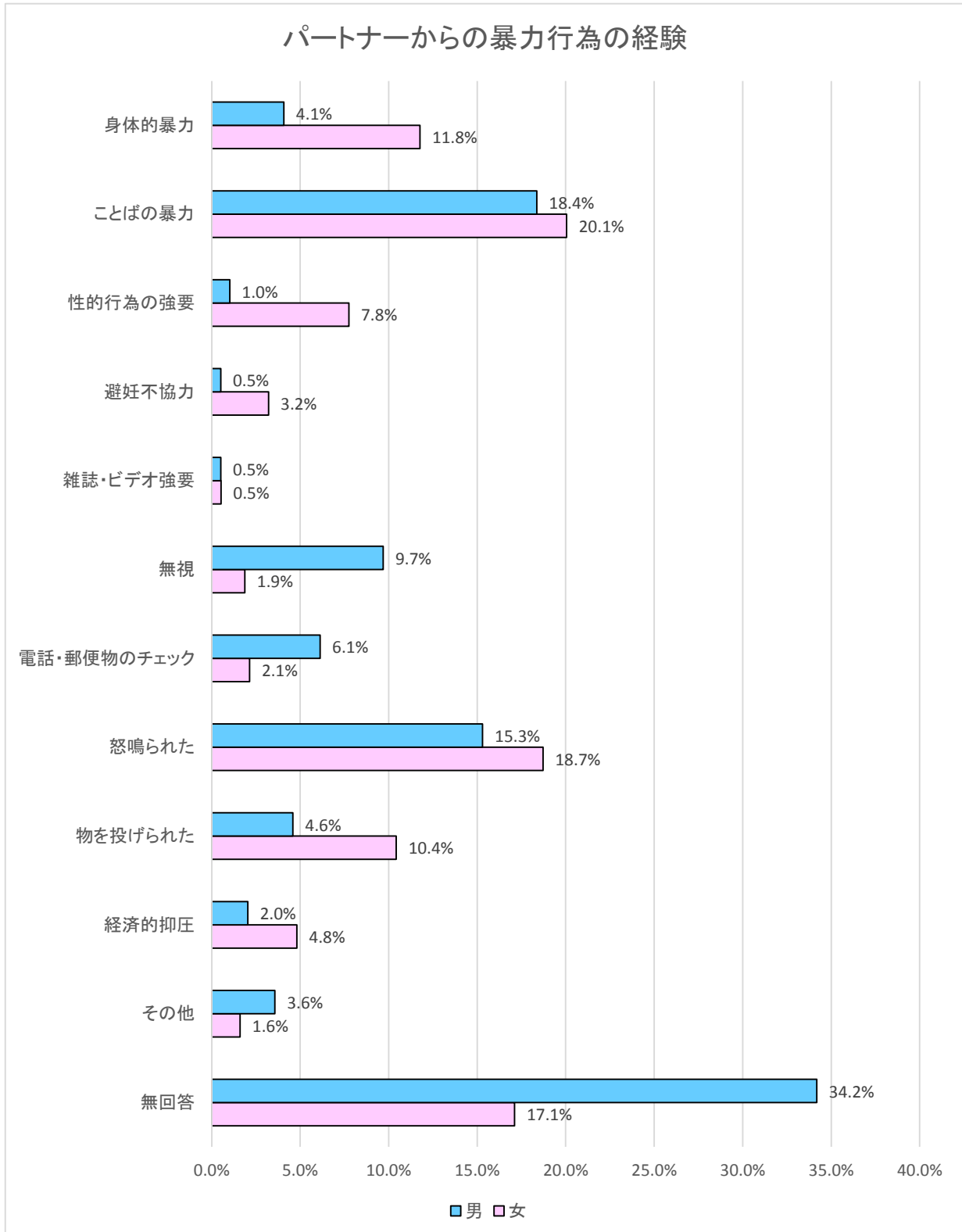
《平成18年度との比較》

「夫・妻・恋人からの身体への暴力」、「夫・妻・恋人からのことばの暴力」といった、夫婦や恋人間における人権侵害の考え方が大きく増加している。



問25 あなたはこれまで配偶者(事実婚や離別・死別を含む)や恋人などのパートナーから、次のような行為をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

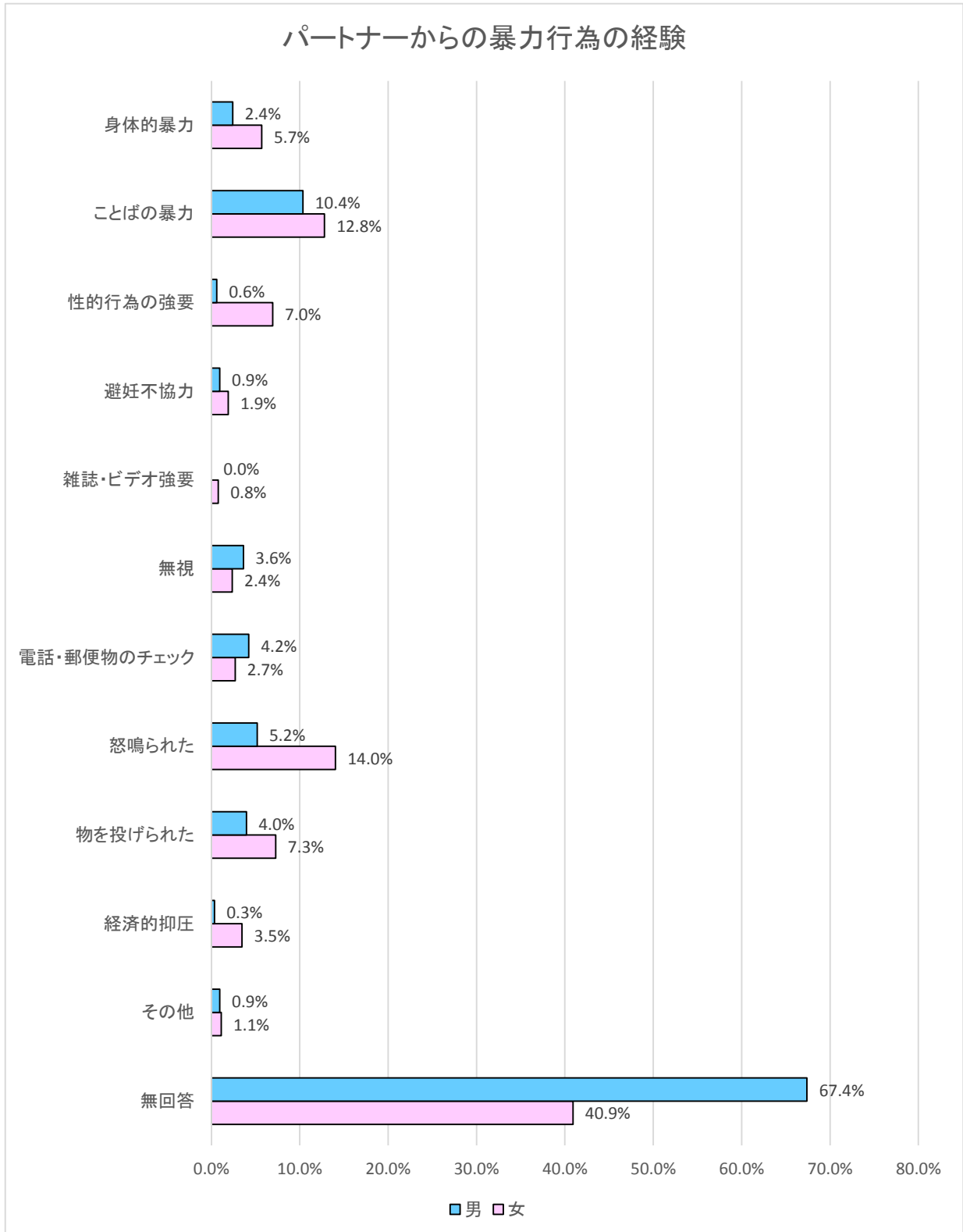
「無回答」(男性34.2%、女性17.1%)、「ことばの暴力を」(男性18.4%、女性20.1%)、「怒鳴られた」(男性15.3%、女性18.7%)の順に多い。なお、「されていない」という項目がないため、「無回答」のなかにはこのような暴力行為をされたことがない人も含まれていると思われる。



問25 H18年度アンケート結果

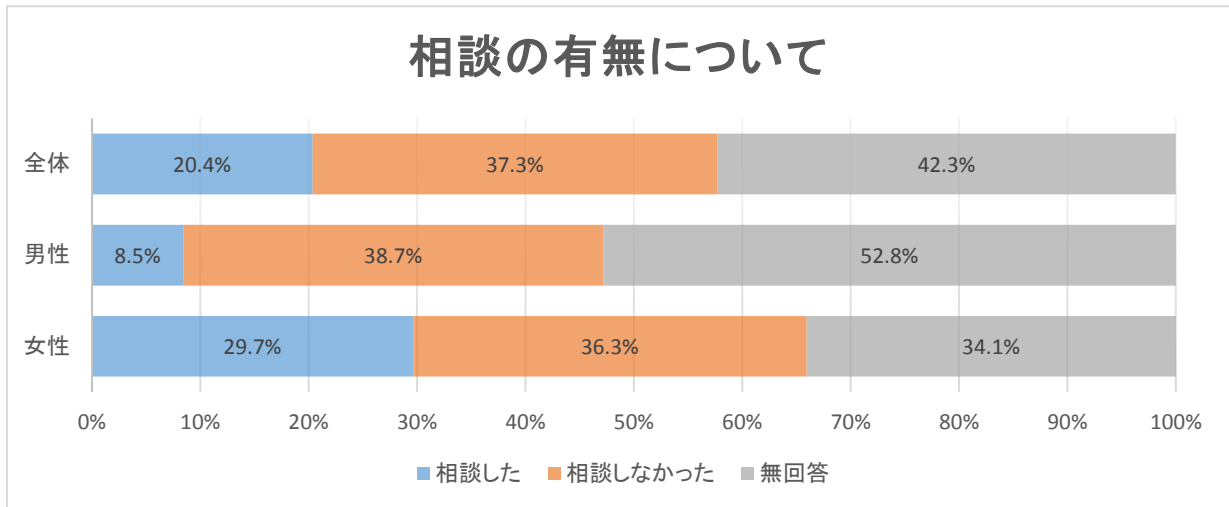
《平成18年度との比較》

多くの項目で、暴力行為をされた割合が増加した。なかでも「ことばの暴力」「怒鳴られた」といった回答の増加が目立つ。



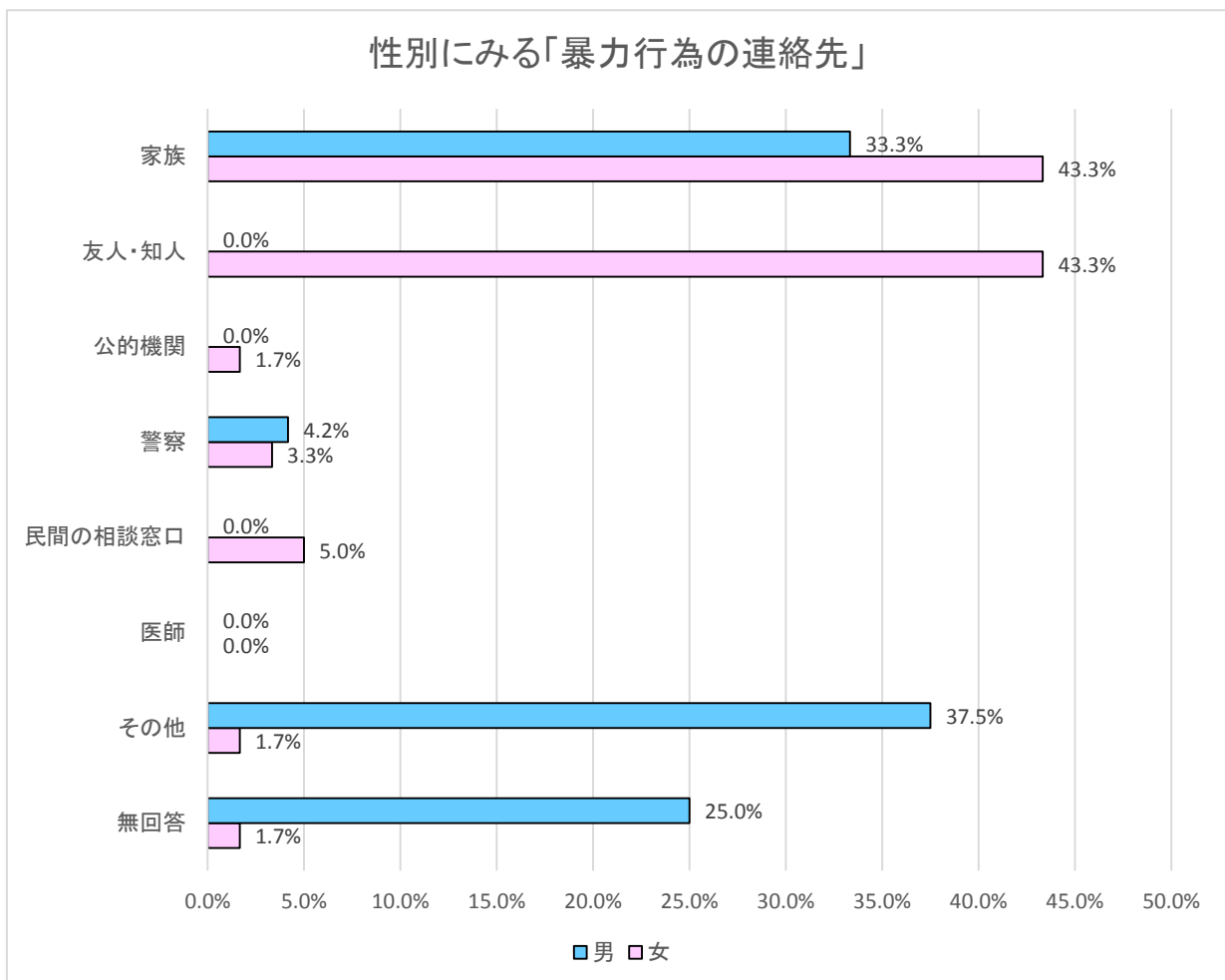
問26 そのことについて、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(1つに○)

「相談した」という回答は全体で約2割と少ないことがわかる。



問27-1 どこ(誰)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

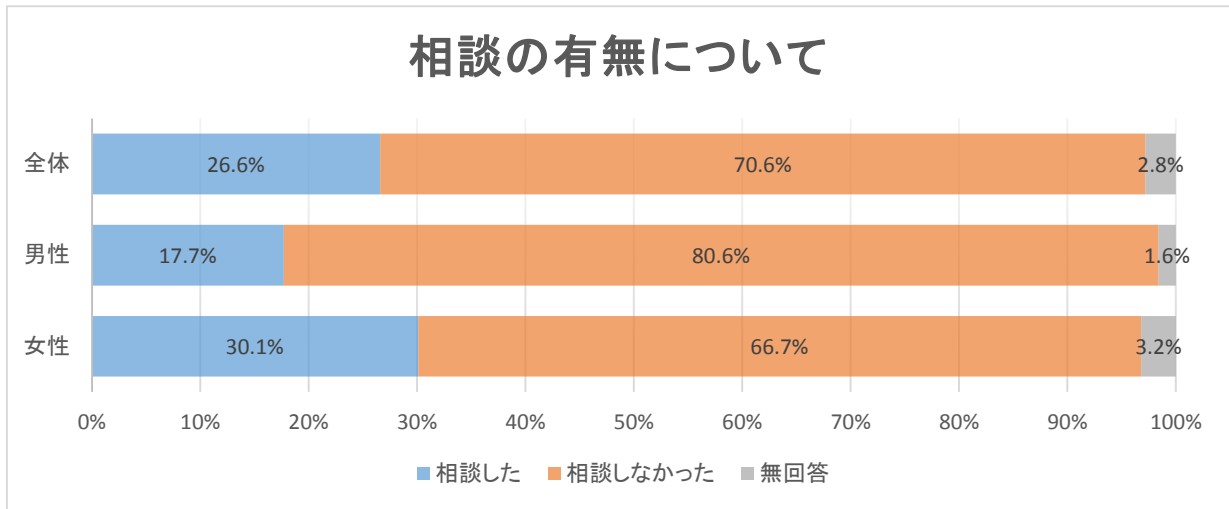
男性では、「その他」(37.5%)、「家族」(33.3%)、「無回答」(25.0%)の順。
女性では、「家族」と「友人・知人」が(43.3%)となっている。



問26 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

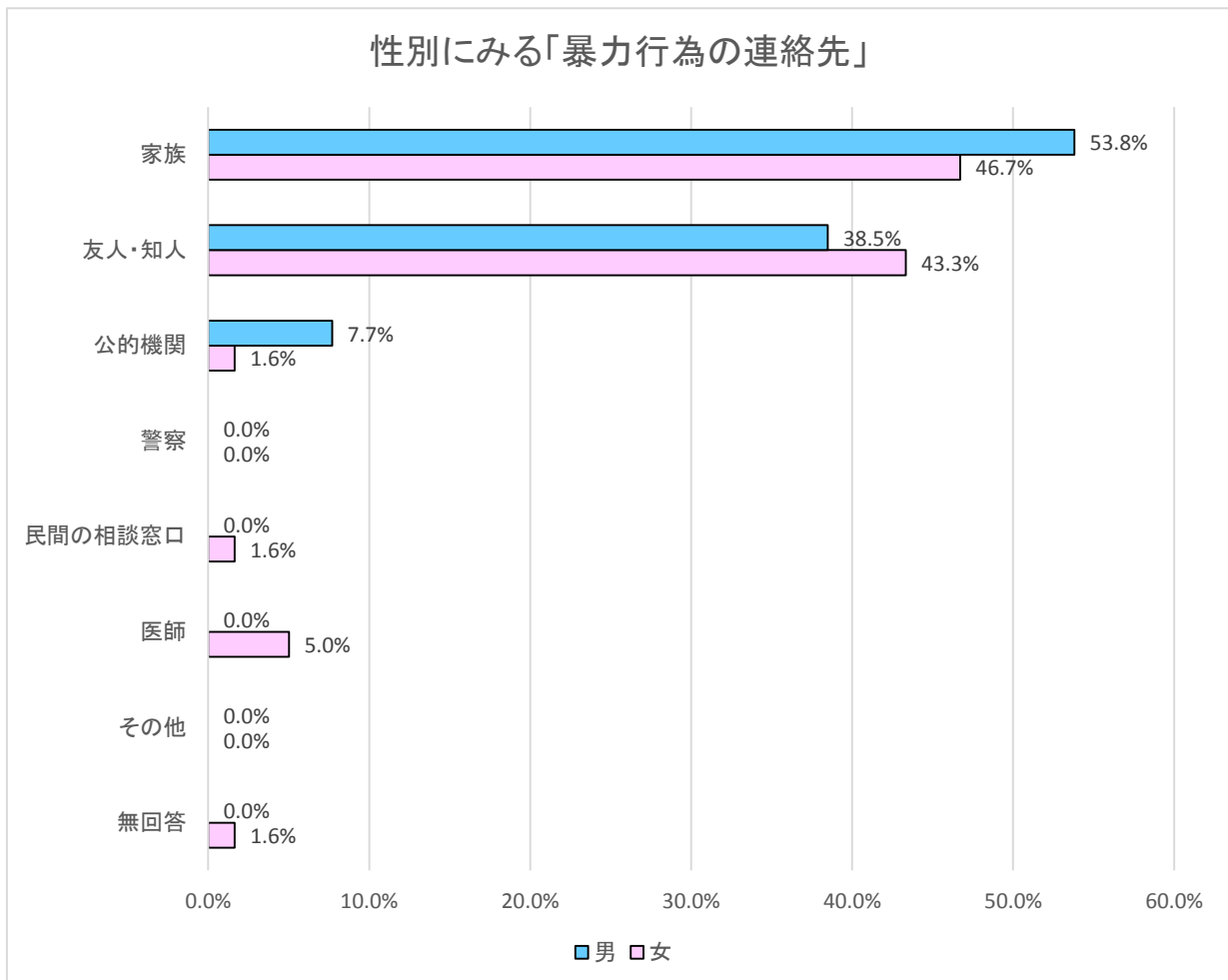
平成18年度と同様に「相談した」という回答は少ない。



問27-1 H18年度アンケート結果

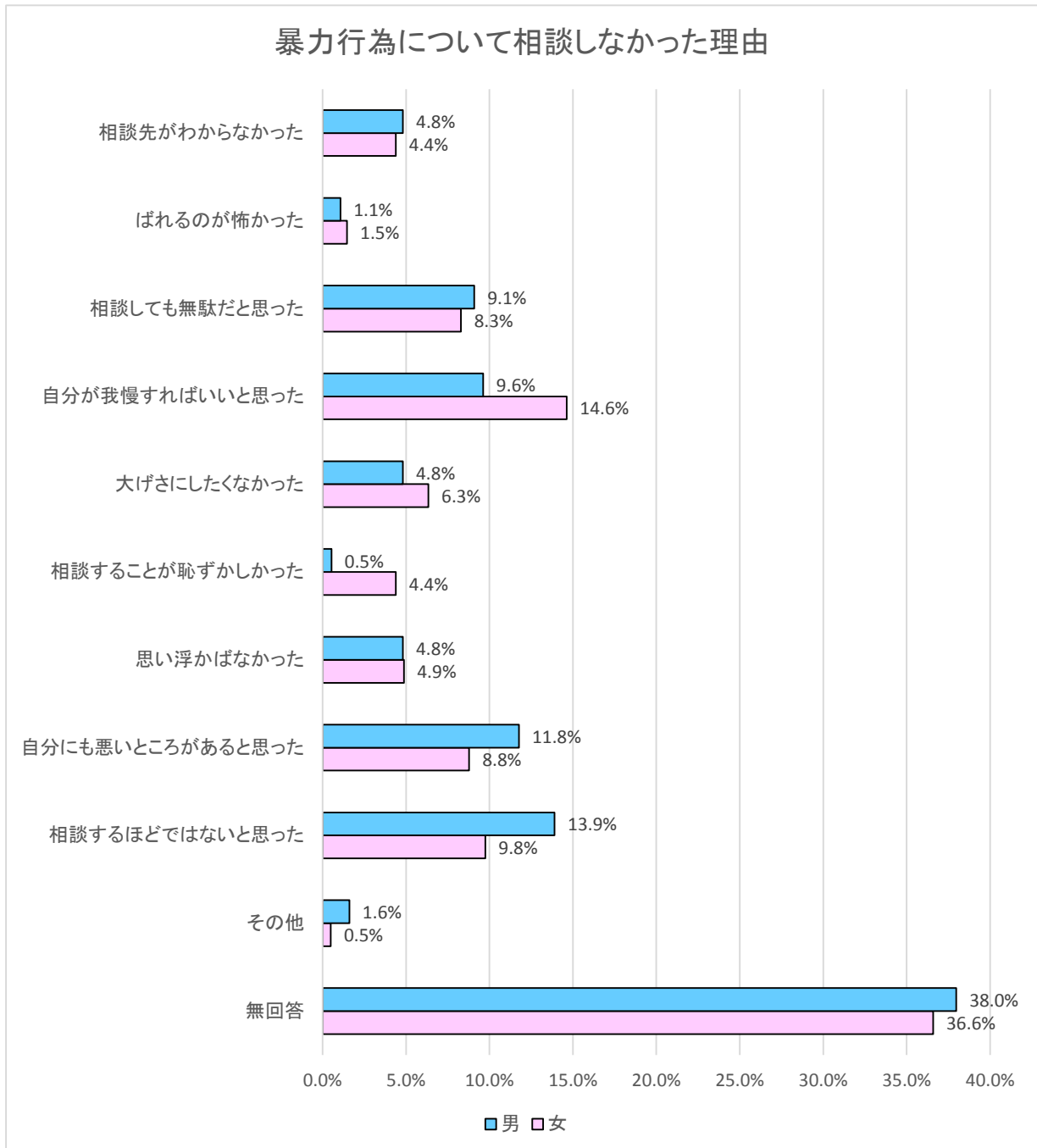
《平成18年度との比較》

今回の結果では、男性は「友人・知人」(0.0%)という結果になっている。



問27-2 相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

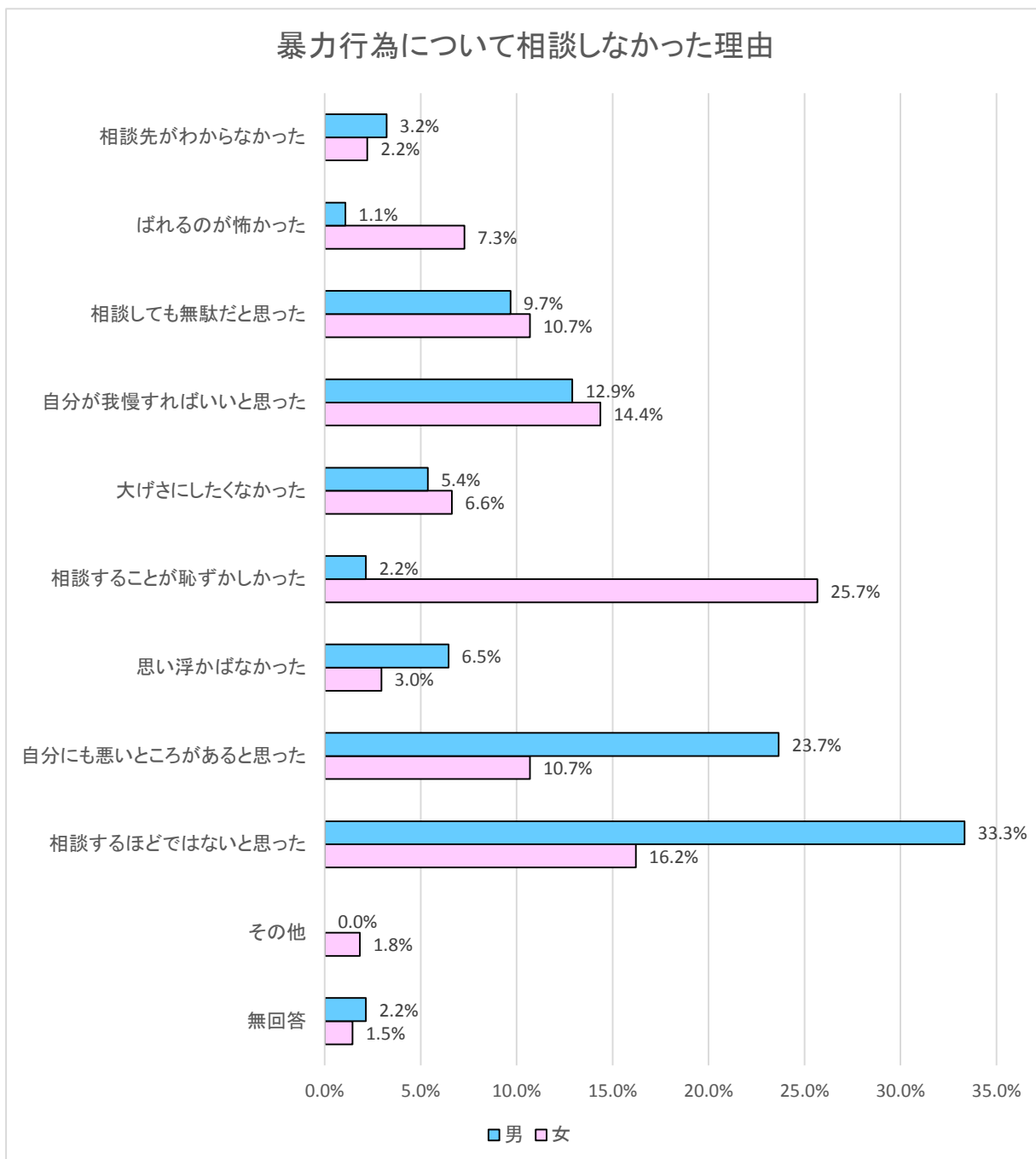
男女ともには、「無回答」(男性38.0%、女性36.6%)が1番多く、次いで男性は「相談するほどではないと思った」(13.9%)、「自分も悪い所があったと思った」(11.8%)、女性では「自分が我慢すればいいと思った」(14.6%)続く。



問27-2 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

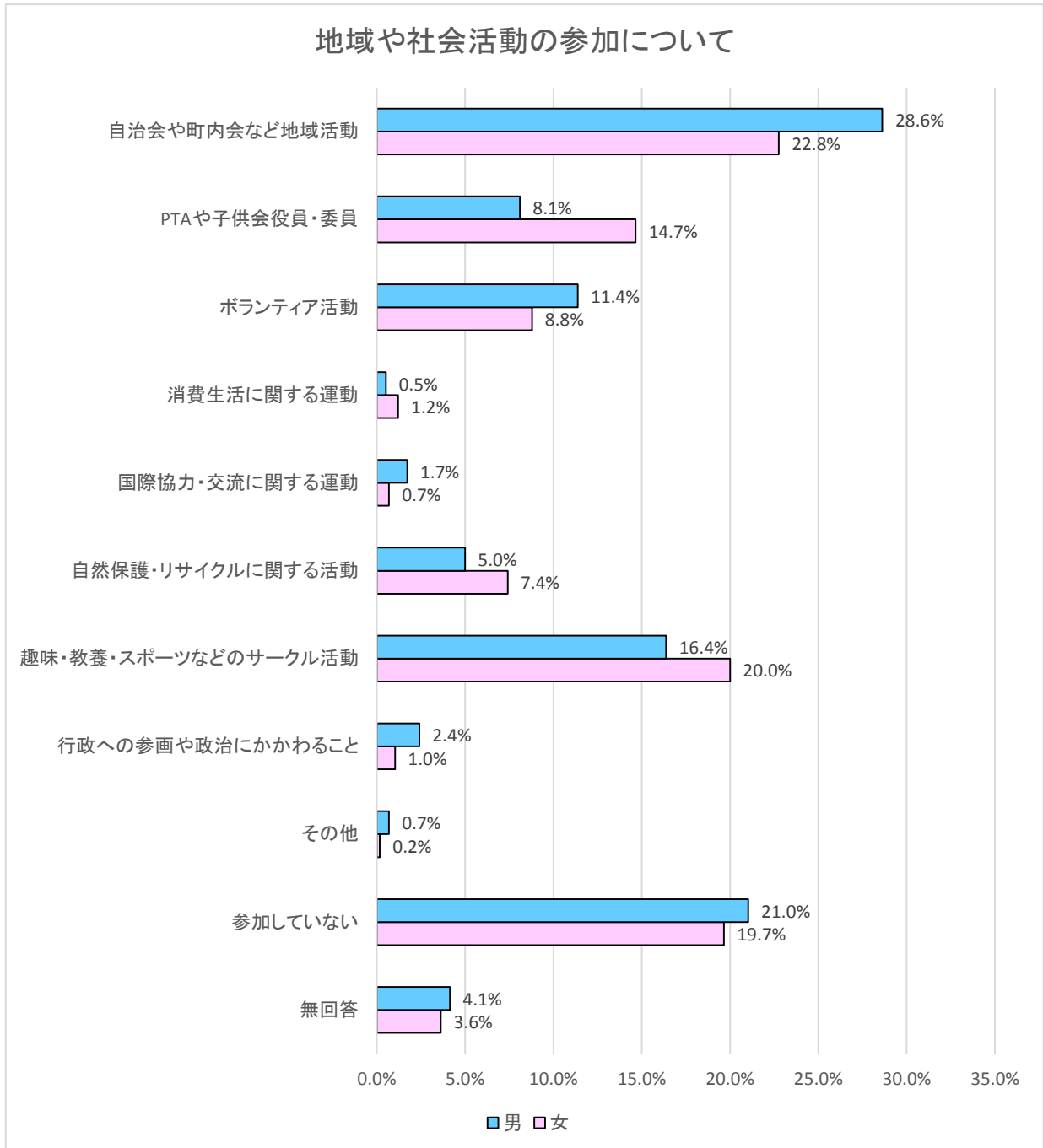
男性の「相談するほどではないと思った」「自分も悪い所があると思った」、女性の「相談することが恥ずかしかった」が大きく減少し、「無回答」が増加した。



6 地域・社会活動について

問28 あなたは、つぎのような地域や社会での活動に参加していますか。

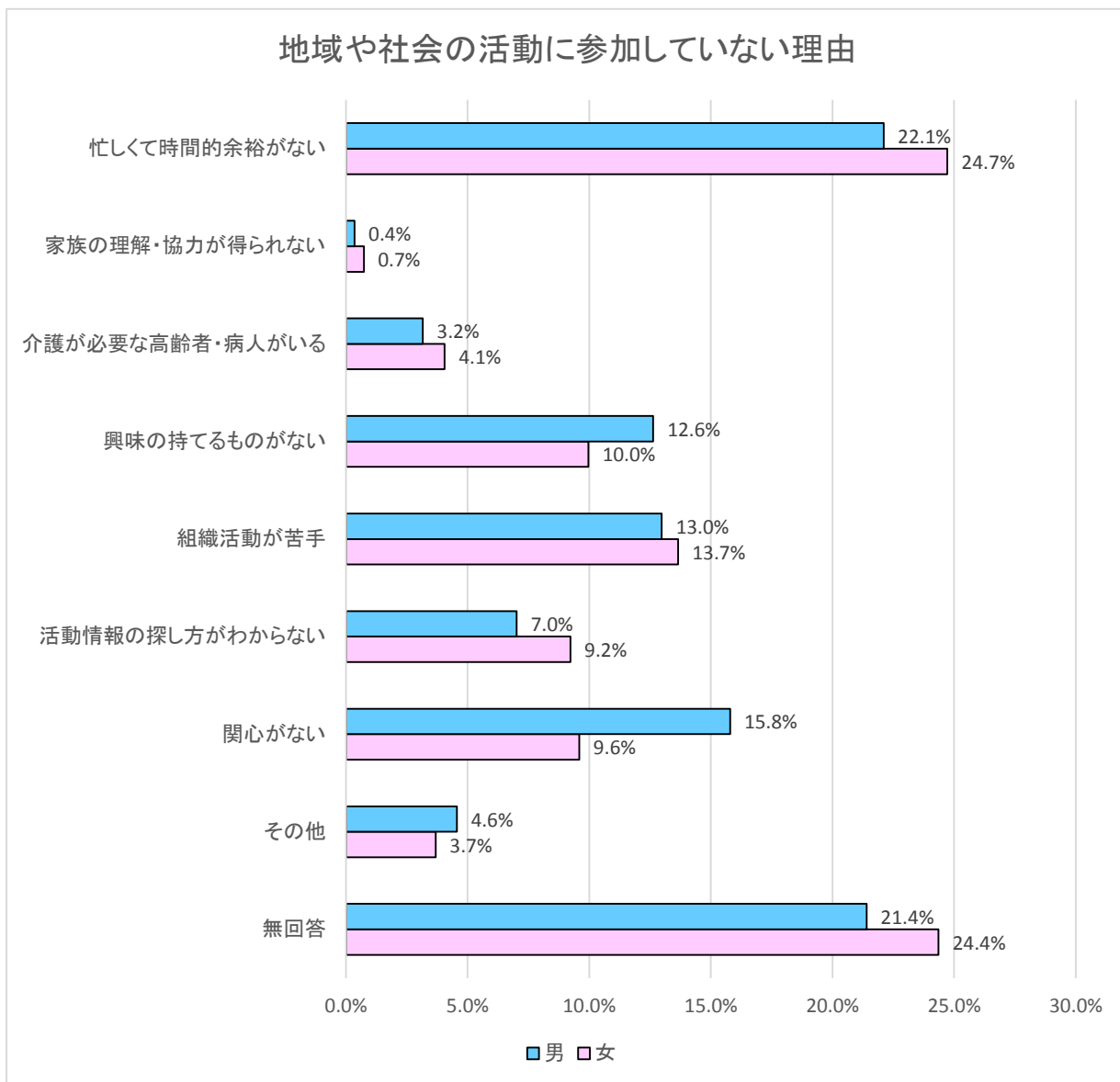
「自治会や町内会など地域活動」(男性28.6%、女性22.8%)、「趣味・教養・スポーツなどのサークル活動」(男性16.4%、女性20.0%)の順。
「参加していない」という回答も20%にのぼる。



【問28で「10 参加していない」とお答えの方におたずねします。】

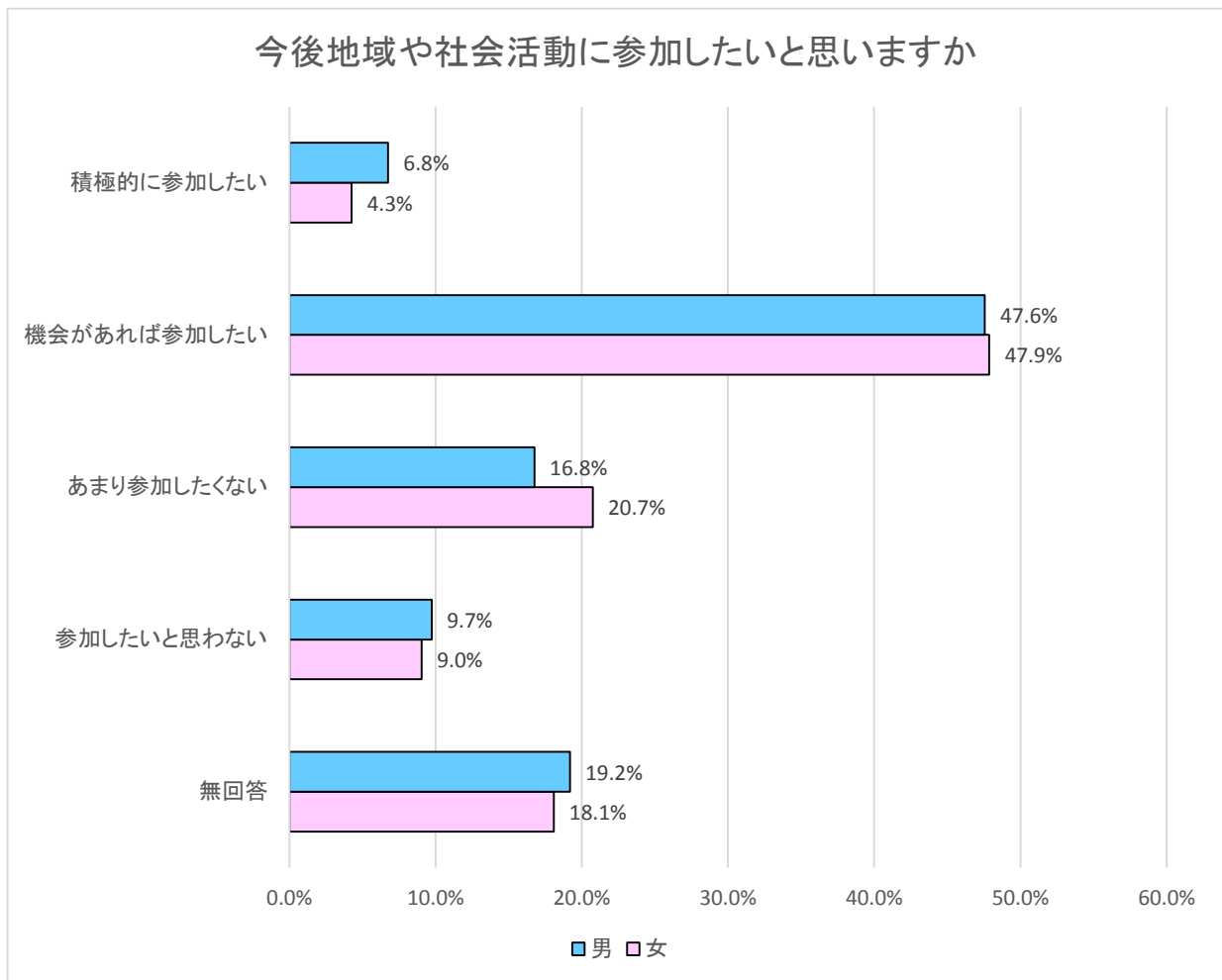
問29 あなたが、地域や社会活動に参加していない理由は何ですか。
(複数ある場合は3つまで○)

「忙しくて時間的余裕がない」(男性22.1%、女性24.7%)のほか、「興味もてるものがない」(男性12.6%、女性10.0%)、「関心がない」(男性15.8%、女性9.6%)、「組織活動が苦手」(男性13.0%、女性13.7%)という回答も多い。



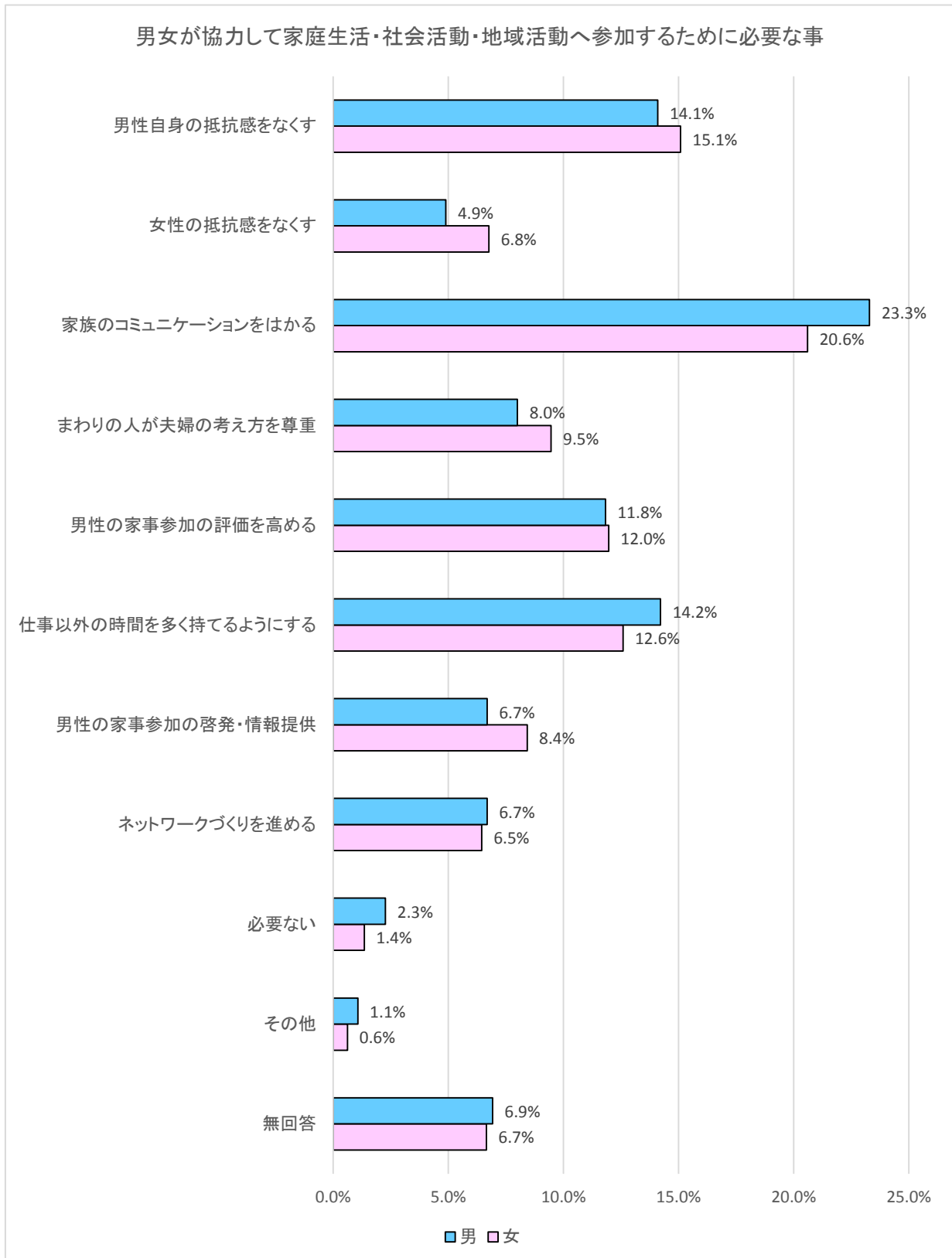
問30 あなたは、今後地域や社会の活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

「積極的に参加したい」(男性6.8%、女性4.3%)と「機会があれば参加したい」(男性47.6%、女性47.9%)をあわせると50%を超えるのに対して、「あまり参加したくない」(男性16.8%、女性20.7%)と「参加したいと思わない」(男性9.7%、女性9.0%)をあわせて約3割にのぼる。



問31 男女が協力して家庭生活や社会活動・地域活動へ積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女ともに、「家族のコミュニケーションをはかる」(男性23.3%、女性20.6%)の回答が1番多く、続いて「男性自身の抵抗感をなくす」(男性14.1%、女性15.1%)、「男性自身の抵抗感をなくす」(男性14.1%、女性15.1%)、「仕事以外の時間を多く持てるようにする」(男性14.2%、女性12.6%)の回答が多くなっています。

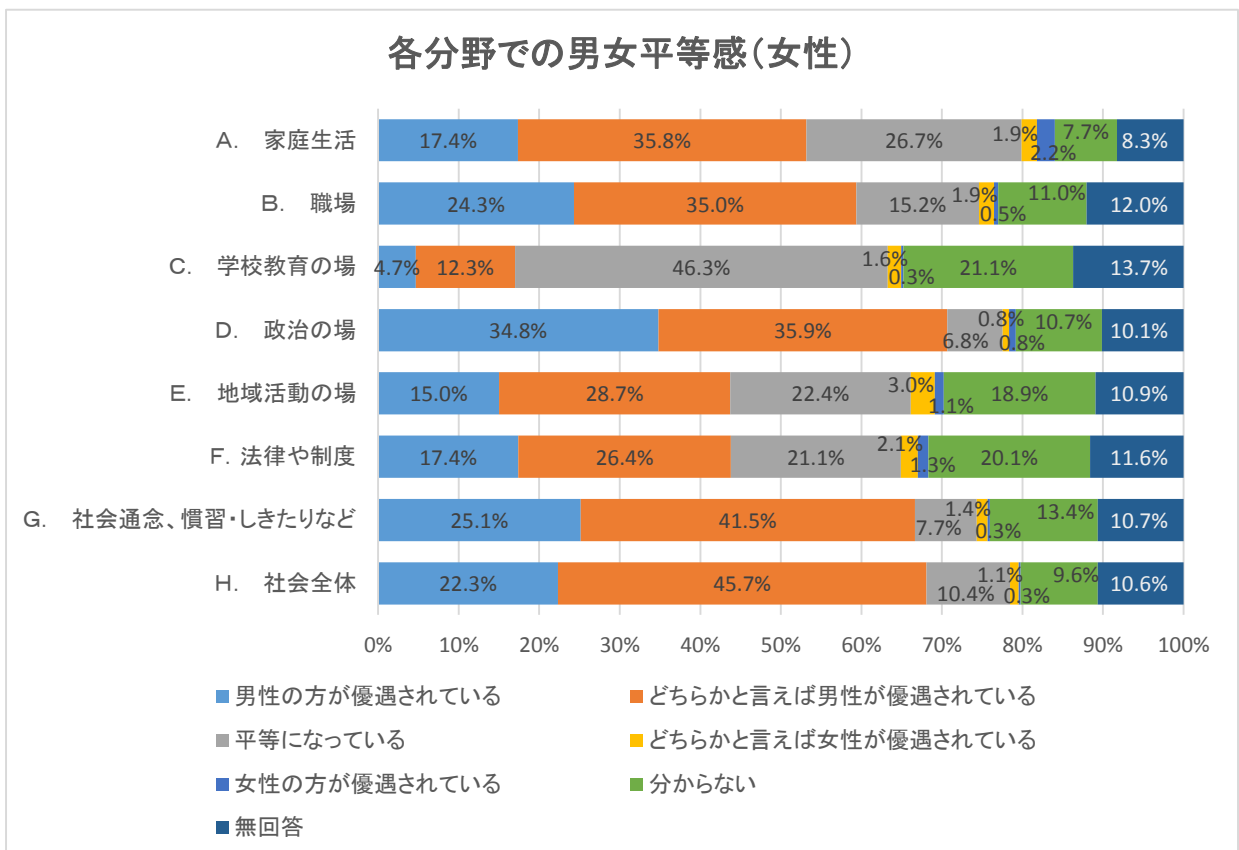
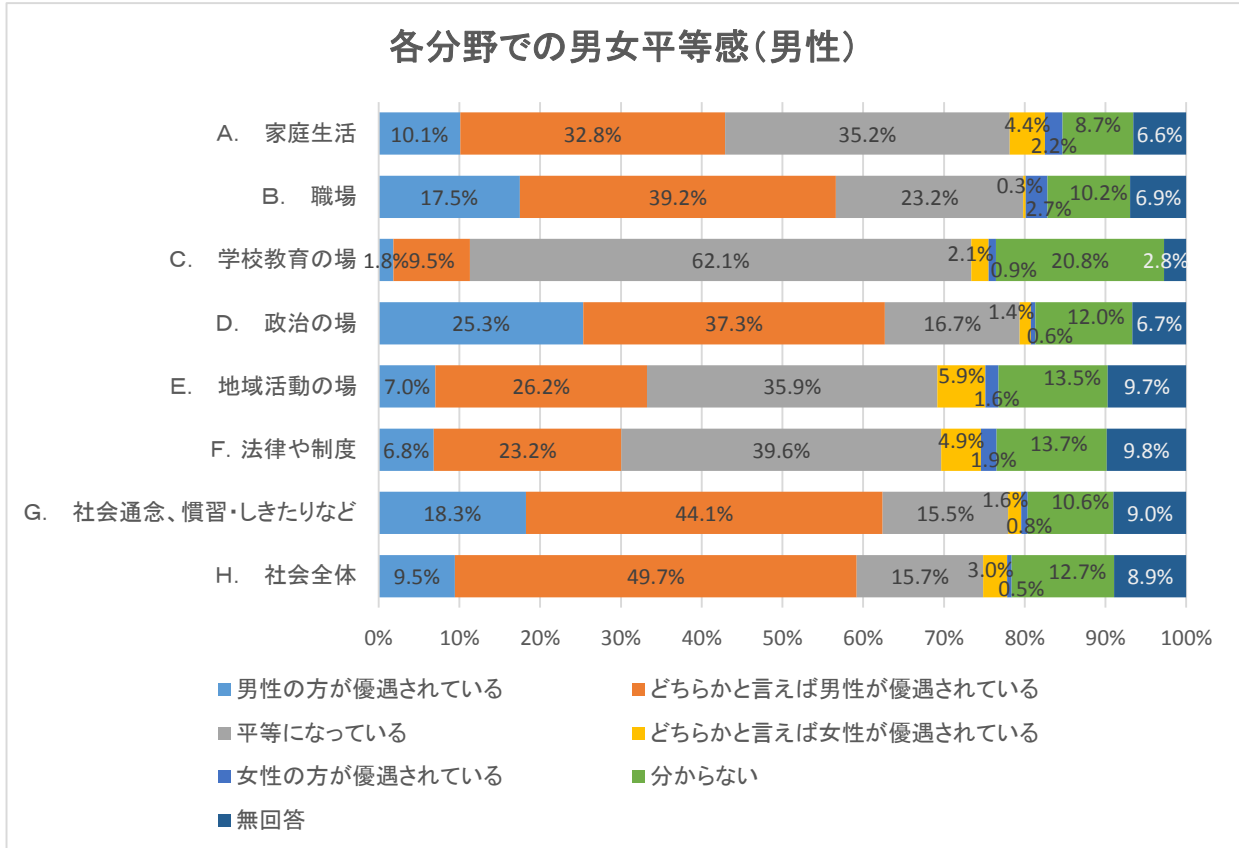


7 行政に期待すること

問32 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。
(A～Hのそれぞれについて、1～6の1つに○)

男女ともに、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた割合が過半数を占める項目は、「職場」(男性56.7%、女性59.3%)、「政治の場」(男性62.6%、女性70.7%)、「社会通念、習慣・しきたりなど」(男性62.4%、女性62.4%)、「社会全体」(男性59.2%、女性68.0%)である。

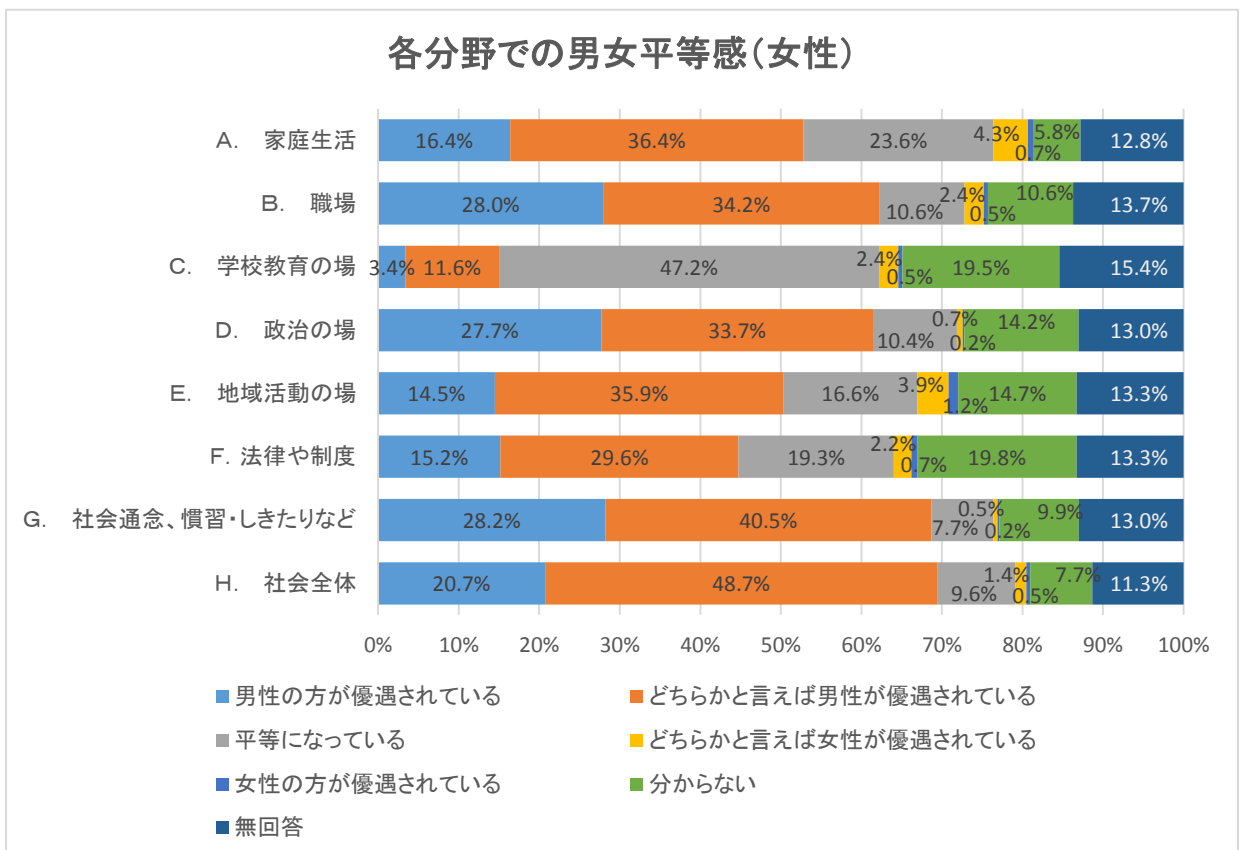
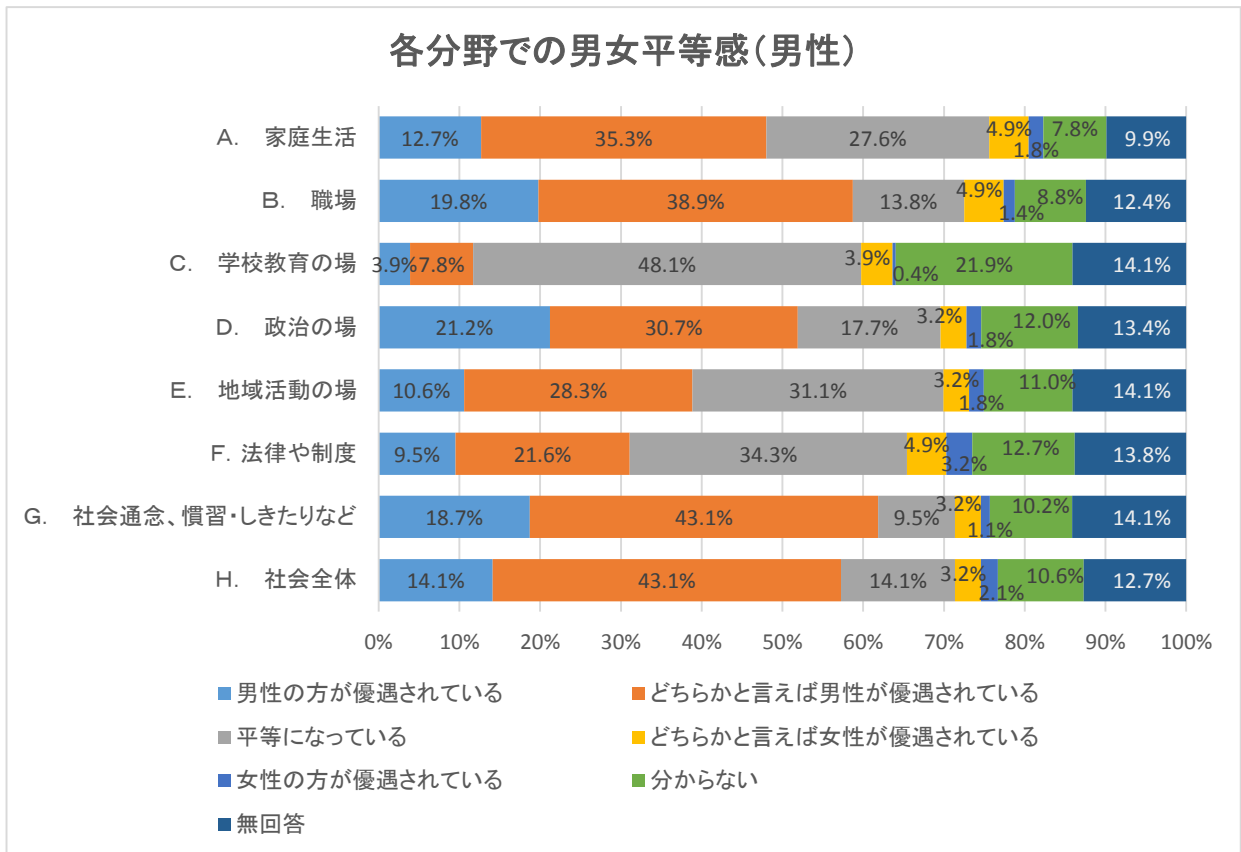
「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」では、すべての項目で10%に満たない。



問32 H18年度アンケート結果

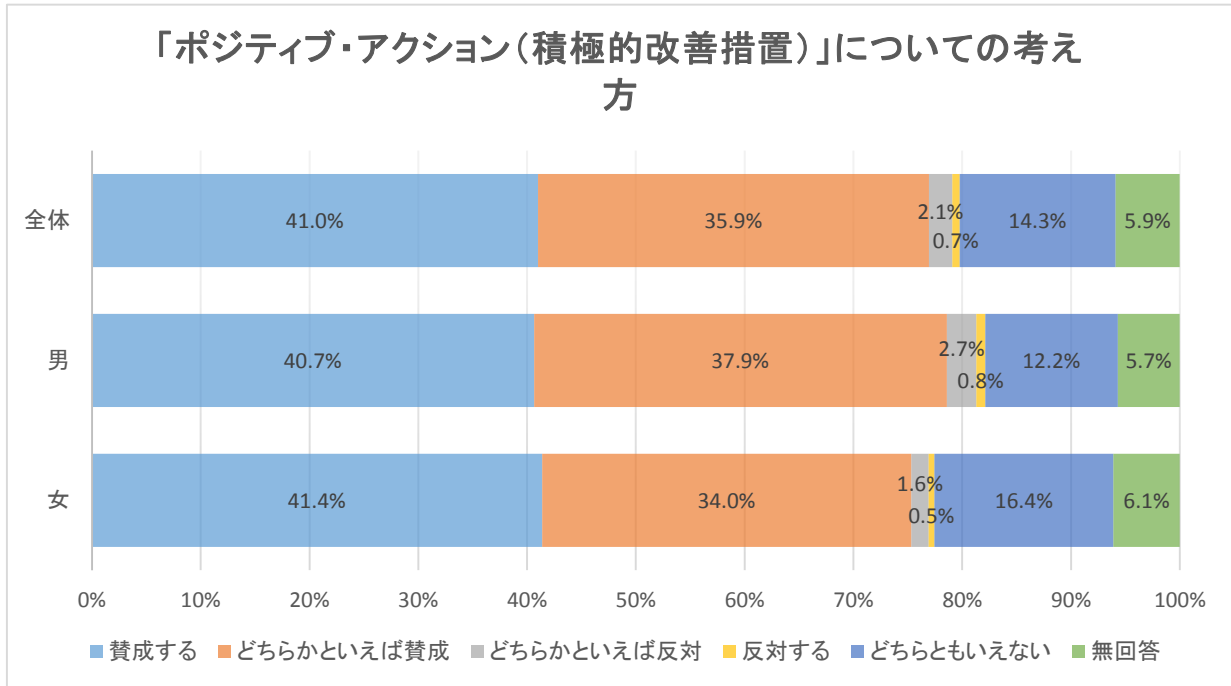
《平成18年度との比較》

平成18年度から大きな変化はなく、ほぼ同様の結果となった。



問33 女性の登用を計画的に進めていくことをポジティブ・アクション(積極的改善措置)といいます。このような取り組みを行うことについて、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

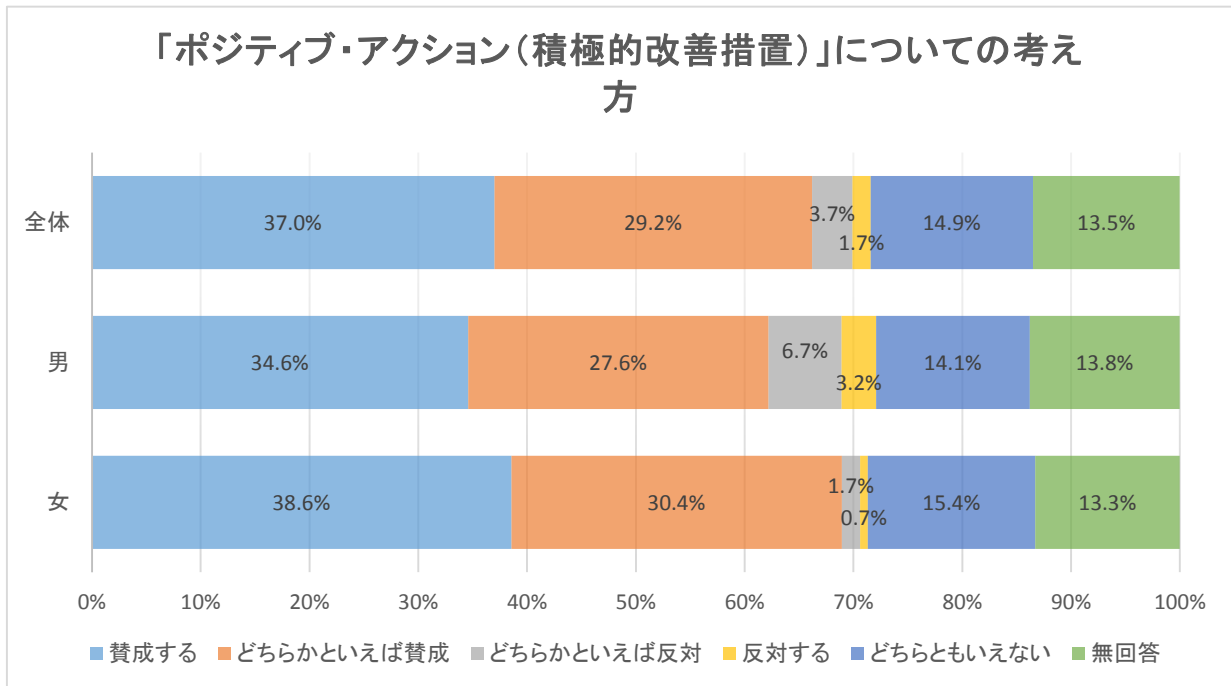
全体でみると、「賛成する」(41.0%)と「どちらかといえば賛成」(35.9%)をあわせると7割を超えているのに対し、「反対」(0.7%)、「どちらかといえば反対」(2.1%)との否定的な回答はごく少数で、肯定的な回答が多くなっている。



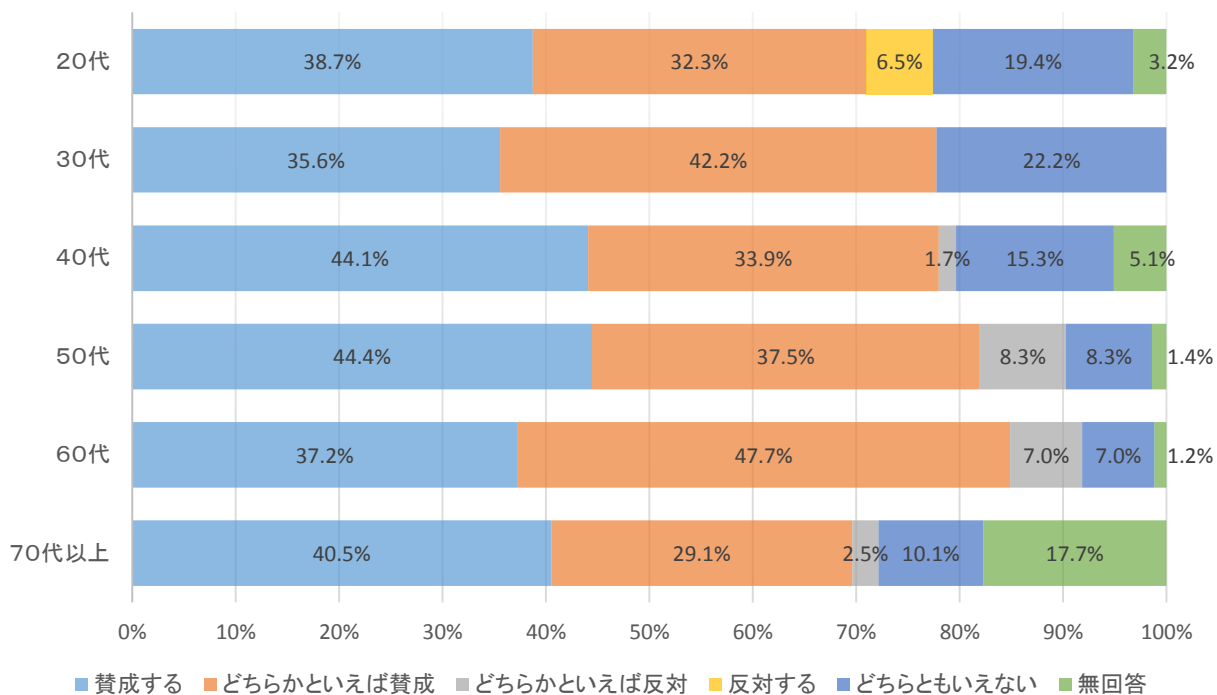
問33 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

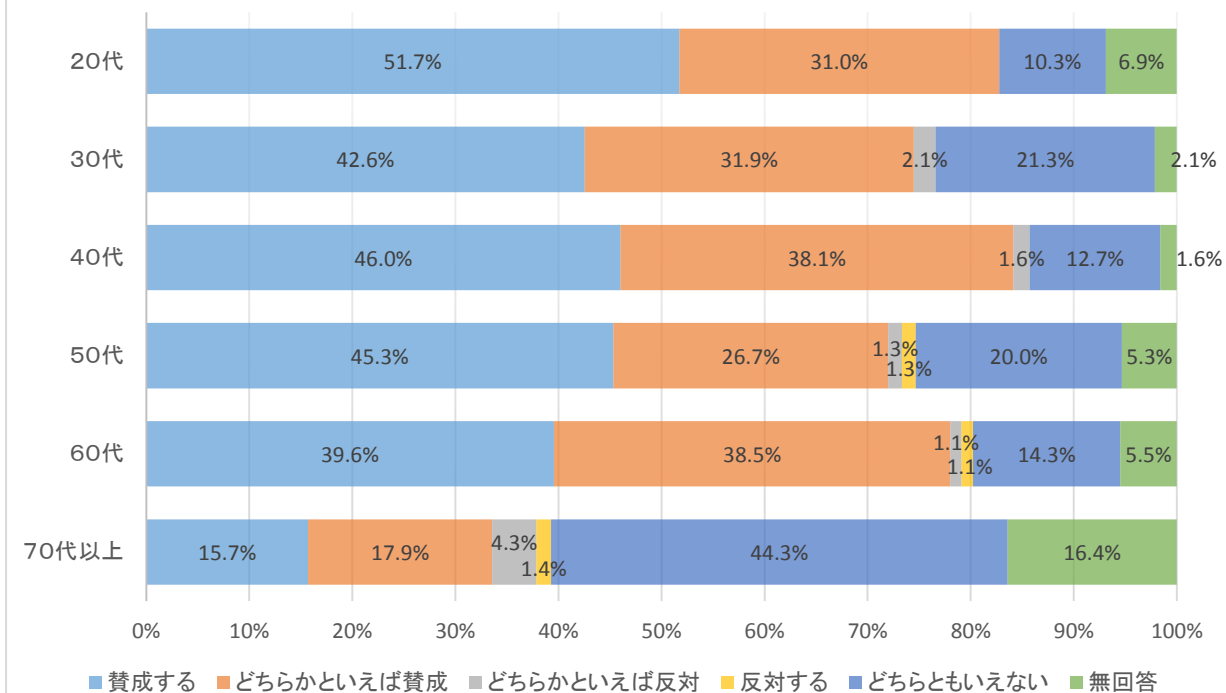
「賛成する」と「どちらかといえば賛成」をあわせた肯定的な回答は、平成18年度(66.2%)から(76.9%)と大幅に増加し、否定的な回答は、平成18年度(5.4%)から(2.9%)と減少していることから、ポジティブ・アクションに対する意識は、肯定的に推移している。



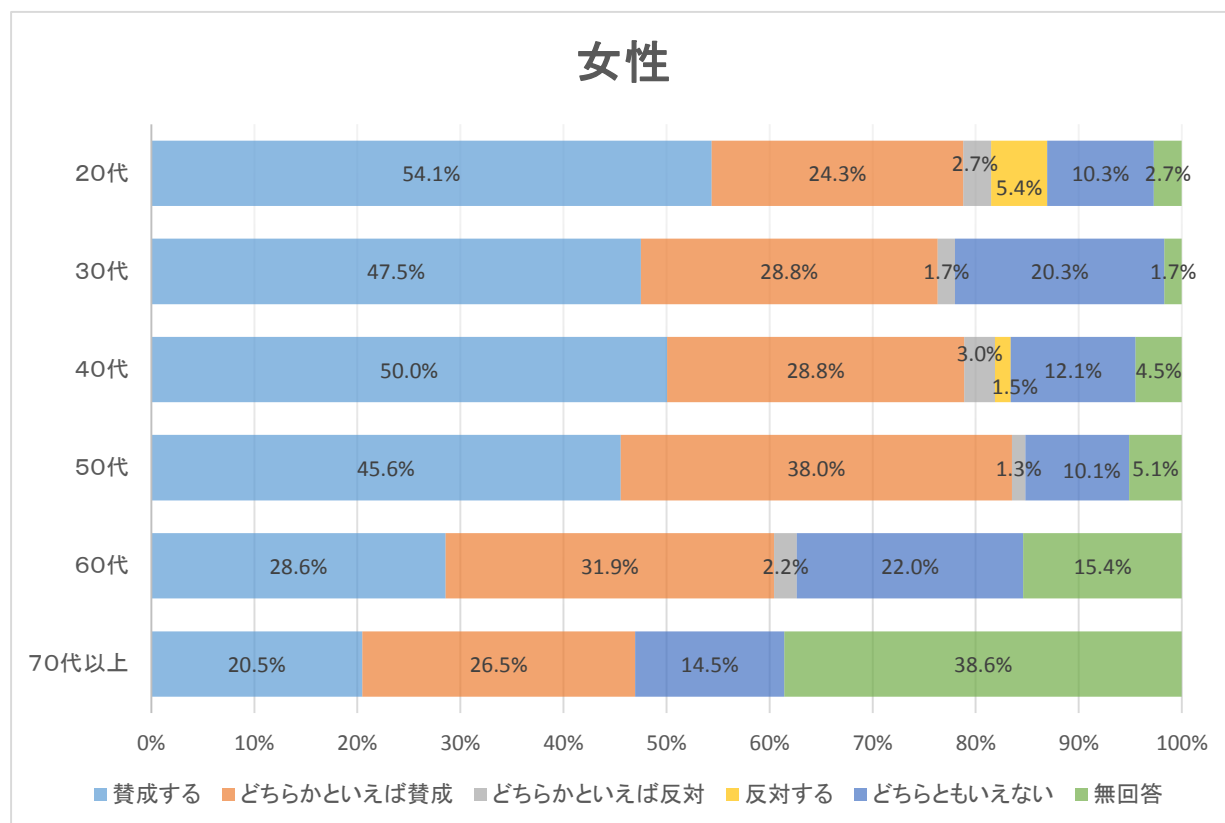
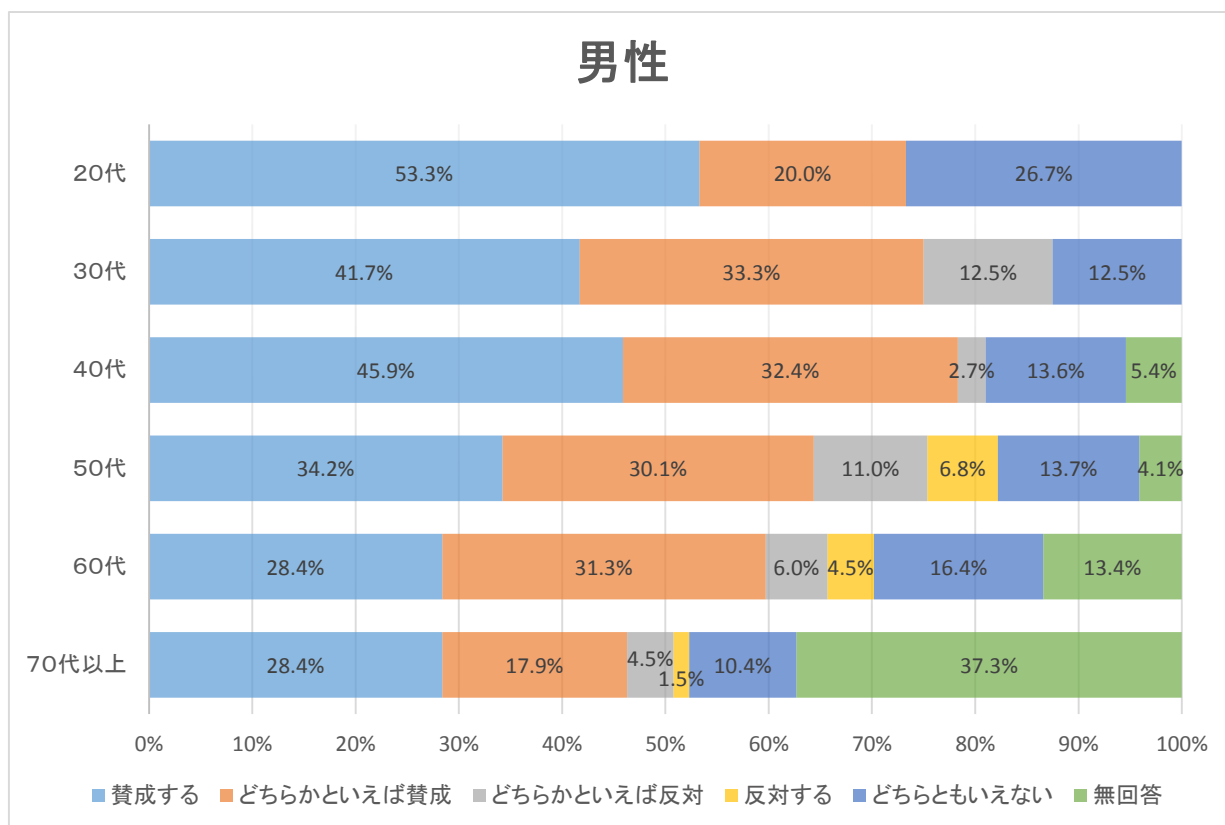
男性



女性

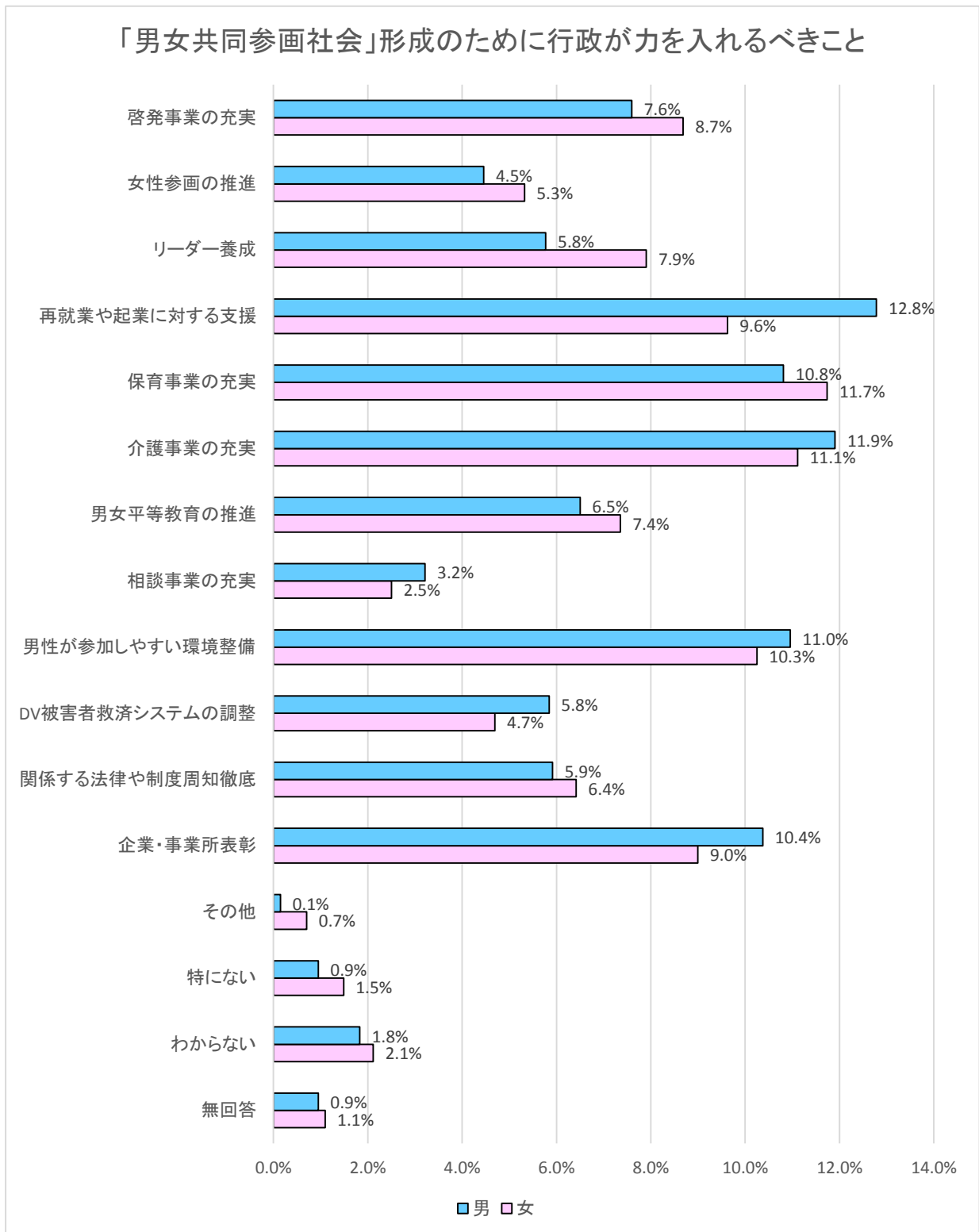


H18年度アンケート結果



問34 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「介護事業の充実」(男性11.9%、女性11.1%)の回答が1番多く、続いて「保育事業の充実」(男性10.8%、女性11.7%)、「再就業や起業に対する支援」(男性12.8%、女性9.6%)、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加しやすい環境整備」(男性11.0%、女性10.3%)の回答が多くなっている。



問34 H18年度アンケート結果

《平成18年度との比較》

平成18年度には、「再就業や起業に対する支援」(男性8.2%、女性12.6%)、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加しやすい環境整備」(男性10.3%、女性13.1%)といった男女差の大きい項目が見受けられたが、今回はそういった項目は少なく、性別による意識の違いは小さくなっていると考えられる。

